

公表日 平成23年9月1日
最新更新日 平成23年9月1日

授業計画

平成23年度

Syllabus 2011

生涯福祉学部 社会福祉学科

専門教育科目

教職に関する科目

生涯福祉学部

社会福祉学科

専門教育科目

教職に関する科目

教育目標

I 教育目標

生涯福祉学部社会福祉学科は、基本的人権と社会正義の尊重を基礎とした地球規模のソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、個人とそれを取り巻く社会環境との相互作用を理解して、人々とその環境に働きかけることにより家族や地域の福祉力を高めるソーシャルワーカーを養成するとともに福祉社会の一翼を担う市民の育成をめざします。

II 学習の流れ

〈1年次〉専門科目を学ぶための土台づくりです。教養科目によりソーシャルワーカーとしての価値の判断の基準となる知識を身につけ、必修科目の「人間の生物学的機能と反応」、「人間の心理・社会的機能と支援」、「社会理論と社会システム」により、人とそれを取り巻く環境との相互作用についての理解を深めます。「現代社会と福祉ⅠⅡ」により社会福祉の体系や基本の知識を学びます。

〈2年次〉本格的に社会福祉の専門学習が始まります。福祉サービスの基礎となる「社会保障論ⅠⅡ」、そして各サービスを体系的に学びます。1年で学んだ基礎となる知識、2年でのサービスの知識を踏まえ、「ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ」により、知識を実践につなげます。専門コース科目も登場し、例えば心理福祉コースでは「臨床心理学」など重要な科目があります。「演習Ⅱ」では、コミュニティアワーとして地域をテキストとして学ぶ体験をします。

〈3年次〉3年次ではⅡ期の「ソーシャルワーク実習」が、学んだ知識と現場の実際とを統合する最も重要な科目です。実習に出向くために1年次より準備します。社会福祉の体系やサービスの知識を土台とし、「ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ」及び、「ソーシャルワーク演習ⅠⅡ」（3年次ゼミ）を中心に実習に繋げます。専門コース科目では「精神保健学ⅠⅡ」など精神保健・医療福祉コースの主要科目があります。

〈4年次〉学びの集大成です。「ソーシャルワーク演習Ⅲ」により実習を深化させ、「卒業演習」（4年次ゼミ）で個々の関心に応じテーマを選び卒業研究を行います。理論と実践を統合、社会福祉学の理解を深めるとともにソーシャルワーカーの専門性を自覚します。

III コース選択と資格取得 ※ 2年次からは3つのコースに分かれて学習します

○**総合福祉コース**は、地域福祉を軸に、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、福祉教育など幅広い分野で活躍するソーシャルワーカーをめざします。卒業後は社会福祉士の国家試験受験資格と希望者は高等学校教諭（福祉）の免許資格を取得することができます。

○**精神保健・医療福祉コース**は、ソーシャルワーカーの知識・技術を土台に、精神障害者や医療・保健機関の利用者に対して、生活問題の解決を支援する精神科ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーをめざします。卒業後は社会福祉士、及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができます。

○**心理福祉コース**は、人間の行動や心の働きの理解を深め、科学的にみる姿勢を養うことにより、人の心の問題をケアできるソーシャルワーカーをめざします。卒業後は社会福祉士の国家試験受験資格と認定心理士の資格が取得できます。

平成 23 年度
(2011 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度(2011年度) 入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門	法学	講義		2				2								今井 俊介	7	
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2				2								(森田 義宏)	8	
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2					2									
	生涯学習論	講義		2				2								吉原 恵子	9	
	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◇		2								[久野 克也]	10	
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇		2								北島 律之	11	
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇		2								吉原 恵子	12	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					2								
	美と感性	講義		2				2									浜島 成嘉	13
	ライフデザイン論	講義		2									2					
	行政法	講義		2					2								今井 俊介	14
	基 礎 教 育	家族社会学	講義		2					2								
		家族福祉論	講義		2						2							
発達心理学		講義		2			▲		2									
人間関係論		講義		2						2								
親子関係の心理学		講義		2							2							
健康心理学		講義		2						2								
集団心理学		講義		2							2							
社会心理学		講義		2					2								北島 律之	15
コミュニケーション心理学Ⅰ		講義		2						2								
コミュニケーション心理学Ⅱ		講義		2							2							
教育心理学		講義		2			△			2								
ライフステージと健康		講義		2									2					
食文化論		講義		2					2								不開講	
食生活論		講義		2					2								(福本)・[仲川]	16
専 門 目 的	レクリエーションワークⅠ	講義		2				2									[井上 眞美子]	17
	レクリエーションワークⅡ	講義		2				2									[井上 眞美子]	18
	演習Ⅰ	演習	4					4									稲富・田端・吉原	19~21
	演習Ⅱ	演習	6							6								
	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△	2									牧田 満知子	22
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△	2									牧田 満知子	23
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇			2									
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇				2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○		△	2									牧田 満知子	24
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義	2		○		△	2									牧田 満知子	25
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	2		○		△		2									
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義	2		○		△		2									
	コ ア 目 的	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○	◇				2							
		地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義	2		○	◇					2						
低所得者に対する支援と生活保護制度		講義	2		○	◇					2							
就労支援の制度とサービス		講義	2		○						2							
権利擁護と成年後見制度		講義	2		○	◇					2							
ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ		講義	4		○	◇	△			4								
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ		講義	4		○	◇	△				4							
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		実習	1		○		△	2									田端・高橋・井上	26
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		実習	1		○		△				2							
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		実習	1		○		△					2						
社会調査の基盤		講義	2		○			2									田端 和彦	27
社会調査の応用		講義	2					2									田端 和彦	28

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	高 等 学 校 教 諭	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△				2							
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△				4							
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△					4						
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2		○		△						2					
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△						12					
	地域経済論	講義		2								2						
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇							2					
	福祉工学	講義		2										2				
	まちづくり論	講義		2									2					
	国際福祉論	講義		2											2			
	スクールソーシャルワーク	講義		2											2			
	更生保護制度	講義		1	○									1				
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○										2			
	インターンシップ	実習		4											12			
社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2							②		②		②		②	稲富・村上・田端・牧田 29	
社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2								②		②		②		②	稲富・村上・田端・牧田 30
教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇							2					
	応用医療福祉論	講義		2										2				
	精神保健福祉論	講義		6							6							
	精神医学Ⅰ	講義		2		◇				2								
	精神医学Ⅱ	講義		2		◇					2							
	精神保健学Ⅰ	講義		2		◇						2						
	精神保健学Ⅱ	講義		2		◇							2					
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2									2					
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2										2				
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義		2									2					
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義		2										2				
	精神保健福祉援助演習	演習		4		◇							4					
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇									12			
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2				△						2				
	認知心理学	講義		2								2						
	心理統計学	講義		2									2					
	臨床心理学	講義		2									2					
	心理測定法	講義		2									2					
	心理学基礎実験	実験		2										4				
	心理療法Ⅰ	講義		2									2					
	心理療法Ⅱ	講義		2										2				
	心理検査法実習	実習		2										4				
行動分析論	講義		2											2				
心理カウンセリング演習	演習		2												2			
加齢及び障害に関する理解	講義		2				△							2				
色彩論	講義		2											2				
社会福祉特別演習	演習		4											4				
卒業演習	演習		4											4				

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				△	2									[上寺 常和]	31
	教育原理	講義	2				△	2									(廣岡 義之)	32
	教育制度論	講義	2				△	2									(廣岡 義之)	33
	教育課程論	講義	2				△			2								
	福祉科教育法	講義	4				△				4							
	特別活動論	講義	2				△			2								
	教育方法・技術論	講義	2				△			2								
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2				△			2								
	教育相談（含カウンセリング）	講義	2				△	2									琴浦 志津	34
	事前・事後指導	演習	1				△					1						
	高等学校教育実習	実習	2				△						4					
教職実践演習（高）	演習	2				△							2					

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
- ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

《専門基礎科目》

科目名	法学				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

講義形式を基本とするが、時には例題を掲げて討論方式をもミックスしてみたい。ニュースを賑わす事例はもとより、身近で卑近な例（年金、食品偽装、労働者派遣、家族殺人、教科書問題、サラ金地獄など）を取り上げ関心を呼び起こしたい。

《授業の到達目標》

社会規範としての法の存在、価値を自覚させ、国家の基本構造、国民生活の基本公序としての憲法を理解する。次いで民法の主要部分を解説し、私法秩序の要点を理解する。さらに刑事、労働、社会保障法の分野の概略を説明し、裁判員制度の解説で締めくくる。極力具体的事例を挙げて法と社会の連結の関心を深めるようにする。国家試験合格の水準を目指したい。

《テキスト》

特に指定しない

《参考文献》

その都度指定する。資料等はコピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが(80%)、中間にレポートを提出させペーパーテストの一部に補充することがある(20%以内)。

《授業時間外学習》

今日の社会はある程度の法的素養が無ければ安全に渡りることができません。幸い法的素材はいたるところに散在しています。これらを地道に収集していけば大きな財産となります。ニュースはもとより色々な面に配意し法的問題を探し当ててください。それを法学の学習に還元してください。

《備考》

法学の学習には、隣接諸科学特に政治学、経済学、社会学、心理学等々の広範な知識と理解が要請される。極力そのような講義を聴いて欲しい。また日々の新聞、テレビ、ラジオのニュースや解説に触れて欲しい。なお受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	法学の基礎知識 (社会あるところに法あり 法と道徳)
第 2 週	日本国憲法 (総論・国民生活と憲法—基本原理 憲法前文)
第 3 週	基本的人権 (1 総論—現代社会と人権 その歴史)
第 4 週	〃 (2 各論—自由権的基本権と生存的基本権)
第 5 週	民法 (総則—法律行為、代理、時効)
第 6 週	〃 (物 権—物権変動、対抗要件)
第 7 週	〃 (契 約—現代社会における契約の機能・・売買、賃貸借)
第 8 週	〃 (不法行為—その機能と態様 国家賠償責任)
第 9 週	〃 (親 族・相 続—現代社会における家族法の機能と役割)
第 10 週	行政と法 (情報公開、個人情報保護、行政救済)
第 11 週	犯罪と刑罰 (刑事実体法と手続法の概観、被害者の訴訟手続参加等新しい潮流)
第 12 週	労働と法 (労働者派遣制度の解説 採用内定解約等の問題)
第 13 週	社会保障と法 (社会保障法体系の概観 福祉を取巻く法律問題)
第 14 週	裁判員制度について (制度の概観 運用上の問題点)
第 15 週	補充説明・まとめと質疑応答

《専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学 I				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

発達とは何か、発達に及ぼす環境の影響について学ぶ。さらに乳幼児期から児童期までの年齢段階ごとの発達の様相や課題について学ぶ、それぞれの年齢段階固有の発達上の問題について学び、発達支援の基礎的知識を得る。
 発達概念、発達の理論、発達と環境、乳児期・幼児期・児童期の発達の過程と様相、各発達段階における課題と問題、発達障害などその支援などをとりあげる。

《授業の到達目標》

発達心理学で用いられる基本的用語を説明できる。
 発達と環境についての考え方や代表的な発達理論について説明できる。
 各発達段階ごとの発達課題について説明できる。
 乳児期から児童期までの認知や社会性などの発達について説明できる。
 子どもが抱えている発達上の問題への初歩的対処ができる。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

試験（70%）と授業態度（提出物、授業態度等 30%）

《授業時間外学習》

子どもに関する記事、事件などについて新聞、TV、インターネット上の情報を毎授業毎にノート、プリントを整理し、要点をまとめ、提出する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 発達概念 発達に及ぼす生得要因と環境要因の相互作用①
第 2 週	発達に及ぼす生得要因と環境要因の相互作用② 発達の原理 発達の理論
第 3 週	発達の原理
第 4 週	発達の理論
第 5 週	胎児期の発達 誕生をめぐるいくつかの問題
第 6 週	乳児期の発達① 乳児期の発達課題 乳児の認知機能・・・有能な乳児
第 7 週	乳児期の発達② 乳児の社会性の発達 愛着の形成と愛着の内的作業モデル
第 8 週	親子の絆について考える 視聴覚教材
第 9 週	幼児期の発達① 幼児期の発達課題 幼児の認知の発達と特徴
第 10 週	幼児期の発達② 認知とことばの発達
第 11 週	幼児期の発達③ 幼児の自己意識と社会性の発達
第 12 週	児童期の発達① 児童期の発達課題 児童の認知機能の発達
第 13 週	児童期の発達② 児童の社会性の発達② 学校と友達関係
第 14 週	乳幼児期・児童期の発達をつまづきとこころの問題①
第 15 週	乳幼児期・児童期の発達をつまづきとこころの問題②

《専門基礎科目》

科目名	生涯学習論				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、まず生涯学習とは何かについて十分に理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習という表現でもわかるように生涯学習は「生涯にわたる」学習ですから、その学習が誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。また、人の一生と関わることから社会福祉とも関連があること、また、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることも予想できますね。

生涯学習を社会の変化に照らして考えると、「生涯福祉」を前提としたこれからの福祉社会のニーズが見えてきます。

《授業の到達目標》

- (1) 「生涯学習」という考え方について説明できる。
 - 「生涯学習」って何だろう？
 - 「生涯学習」はなぜ必要なのか？
 - 「生涯学習」は誰がいつどのように学ぶのか？
- (2) 「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理論に基づいて説明できる。
 - 人は「生涯」発達するのか？
 - 人はどのように発達するのだろうか？
- (3) 「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめて、発表することができる。
 - 「生涯学習」とライフサイクルの変化について
 - 「生涯学習」と高齢社会について
 - 「生涯学習」と地域福祉について

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』 関口礼子他著（2009, 有斐閣アルマ）

《参考文献》

適宜、提示します。

《成績評価の方法》

- 講義のうち10以上の出席により単位認定のための被評価資格を得るものとする。
- 課題および授業内レポート、作業シート等を適宜実施する（配点：問題発見力、問題解決力、文章作成力および知識の定着度 45%）。
- 「学習のまとめ」により学習達成度を評価する（配点：知識体系を理解する力、批判的思考力、社会変化と生涯学習の関係を読み解こうとする関心・意欲などの獲得度：55%）。

《授業時間外学習》

- (1) できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4) 課題には予習あるいは復習のための学習内容が含まれています。一生懸命取り組み、遅れずに提出してください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」は、新しいことを学んだ後、学びっぱなしではなく、講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することを指しています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	生涯学習とは何か ○「生涯学習」導入の背景 ○教育と学習 ○生涯学習と社会教育
第 2 週	生涯学習と生涯発達 ○発達段階と発達課題 ○第1の発達と第2の発達 ○高齢期の発達課題
第 3 週	社会の変化と生涯学習(1) ○人口動態の変化 ○人口の高齢化 ○高齢者にとっての学習
第 4 週	学習のまとめ①
第 5 週	社会の変化と生涯学習(2) ○グローバル化と学習 ○グローバル化と教育制度 ○グローバル化時代の学習課題
第 6 週	社会の変化と生涯学習(3) ○ライフコースの変化 ○少子化と家族の変化 ○男女平等教育と家庭教育（学習）
第 7 週	生涯学習の方法(1) ○方法論の重要性 ○アンドラゴジーとペダゴジー ○生涯学習の方法
第 8 週	生涯学習の場(1) ○社会資源の利用 ○地域社会における学び ○図書館と公民館／地域センター
第 9 週	生涯学習の方法(2)（演習①） ○実践例に学ぶ ○ボランティア ○NPO 活動
第 10 週	生涯学習プログラムの発表（演習②） ○地域のニーズ ○プログラムの対象 ○企画・広報
第 11 週	生涯学習プログラムの発表（演習③） ○地域のニーズ ○プログラムの対象 ○企画・広報
第 12 週	生涯学習の場(2) ○職業的社会化と発達 ○職業指導 ○企業内教育
第 13 週	生涯学習の場(3) ○教育によらない学習 ○宗教と儀式（祭り） ○芸術と音楽
第 14 週	生涯学習と生涯福祉 ○生涯発達と生涯学習 ○地域福祉と生涯学習 ○社会変化と生涯学習
第 15 週	学習のまとめ②

《専門基礎科目》

科目名	人間の生物学的機能と反応				
担当者名	久野 克也				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在、管理栄養士は疾病予防や病態の栄養管理を通じて医学・医療に関与する機会が益々増加している。そのため現代医学、医療がどのように成立してきたかの歴史を学び、現代医学、医療の問題点を社会医学的に検討する。また先進医学を通じて将来の医療の展望について考えてゆきたい。講義とともに、自らの意見を積極的に述べる訓練を行うため、種々の具体的なテーマに沿って自由討論を取り入れてゆきたい。

《授業の到達目標》

私達の属する社会における、医学・医療システムや社会医学の基礎を学習する。そして、将来管理栄養士として、自分自身だけでなく家庭や職域で周囲の人達の健康管理をそれぞれのライフサイクルに沿って構築することができる、基本的知識を得ることを目標とする。

《テキスト》

なし。講義レジメ参照。

《参考文献》

- ①『看護のための最新医療講座 35 医療と社会』（中山書店）
- ②『医学概論』北村諭 著（中外医学社）
- ③『現代医学と社会』森本兼義 著（朝倉書店）

《成績評価の方法》

学期末に筆記試験を行う。適時、講義中にレポートの提出を求め出席評価を行う。

（全評価の90%）

（全評価の10%）

《授業時間外学習》

講義中に特に重要なキーワードを指示するので、終了後復習し100字以内にまとめておく。

《備考》

将来、栄養治療、給食などの現場でリーダーとなれるような、意見を持てる専門家を目指す基礎にしてください。現在健康に全く問題のない諸君達でも、将来必ず病気や事故で病院にかかる機会があります。その時自分があるいは家族が、どのようなシステムで健康を回復し社会復帰できるのかを、広い視野から知ることができると考えます。

講義内容は、決して平易ではありません。しかし、周囲の学生や講義に迷惑ですので私語は慎んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	医学の歴史（現代医療はどのように作られてきたか）
第 2 週	医療のしくみと社会保障（医療機関とその従事者、医療保険制度、年金制度）
第 3 週	医療と住民の関係（ボランティア・NPO・住民参加の方法）
第 4 週	医療と法律（脳死、医療事故訴訟など法の規制）
第 5 週	医療経済（医療費とはなにか）
第 6 週	医療におけるコミュニケーション（インフォームドコンセントやセカンドオピニオンの考え方）
第 7 週	医療とエビデンス（エビデンスに基づく医療とは）
第 8 週	環境と医学（私たちを取りまく環境が健康に及ぼす影響、食の安全）
第 9 週	ケアシステム（医療における介護の意義）
第 10 週	先進医療への期待（未来の医学）
第 11 週	医療における栄養学の意義（NSTにおける栄養士の役割）
第 12 週	食育の役割（栄養士が行う栄養教育や予防医学）
第 13 週	代替医療とは（総合医療における栄養学の意義）
第 14 週	人のライフサイクル（ライフサイクルと医療の質）
第 15 週	終末医療（ホスピスにおける栄養士の役割）

《専門基礎科目》

科目名	人間の心理・社会的機能と支援				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《授業の到達目標》

- 教養科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考文献》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《成績評価の方法》

筆記テスト 60% レポート・確認テスト等 20% 受講態度 20%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《備考》

本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、心理学の歴史と分野
第 2 週	教養科目「心理学の復習」① 性格、感情
第 3 週	教養科目「心理学の復習」② 欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知
第 4 週	教養科目「心理学の復習」③ 学習・記憶、知能・創造性・思考
第 5 週	確認テスト、解説
第 6 週	人間環境と集団
第 7 週	対人交流とコミュニケーション
第 8 週	発達①心理学的な発達理論
第 9 週	発達②障害と発達、脳とこころ
第 10 週	発達③高齢者の発達
第 11 週	適応とストレス①：ストレスと身体、ストレスに関する心理学的理論
第 12 週	適応とストレス②：ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復
第 13 週	面接から心理療法へ①：面接、心理テスト
第 14 週	面接から心理療法へ②：様々な心理療法
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	社会理論と社会システム				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について社会理論の専門用語によって体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。具体的内容として、(1)社会学イントロダクション、(2)人と社会の関係、(3)現代社会の理解、(4)人々の「生活」の理解、(5)社会問題の理解 を取り上げる。

《授業の到達目標》

- (1)社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できるようになる。
- 社会はどのような「つくり」になっているのだろうか？ ●社会はどのようにして動いているのだろうか？
- (2)人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できるようになる。
- 生活はどのように成り立っているのだろうか？ ●ライフスタイルや生活の質はどのように変化しているのだろうか？
 - 社会は個人の集まりだけど、個人の総和がそのまま社会ではない...個人と社会の関係はどうなっているのだろうか？
- (3)社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。
- 「社会問題」に近づこう！ ●「社会問題」はどうとらえたいのだろうか？

《テキスト》

『社会理論と社会システム』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕(2010,中央法規出版)

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《成績評価の方法》

- 講義のうち11以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45%)
- 学習のまとめにより学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%)

《授業時間外学習》

- (1)できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4)ミニ・テストの実施は事前に知らせますが、日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」では、(1)講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することができたのか、(2)人々の生活と社会の関係について自分なりの見方や考え方をもちことができたのかについて自己評価してみましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会学的ものの見方(社会学の成立、社会学とは何か[理論社会学、社会学の隣接領域、近代社会]、個人と社会、社会学と社会福祉)
第 2 週	社会学イントロダクション(1) -社会システム- (自己、アイデンティティ、ステレオタイプ、文化・規範、価値/意味、行為と行動、社会システムの概念、産業と)
第 3 週	社会学イントロダクション(2) -法と社会システム- (法と社会規範、法と社会秩序) 社会学イントロダクション(3) -経済と社会システム- (市場の概念、交換の概念、労働の概念、就業形態)
第 4 週	人と社会の関係 (1) (行為論：行為の種類と類型、欲求、準拠集団、秩序問題、社会的行為論の展開、役割演技と印象操作)
第 5 週	人と社会の関係 (2) (役割論：地位と役割、社会規範、社会化、役割葛藤、ダブルコンティンジェンシー)
第 6 週	学習のまとめ①
第 7 週	社会集団と組織(社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織、インフォーマル・グループ)
第 8 週	地域(地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化)
第 9 週	家族(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能、ジェンダーの視点)
第 10 週	学習のまとめ②
第 11 週	生活の理解(生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質)
第 12 週	社会変動と人口変動(社会変動の概念、近代化、人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化)
第 13 週	社会問題の理解 (1) (社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題)
第 14 週	社会問題の理解 (2) (共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワーク、エンパワメント)
第 15 週	学習の総まとめ③

《専門基礎科目》

科目名	美と感性				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

私達は、絵画を鑑賞したり、美しい風景を見て感動することがあります。何故美しいと感じ、感動することは私達の人生にどのような意味があるのか、またそれは生きるための根源的な力となりえるのか？を考えます。

《授業の到達目標》

感性が豊かであるということは、自分自身の人生においても豊かな生涯を送ることが出来る。それは何故なのかということを踏まえて、感性とは何か、美を感じるにはどのような意味があるのかを学び、感性を磨きます。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

- ・『理性と美的快楽』 ジャン＝ピエール・シャンジュー著 岩田誠 監訳(産業図書)

《成績評価の方法》

- ・レポート課題 100%
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・風景、絵画において感動したことをメモしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・感性とは？ 美しさを感じる心について。
第 2 週	・感性のメカニズム 感覚との関係から解明
第 3 週	・知覚と感情 感動する心(アウシュビッツ収容所での出来事)
第 4 週	・感性と情操 感性を育むにはどうすれば良いのか
第 5 週	・美しさの法則 美はある法則によって成り立っている
第 6 週	・自然と美 自然の中に美を発見する
第 7 週	・日本の美意識 世界に誇る日本の美の原点について(自然と人間の共生)
第 8 週	・西洋の美意識 日本の美と西洋の美を比較しその違いを理解する
第 9 週	・美は何の役に立つのか？ 老子との問答から考える
第 10 週	・美は何故必要なのか しなやかな心について
第 11 週	・美と生きることのかかわり・I しなやかな精神力
第 12 週	・美と生きることのかかわり・II 豊かな人生
第 13 週	・感性をどのように育むのか？ 「ねむの木学園」の子供たちの絵を鑑賞する
第 14 週	・感性について アウトサイダーアート(知的障害者の個性的な美の表現を鑑賞する)
第 15 週	・現代社会と感性を考える

《専門基礎科目》

科目名	行政法				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業計画表に従い講義形式で行なう。最近マスコミを賑わす行政事例、著名な行政判例は極力取り上げることとする。

《授業の到達目標》

行政の仕組みから説き起こし、行政救済に至るまで一通りの説明を行い、立法、司法との相違を浮き彫りにする。情報公開制度・個人情報保護制度等にも触れながら現行行政法の重要部分全般にわたり平易に解説し、国家試験に合格し将来社会福祉行政に携わる際の知識を授けたい。

《テキスト》

特に使用しない。

《参考文献》

折に触れ指定するが、さしあたって
福祉士養成講座編集委員会編集 新版社会福祉士養成講座 12 法学 第3版 中央法規刊
新藤宗幸著「行政ってなんだろう」岩波ジュニア新書 299
芝池義一著「行政法読本」有斐閣を薦める
また資料などは適宜コピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが（80％）、その一部をレポート提出により補充することもある（20％）。

《授業時間外学習》

行政肥大国家ですので、行政法の素材はいたるところに転がっています。鋭い視線で社会・国家・法律・経済の実態を見つめてください。これらの資料収集が時間外の学習課題です。時間内に持ち込んでもらって皆さんとの討議材料にしましょう。

《備考》

初めての教科なので気後れするかもしれませんが、その内容は日々経験すること、ニュース等で見聞することが多いと思います。憲法等広い知識が必要となりますので、Ⅰ期に「日本国憲法」等の講義を聴いておけば、理解に役立つと思いますので聴講をお勧めします。なを受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	行政法の基本構造
第 2 週	法律による行政の原理 行政法の一般原則
第 3 週	行政上の法律関係（私法関係との相違）
第 4 週	行政組織のあらまし
第 5 週	行政行為（1）
第 6 週	行政行為（2）
第 7 週	行政指導、行政計画、行政調査
第 8 週	行政の実効性確保
第 9 週	情報公開法のあらまし
第 10 週	個人情報保護法のあらまし
第 11 週	行政上の救済手続き
第 12 週	行政不服申立
第 13 週	行政事件訴訟
第 14 週	国家賠償
第 15 週	損失補償

《専門基礎科目》

科目名	社会心理学				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会心理学は、家族や友人との身近な社会、学校や会社といった日常的活動の舞台となる社会、さらには国際的なつながりの中における規模が大きな社会について、それらをどのように心に映し出し、それらにどのように働きかけるかを解き明かそうとしています。本講義では、社会心理学の知見を体系的に学習し、人と人が出会うところに生まれるいろいろな問題に対し深く洞察したり、遠く離れた世界で起きている現象さえも自分自身の心と関係していることを認識できたりする力を養います

《授業の到達目標》

- 「社会心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 自己、他者とのつながり、自他間の影響過程といった主要な内容について、理解し説明できる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房

《参考文献》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60% レポート・小テストなど 20% 受講態度 20%

《授業時間外学習》

・予習の方法

下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。

・復習の方法

最初に、授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。また、テーマの目的に深く関係した課題を出しますので、レポートを作成するようにしてください。レポートは添削後、返却します。

《備考》

- 本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。
- 認定心理士の資格取得を目指す人は、受講するようにしてください。
- 心は一人ひとりに当たり前のようにあるため、自分で気づくことができる視点から自分の心を眺め、素朴にすべてを知っているつもりになってしまいがちです。自己中心主義的ではなく、なるべく謙虚に客観的に、心について考えようとするのが大切です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、「社会的動物としての人間と社会心理学」① 他者の心の理解
第 2 週	「社会的動物としての人間と社会心理学」② 集団での協力関係
第 3 週	「感情」① 感情の生起
第 4 週	「感情」② 感情の役割
第 5 週	「人を傷つける心、人を助ける心」① 他者への攻撃
第 6 週	「人を傷つける心、人を助ける心」② 他者への援助
第 7 週	「集団」① 集団とは何か
第 8 週	「集団」② 集団の行動への影響
第 9 週	「社会的自己」① 自己とは何か
第 10 週	「社会的自己」② 自己評価と自己制御
第 11 週	「社会的影響」① 人が他者に及ぼす影響
第 12 週	「社会的影響」② 他者に影響を及ぼす様々な技法
第 13 週	「態度・説得」① 態度はどのように変わるか
第 14 週	「態度・説得」② マス・メディアの影響
第 15 週	「これまで何を学んだか」 まとめ

《専門基礎科目》

科目名	食生活論				
担当者名	福本 恭子・仲川 直毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 人間にとって「食べる」とはどのようなことなのか、福本が担当する食生活論では、栄養学や食品学等の専門分野から食生活の基本的知識を学び、現在の食生活における問題点の抽出と望ましい食生活とは何かを考える。
- ・ 食は、人間が生命を維持し、労働力を再生産するうえで大事な要素である。したがって我々の食料消費、食生活やそのあり方について考察し、今後の食生活がどうあるべきか検討することは重要な課題である。消費者すなわち我々の食料消費や食生活が変化するという事は、必然的に食料を生産する農業や漁業などの生産過程にも大きな影響を与える。さらに近年、急速な発展のみられる食品産業においても食料消費や食生活の変化に柔軟に対応することが販売戦略上の主要な課題となっている。これらのことを踏まえたうえで、近年の食生活の動向を分析し、経済学的な観点から食生活がもつ特徴や問題点について検討することを課題とする。

《授業の到達目標》

- ・ 食生活の基本的な知識を理解する。
- ・ 現在の食生活における問題を考察する。

《テキスト》

時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版（後半5回使用する）
必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

必要に応じて紹介する

《成績評価の方法》

レポート（50%）と授業態度（50%）に基づいて総合的に判断

《授業時間外学習》

予習を行うこと

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	食生活論の概要説明
第 2 週	食べ物の機能と役割①（栄養）
第 3 週	食べ物の機能と役割②（食品）
第 4 週	食べ物の機能と役割③（調理）
第 5 週	ライフステージ別食生活
第 6 週	病気と食生活
第 7 週	食生活の歴史①（戦前）
第 8 週	食生活の歴史②（戦後）
第 9 週	世界の食生活とわが国の食生活
第 10 週	現在の食生活問題
第 11 週	食品の商品としての特徴：食品は、人が生きていくうえで、必要不可欠であることから他の商品とは異なる特徴を有している。その特徴とともに食品選択や食品需要などの食料経済学の基礎的な理論について学習する。
第 12 週	食品の消費構造の変化：食料需給表を使用して食品の消費構造の変化を質と量の両面からみていく。そのうえで、食品の消費構造の変化要因について考察する。
第 13 週	人口構成の変化と食生活：主に家計調査年報を用い、人口や家族構成の変化および飲食費の構成などをみていき、人口構成、飲食費の変化などの面から現在の日本における食生活の特徴について学習する。
第 14 週	食の外部化の進展：食の外部化の進展について外食および中食産業の特徴および現状を中心に学習する。
第 15 週	食品の安全性問題：食品の安全性は、すべての人が毎日食するものであることから特に重要である。食品の安全性問題が需給構造にどのような影響を与えるかを学習するとともに、リスク・コミュニケーションの考え方についても修得する。

《専門基礎科目》

科目名	レクリエーションワーク I				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもから高齢者までのレクリエーションについて理解する。これを基に、福祉領域におけるレクリエーション支援を考えていく。さらに実践を行うことで、より理解をし、レクリエーション支援を集団的援助、個人的援助のあり方について学んでいく。

《授業の到達目標》

レクリエーションの核は、「自らの、自らによる、自らのための復活・再生」です。従来の余暇活動のみならず、人間性の回復、再創造等広義的に理解することにある。それらレクリエーションの意義とその歴史、使命、制度等の基礎理論をふまえ、レク支援の理解、レク事業の実施計画について学ぶ。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考文献》

授業中に紹介をする。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）、レポート（50%）で評価する。

《授業時間外学習》

授業で出された課題についての資料を調べたり、それについて深く考えておくこと。

《備考》

授業のなかでは、それぞれの課題についてレポート提出を課す。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	レクリエーションの基礎理論
第 2 週	レクリエーションの基礎理論
第 3 週	レクリエーション運動の理念
第 4 週	レクリエーション運動の歴史
第 5 週	レクリエーション支援－地域レクリエーション－
第 6 週	レクリエーション支援－職域レクリエーション－
第 7 週	レクリエーション支援－ライフスタイルとレクリエーション－
第 8 週	レクリエーション支援の実際－コミュニケーションワーカー
第 9 週	安全管理方法
第 10 週	レクリエーション事業論
第 11 週	事業計画の立案①
第 12 週	事業計画の立案②
第 13 週	レクリエーションにおける事業の展開①
第 14 週	レクリエーションにおける事業の展開②
第 15 週	まとめ・試験・発表

《専門基礎科目》

科目名	レクリエーションワークⅡ				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもから高齢者の多くのレクリエーションプログラムに触れ、その楽しさの自ら実感をし、目標に応じたプログラムの作成や援助能力を修得する。

《授業の到達目標》

レクリエーション活動の社会的な意義を理解するとともに、援助者としての役割についても理解をする。社会福祉の中で、場面に応じたレクリエーション活動を適切に実施する技能を身につける。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考文献》

授業中に紹介をする。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）、レポート（50%）で評価する。

《授業時間外学習》

授業で出された課題についての資料を調べたり、それについて深く考えておくこと。

《備考》

実践として取り組みますので、動きやすい服装、体育館シューズ、グランドシューズを準備する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	レクリエーションの基本的理解 (1)
第 2 週	レクリエーションの基本的理解 (2)
第 3 週	生活とレクリエーションの関係 (1)
第 4 週	生活とレクリエーションの関係 (2)
第 5 週	コミュニケーション・ワーク (1)
第 6 週	コミュニケーション・ワーク (2)
第 7 週	コミュニケーション・ワーク (3)
第 8 週	社会福祉の中におけるレクリエーションの役割 (1)
第 9 週	社会福祉の中におけるレクリエーションの役割 (2)
第10週	レクリエーションの利用者と援助者 (1)
第11週	レクリエーションの利用者と援助者 (2)
第12週	レクリエーション援助活動の実際 (1)
第13週	レクリエーション援助活動の実際 (2)
第14週	レクリエーション援助活動の実際 (3)
第15週	テスト

《専門基礎科目》

科目名	演習 I				
担当者名	稲富 恭・田端 和彦・吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・I期分

《授業のねらい及び概要》

(1)大学生活に慣れる

- ・兵庫大学のキャンパス（建物や部署）を説明できる
- ・教員との連絡をとったり研究室訪問ができる
- ・学年暦や掲示板の利用のを知っている

(2)大学での学び方を学ぶ

- ・シラバスとはなにか説明できる
- ・自分の時間を管理できる
- ・講義、演習、実習など授業形態のちがいを説明できる
- ・ノートテイキングのコツを説明できる

(3)スタディスキルを身につける

- ・テーマに沿って情報収集ができる
- ・文献の読み方を説明できる
- ・レポートの書くことができる
- ・基本的なプレゼンテーションスキルを説明できる

《授業の到達目標》

本演習は、大学ではじめて学ぶ人たちが、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育を受ける準備ができるようになること、また、充実した学生生活を自分自身で設計できるようになることを目的としている。この演習クラスは少人数で構成され、教員—学生間および学生間で交流をはかりながら、個々人の能力を開発し発揮するための場であり、また「学びの共同体」である。大学生としての生活習慣を身につけることができる。

学びに必要とされる文献を読む力、ノートテイキング、文章にまとめる基礎力を身につける。

将来の社会で必要とされる発表することやコミュニケーションを取ることなどの学士力の基盤を作る。

《テキスト》

『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007、くろしお出版）

《参考文献》

『大学生の学び・入門』溝上慎一(2006、有斐閣アルマ)

『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美（2005、くろしお出版）

《成績評価の方法》

- ・授業への参加態度およびグループにおける活動への参加（配点：意欲・関心、協力性 45点）
- ・課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度 55点）
- ・規定に基づき 1/3 以上の欠席があれば評価の対象としない。
- ・なお、課題提出が遅れた場合には、減点対象とする。

《授業時間外学習》

課題がほぼ毎回出されるので、提出要領にしたがい、指定された期日・提出場所を守って提出すること。

《備考》

この授業では、毎回出席して着実にスキルを習得することが求められる。できるだけ、休まないようにすることが望ましい。休んだ場合は、授業内容や課題について必ず確認すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション [①自己紹介、②アイスブレイキングほか] ・大学生活全般 [オリエンテーションおよびフレッシュマンキャンプのフォローアップ]
第 2 週	<ul style="list-style-type: none"> ・大学における学習方法について [①シラバスの活用方法 (学習計画の立て方) ②効果的な学習方法 (事前学習と復習、欠席した授業の補完) ③タイムマネジメント④大学の授業の種類 (講義、演習、実験、実習、フィールドワークほか) ⑤講義形式の授業の受け方 (ノートテイキング、質問の仕方) ⑥課題提出の方法 ⑦定期試験等の準備と受け方について]
第 3 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートテイキング [①ノートテイキングのスキル ②講義ノートをとる ③ノートテイキングの実際]
第 4 週	<ul style="list-style-type: none"> ・文献・資料の探し方 [① 課題解決のための情報収集の仕方 -文献調査と事項調査- ②図書館の利用方法 ③資料の種類と分類] ・図書館ツアー
第 5 週	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる情報収集 [①コンピュータを利用した文献調査 ②インターネットを利用した事項調査] ・情報の整理 [①情報の保存と整理方法 ②文献リストの作成 ③文献リストの活用]
第 6 週	<ul style="list-style-type: none"> ・文献の読み方 (基礎編) [①テキストを読むとは ②専門書の特徴について ③二度読み方式]
第 7 週	<ul style="list-style-type: none"> ・文献の読み方 (応用編) [①深く読むためのスキル (要約する) ②深く読むためのスキル (感想意見をもつ)]
第 8 週	<ul style="list-style-type: none"> ・文献の読み方 (応用編) (つづき)
第 9 週	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (アカデミック・ライティング) の書き方 (基礎編) [①レポートとは何か ②レポート作成の手順 ②-1 スケジュールをたてる ②-2 話題を絞り込む ②-3 最終的な主張を定める ②-4 材料を集める—情報収集 ②-5 アウトラインを考える ②-6 材料を整理する ②-7 構成を考える ②-8 執筆する ②-9 推敲する]
第 10 週	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作法 [①引用のしかた ②注のつけかた ③参考文献リストの書きかた ④レポート作成の実際]
第 11 週	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (アカデミック・ライティング) の書き方 (応用編) [①わかりやすい文とは ①-1 文の長さ ①-2 読点を打つ ①-3 漢字とかなの使い分け ①-4 対応関係 ①-5 段落の設定 ②わかりやすい表現方法とは ②-1 「箇条書き」で表現する ②-2 「表」「グラフ」で表現する]
第 12 週	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (アカデミック・ライティング) の書き方 (応用編) (つづき)
第 13 週	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションスキル (基本編) [①プレゼンテーションの種類と特徴 ②プレゼンテーションのツール ③話すプレゼンテーションが完成するまで ④レジュメの作成]
第 14 週	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションスキル (応用編) [①プレゼンテーションツールの活用 ②スライド作成の基本 ③スライドを作る (例:PPT など) ④読み原稿を作る ⑤リハーサルをする]
第 15 週	<ul style="list-style-type: none"> ・I 期のふり返り [①自己目標の確認と達成度の自己評価 ②グループ活動における達成度の自己評価]

《専門基礎科目》

科目名	演習 I				
担当者名	稲富 恭・田端 和彦・吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

- (1) テーマからトピックを絞ることができる
- (2) レジュメをつくって説明できる
- (3) スライドを用いたプレゼンテーションができる
- (4) ポスターセッションができる
- (5) 1年間の学び（自己の変化や成長）をふり返ることができる

《授業の到達目標》

I 期に引き続き、大学生として学ぶための基礎的な能力を身につけることをねらいとする。社会福祉やソーシャルワークをテーマとする課題に取り組むことを通して、グループディスカッション、レポート作成、プレゼンテーションなどのスキルをさらに向上させる。また、「テーマを設定して、トピックを絞り、情報収集により得られたデータを集約し、整理して表現する」一連の作業の中で、チームワーク力を養い、リーダーシップを発揮するためのスキルを学ぶ。こうした学習を通して、ソーシャルワーカーをめざし福祉を学ぶ者としての自覚を養う。

《テキスト》

『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007、くろしお出版）

《参考文献》

- 『大学生の学び・入門』溝上慎一(2006、有斐閣アルマ)
『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美（2005、くろしお出版）

《成績評価の方法》

授業への参加態度およびグループにおける活動への参加（配点：意欲・関心、協力性 45 点）
課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度 55 点）
規定に基づき 1/3 以上の欠席があれば評価の対象としない。
なお、課題提出が遅れた場合には、減点対象とする。

《授業時間外学習》

ほぼ毎回レポート課題があるので、それを指定された期日までに提出しなければならない。

《備考》

社会福祉学科では、2 年次からの学びが 3 つのコースに分けられる。このコース選択ガイダンスを演習 I の授業内で行う。コースの概要だけでなく、コースで学ぶ科目の特徴や将来のキャリアとの関係についても説明を行う。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・I 期のイントロダクション／夏季休暇課題の発表
第 2 週	・テーマからトピックを絞る
第 3 週	・トピックに沿って情報収集を行なう
第 4 週	・レジュメをつくる（レジュメの作り方、収集した情報のまとめ方）
第 5 週	・レジュメをつくってみる（レジュメの作り方あれこれ）
第 6 週	・レジュメを使って説明する（レジュメによるプレゼンテーション）
第 7 週	・プレゼンテーション・スキル（上級編）情報や資料を整理・分析する
第 8 週	・プレゼンテーション・スキル（上級編）スライド原稿を作成する （プレゼンテーションの持つ意味と重要性を理解する）
第 9 週	・プレゼンテーション・スキル（上級編）読み原稿を作成する（聞き手の理解を深めるプレゼンテーションのあり方）
第 10 週	・プレゼンテーション・スキル（上級編）発表する
第 11 週	〈コースガイダンス〉 3 つのコースの内容について学ぶ
第 12 週	・ポスターセッション（ポスターとは何かを理解する、ポスターをつくる）
第 13 週	・ポスターセッション（ポスターを使って発表する）
第 14 週	・地域調査の方法と結果報告の仕方を知る（演習Ⅱでのコミュニティから学ぶ報告会への参加とレポート提出）
第 15 週	・1年間の学びのふりかえり及び2年次に向けての学習計画

《専門コア科目》

科目名	現代社会と福祉 I				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。また VHS や DVD などの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することを目的としている。

《授業の到達目標》

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し、社会福祉問題を総合的視点に立って論理的にとらえる視点を養う。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座 1 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

『人口減少時代の社会福祉学』小田兼三編著、ミネルヴァ書房

《成績評価の方法》

授業参加等に関する評価 50%、定期試験による評価 50%

《授業時間外学習》

テキストの関連箇所を予習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 1年の講義計画、講義内容の概説、および受講の心得について説明し、社会福祉に関わる基本的文献について紹介、解説する。
第 2 週	社会福祉の概念 「社会福祉学を学ぶとは何か」という根本的な命題を考える。実態概念としての社会福祉と目的概念としての社会福祉という基本的な専門概念に言及しながら概説する。
第 3 週	社会福祉の理論と理念 社会福祉の代表的な理論である考橋、岡本、三浦をとりあげそれぞれについて概説する。また比較考察としてティトムス、マーシャルについても言及する。
第 4 週	社会福祉の制度および法体系 社会福祉法、および福祉を形成する福祉六法、社会福祉に関係するさまざまな法とその体系について学ぶ
第 5 週	社会福祉の制度および法体系 法が規定する行為や活動の総体が「制度」、すなわち法の実体である。大別すると所得保障、医療保障、そして自立保障の3つに分けられる社会保障の制度とあおの内容について概説する。
第 6 週	日本の社会福祉の歴史的沿革 福祉概念はどのように生まれ、近代の福祉へと形成、展開してきたのかという問題を扱う。
第 7 週	近代社会と社会福祉 とりわけ戦後の窮乏社会と G.H.Q との関係を通して、日本の貧困救済中心の福祉の展開を考察する。
第 8 週	現代社会と社会福祉 1970年代以降の日本福祉国家について、ケインズ主義に基づいたグローバル福祉国家論を中心に考察を深める。
第 9 週	少子高齢化社会の現状と課題 社会福祉基礎構造改革の主要因としての少子化問題、高齢者比率の増加による医療、年金問題について、資料、データに基づいて議論する。
第 10 週	福祉政策におけるニーズと資源 「福祉需要とは何か」「福祉におけるニーズ」とは何かという問題を、M.フーコーの「生一権力論」を作業仮説としてとりあげながら考察を深める。
第 11 週	資源論 社会福祉政策を円滑に運用するにはさまざまな社会資源が必要である。根源的な問題でありながら、これまではあまり顧慮されなかった「資源」について、事例を基に考察を深める。
第 12 週	福祉政策と社会問題 (1) 高齢者問題、とりわけ高齢者介護に焦点をあて、介護保険の課題点について事例を基に考察を深める。
第 13 週	福祉政策と社会問題 (2) 児童、家庭福祉の問題をとりあげ、事例を基に考察を深める。
第 14 週	福祉政策と社会問題 (3) 障害者問題と自立支援法について、事例を基に考察を深める。
第 15 週	まとめと質疑応答

《専門コア科目》

科目名	現代社会と福祉Ⅱ				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。また VHS、DVD などの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することを目的としている。

《授業の到達目標》

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し、社会福祉問題を総合的視点に立って論理的にとらえる視点を養う。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座 1 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

『人口減少時代の社会福祉学』小田兼三編著、ミネルヴァ書房

《成績評価の方法》

授業参加等に関する評価 50%、定期試験の評価 50%

《授業時間外学習》

テキストの関連箇所を予習しておくこと。

《備考》

「現代社会と福祉Ⅰ」を受講し単位を取得していることが受講の要件となる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	福祉政策と社会問題（4） 生活保護の問題を扱う。制度についてはすでに学んでいるので、ここでは事例に基づいて請う去るを深める。
第 2 週	福祉政策と社会問題（5） コミュニティワークの現状と課題について事例を基に考察を深める。
第 3 週	国際社会と福祉問題 ユニセフ、世界銀行、JICA などの活動を取りあげ、世界という視座から貧困問題について考察する。適宜 VHS、DVD を使用する。
第 4 週	福祉政策の現代的課題（1） 現代の福祉を考える上での主要な問題である「社会的排除」「社会連帯」について概説し、イギリス、フランスの事例を検証する。
第 5 週	福祉政策の現代的課題（2） エスニック・マイノリティーの問題、格差社会、セーフティネットに関して、欧米での政策を中心に考察を深める。
第 6 週	福祉政策の論点（1） 効率性と公平性、普遍主義と選別主義の問題を、福祉先進国といわれる北欧などを事例に考察する。
第 7 週	福祉政策の論点（2） 自立支援とはどういうことなのか。この問題を高齢者介護、および障害者問題の事例を通してさらに深く考察する。
第 8 週	福祉政策の論点（3） 福祉におけるジェンダー問題は避けて通れない。シャドウワークと位置づけられてきた介護労働を事例をもとに歳考察し、理解を深める。
第 9 週	福祉政策の論点（4） 移動する介護労働力としてインドネシア人介護士・看護師の問題を扱う。彼らは福祉労働の供給源として定着し得るのかという問題を考察する。
第 10 週	福祉政策における国の役割について概説する。すでにこれまでの授業で何度も触れているので、ここでは受講生と議論し、批判的な視座から考察を深める。
第 11 週	社会福祉における市場の役割について概説する。市場がうまく機能しているイギリスなどを事例として取り上げ、考察を深める。
第 12 週	福祉供給部門のしくみ、役割について概説する。
第 13 週	福祉供給過程について概説し、事例を基に考察を深める。
第 14 週	福祉利用過程について概説し、福祉の全体像についての理解を確かなものにする。
第 15 週	まとめと質疑応答

《専門コア科目》

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

座学が中心となるが、できるだけ現状を理解してもらえようVHS、DVDなどを適宜併用する。本講義はきわめて専門性の高い教科でもあり、毎回専門用語などが頻出する。一回生には理解が大変な部分もあるかもしれない。このため講義では適宜ワークシートによって、その時間の講義内容の重要事項のまとめを行う。これらも平常点として加算するので、休まないことを前提に受講してほしい。

《授業の到達目標》

高齢化は近年の社会福祉学において世界共通のテーマとなっている。本講義ではこうした現状をふまえ、高齢者政策というマクロな視点、および高齢者個人々人への福祉サービスや支援に関する知識というミクロな視点の両面から、高齢者福祉の全体像について概説する。とくに高齢者福祉の要ともいべき介護保険制度とケアマネジメントに着目し、事例を通して福祉のあり方を考える視点を養う。

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座 第2版 高齢者に対する支援と介護保険制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

岡本千秋他編『介護予防実践論』中央法規出版、2006年

《成績評価の方法》

授業等への参加に関する評価 50%、定期試験の評価 50%

《授業時間外学習》

テキストの関連箇所を予習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション。講義内容のガイダンスおよび受講上の注意。
第 2 週	高齢者の定義（1）：高齢者を理解するために、身体的、精神的、生活機能的な3面から考察する。
第 3 週	高齢者の定義（2）：「老いる」とはどのようなことなのか。豊かな「老い」とはどのような状態をさすのかという古典的命題を考える。
第 4 週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉、介護需要について理解する（1）：日本における高齢者の地域情勢と家族関係
第 5 週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉、介護需要について理解する（1）：日本における高齢者の経済問題と就労、生活保護
第 6 週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉、介護需要について理解する（1）：日本における要介護高齢者の虐待、認知症などの社会問題
第 7 週	高齢者福祉制度の理念と体系（1） 老人福祉法制定の背景、およびその目的、基本理念、実施体制について詳述する。
第 8 週	高齢者福祉制度の理念と体系（2） 老人保健法制定の背景、およびその目的、基本理念、実施体制について詳述する。
第 9 週	高齢者福祉政策（1） 高齢者福祉に関する法制度、および体系について概説する。
第 10 週	高齢者福祉政策（2） ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン 21 について詳述する。
第 11 週	高齢者福祉制度、政策に関する事例問題を扱う。これまでの知識を正しくふまえて、批判的な視座から問題を論じ、福祉の本質を考える。
第 12 週	高齢者に関する関連諸瀬策（1） 年金、生活保護という所得保障について考える。さらに今後を見据えて高齢者の就労問題についても考察する。
第 13 週	高齢者に関する関連諸瀬策（2） 高齢者の住環境問題、福祉用具、ユニバーサルデザインに関して概説し、議論する。
第 14 週	成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について概説し、事例を中心に問題点を考察する。
第 15 週	前期のまとめ。質疑応答。

《専門コア科目》

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

I期15回の高齢者の総合的な理解を踏まえて、さらにⅡ期15回で、サービス提供の実際や高齢者の相談支援、高齢者福祉の現状と近未来の課題を、介護も含めて展開する。

《授業の到達目標》

介護保険制度の概要と介護保険の提供サービスの内容は理解する。

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座 第2版 高齢者に対する支援と介護保険制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

授業中適宜示してゆく。

《成績評価の方法》

試験とレポート（50点）と平常点、授業態度（50点）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
毎回、次回の授業内容を示すので予習をしておくこと。
- ・復習の方法
授業内容を再確認し、不明な点は質問する。または自分で調べる。

《備考》

現代の介護をめぐる諸問題に対して、問題解決能力を高めていくことを目指している。
授業の積極的な参加を希望する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	介護保険サービスの体系の序論
第2週	介護支援専門員（ケアマネジャー）について
第3週	居宅・施設・地域密着サービスについて
第4週	高齢者を支援する組織と役割
第5週	高齢者支援の方法と実際
第6週	高齢者を支援する専門職の役割と実際
第7週	介護の概念や対象
第8週	介護過程
第9週	自立に向けた介護
第10週	日常生活の介護
第11週	認知症ケア
第12週	終末期ケア
第13週	居住環境を考える
第14週	高齢者福祉課題の近未来
第15週	総括

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ				
担当者名	田端 和彦・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本科目の目的は二つである。一つめはボランティア活動を通し、現場を知ることである。座学が中心で社会での関わりが限定されたままで実習に向くと、ソーシャルワークの基本的な要素である、対人関係の構築について学ぶことができないままで終わってしまう可能性があるためである。ボランティア体験を通し社会の中の人と人との関わりを学ぶことが一つめの目的である。二つめには、社会に出るとはどのような意味を持っているのか、社会人として振る舞うとはどのような行動なのかを学ぶことである。これは、学士力として、問題解決能力や分析力の基本ともなる力を身につけることである。

《授業の到達目標》

ボランティア活動を通じて、以下の点を獲得できたかどうかを目標とする。

- ①社会の中での人と人との関わり的重要性を感じ取ることができる
- ②社会人として振る舞うとはどのような意味を持っているのかを表現できる

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰの手引き」を配布する。

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《成績評価の方法》

ボランティア活動に参加し、その体験を振り返ることができることが最低評価基準となる。さらにその体験をグループディスカッションを通じて発表できた場合に加算される。

《授業時間外学習》

ボランティア活動先を探す場合やボランティア活動先に書類を提出する作業などで、時間外作業が必要となる。

《備考》

毎回、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰの手引き」を持参すること

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】オリエンテーション 【内容】実習指導Ⅰの位置づけ、目的、課題
第 2 週	【項目】ソーシャルワークの原則について学ぶ（1） 【内容】サービスと社会正義
第 3 週	【項目】ソーシャルワークの原則について学ぶ（2） 【内容】人間の尊厳と人間関係
第 4 週	【項目】ソーシャルワークの原則について考える 【内容】実践現場とソーシャルワーク
第 5 週	【項目】施設分析（1） 【内容】社会福祉施設とは
第 6 週	【項目】施設分析（2） 【内容】コミュニティと社会福祉施設
第 7 週	【項目】ボランティア総論
第 8 週	【項目】マナー学習（1）
第 9 週	【項目】マナー学習（2）
第 10 週	【項目】ボランティア先選定ガイダンス 【内容】ボランティア先選定
第 11 週	【項目】計画書作成（1）
第 12 週	【項目】計画書作成（2）
第 13 週	【項目】記録について（1）
第 14 週	【項目】記録について（2）
第 15 週	【項目】ボランティア体験前最終オリエンテーション

《専門コア科目》

科目名	社会調査の基盤				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会調査の役割を学び、社会調査がなぜソーシャルワークに必要なかを理解することが授業の狙いです。ソーシャルワーカーが介入するためには、クライアントの置かれた社会状況を把握しなければなりません。量的、質的な基本的な調査方法を学び、客観的な事実を表す統計表を読み取るために必要な統計的、または制度上の知識を学びます。また実際に行われた社会調査の役割や限界について理解します。さらに実際に社会調査を行う場合の手法や注意点などを理解します。

《授業の到達目標》

- ・アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができる。
- ・統計表を読み取り、地域社会のおかれた状況を理解することができる。
- ・統計結果を読み解くのに必要な統計学に係る知識を身に付けることができる。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

テストが80%、日常点(宿題)が20%です。

《授業時間外学習》

テキストの指示する場所を事前に読んでおいて下さい。
復習に関連する宿題を課しますのでそれを提出して下さい。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス・社会福祉における社会調査の役割
第 2 週	2 社会調査の意義と目的～社会調査の対象とは何か、また社会科学における社会調査の位置づけ
第 3 週	3 日本の統計制度、統計法と社会福祉に必要な統計
第 4 週	4 量的調査と質的調査
第 5 週	5 アンケート調査の具体的な進め方①～母集団と標本集団
第 6 週	6 アンケート調査の具体的な進め方②～調査票の作成、設問の作り方
第 7 週	7 アンケート調査の具体的な進め方③～調査票の配布と回収
第 8 週	8 調査結果の分析の基礎①記述統計
第 9 週	9 調査結果の分析の基礎②集計
第 10 週	10 調査結果の分析の基礎③帰帰・相関
第 11 週	11 観察の方法～非参与観察、参与観察とは
第 12 週	12 インタビュー調査の方法～①構造化インタビュー、非構造化インタビュー、グループインタビュー
第 13 週	13 インタビュー調査の方法～②分析と記述
第 14 週	14 社会調査における倫理と個人情報の保護
第 15 週	15 まとめと総括

《専門コア科目》

科目名	社会調査の応用				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会調査の基礎を踏まえて、テーマを決めて調査を行います。調査は、まず簡単なアンケート調査を実施し、パソコンを使って実際にアンケートの分析を行ないます。その際には統計パッケージの PASW を使って実際の統計手法と分析の手順を学びます。次に、インタビューを行いその手法を確認するとともに、アンケート結果の分析とインタビューの結果についてとりまとめ、報告書（レポート）を作成します。こうしたプロセスを通して、基礎で学んだ内容の定着と具体的な方法を理解することが狙いです。

《授業の到達目標》

- ・アンケートを実施しパソコンで分析することができる。
- ・インタビューを行いその記述、分析をすることができる。

《テキスト》

ありません。プリントを配布します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

調査報告書（レポート）を作成し、そのレポート作成過程、及びその内容で 100% の評価を行ないます。

《授業時間外学習》

授業内で指示をしますが、調査の進行表を作成し、それに合わせて授業時間外で実際にアンケート調査票を作成し、調査の実施、調査結果のデータ入力などを行ないます。レポート作成や結果の分析なども授業時間内で十分でなければ、授業時間外での作業が必要です。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス・調査テーマの選定とグループの作成、調査の進行表の作成
第 2 週	2 アンケート調査票の作成とアンケート調査の実施①
第 3 週	3 アンケート調査票の作成とアンケート調査の実施②
第 4 週	4 アンケート調査票の作成とアンケート調査の実施③
第 5 週	5 データの入力、PASW とは何か、また PASW を使ったデータ入力の方法
第 6 週	6 アンケート調査の分析①～分析手法のあれこれ
第 7 週	7 アンケート調査の分析②～単純集計とクロス集計の方法
第 8 週	8 アンケート調査の分析③～複数回答処理について
第 9 週	9 アンケート調査の分析④～統計値と集計、検定について
第 10 週	10 アンケート調査の分析⑤～回帰分析と相関分析
第 11 週	11 インタビューの実際①
第 12 週	12 インタビューの実際②
第 13 週	13 調査報告書の作成①
第 14 週	14 調査報告書の作成②
第 15 週	15 調査報告書の作成③

《専門コア科目》

科目名	社会福祉特別講義 I				
担当者名	稲富 恭、村上 須賀子、田端 和彦、牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

障害者や高齢者が現代の生活において垣根を感じることなく通常の生活を営むため、この講義では居住空間とバリアフリーの分野、さらに憲法の定めるところの最低で文化的な生活を保証するための住宅保証に注目します。これからの福祉社会におけるソーシャルワーカーに必要な内容ですが、従来のカリキュラムでは十分に対応できない分野をカバーして学びます。さらには、公務員を志望する人、建築や住宅関係の仕事、コンサルタントなどまちづくりの関係の仕事に進むことを考える人にも不可欠の分野です。住宅と福祉の連関の必要性は地方自治体で年々高まっています。衣食住は人の生活に不可欠な要素であり、人を支援するソーシャルワーカーが身につけておくべき知識といえるでしょう。

住宅の確保が難しいホームレスの問題や住宅内のバリアフリーなど社会福祉と住宅の関係は明らかです。同時に、住宅は「住まい」としてまちの中においてコミュニティの中心、また住生活の中心となっています。住生活基本法の制定をふまえ住宅やまちの在り方は地域で考える時代であり、誰にでも優しい真の福祉のまちづくりの時代を迎えます。こうした福祉のまちづくりの面から、住宅とまちで高齢者や障害者が自由に移動できる状況を作ること社会福祉の重要な役割です。住宅、まちと社会福祉の関係について授業を通して学びます。なお、講義は兵庫大学の教員の他、他大学の教員や社会企業家、実践者を迎えてのオムニバスになっています。

《授業の到達目標》

- ・高齢者や障害者の移動権を保障し自立的な生活を可能にする空間環境の整備としての住宅やまちに関わる制度の詳細、さらにそれを実現するためのアドボカシー（政策提言）を理解することができるようになります。
- ・住生活の概念を理解し、住生活基本法や人の生活と住宅、まちの関係を理解することができるようになります。
- ・公営住宅制度などすべての人に住宅をどのように確保するのか、また震災などで住宅を失った人への住宅提供の在り方はどのようなものなのか、自助、共助、公助の概念と併せて理解します。

《テキスト》

授業開始後に指示します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

授業内での態度（30%）、最終試験（70%）。

《授業時間外学習》

授業中に自宅で学習する課題（宿題）についての指示を行います。オムニバスの授業ですので、教員により内容が異なります。

《備考》

オムニバス授業です。多数の教員が関わる授業ですので、掲示板の内容などに注意してください。授業計画の内容、または日程については、教員の都合により変更されることがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション：ソーシャルワークにおける住宅の重要性
第 2 週	住宅と福祉：バリアフリーとユニバーサルデザイン①
第 3 週	住宅と福祉：バリアフリーとユニバーサルデザイン②
第 4 週	住宅と福祉：高齢者のための住宅について①
第 5 週	住宅と福祉：高齢者のための住宅について②
第 6 週	北欧の高齢者住宅と高齢者政策
第 7 週	北欧の高齢者住宅と高齢者政策
第 8 週	ホームレス問題と住宅
第 9 週	公営住宅と住宅保証
第 10 週	災害弱者と住宅①
第 11 週	災害弱者と住宅②
第 12 週	住まい方と住生活基本法
第 13 週	障害者移送の実際
第 14 週	バリアフリーに向けてのアドボカシー
第 15 週	福祉のまちづくりの将来

《専門コア科目》

科目名	社会福祉特別講義Ⅱ				
担当者名	稲富 恭、村上 須賀子、田端 和彦、牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

福祉社会の形成には、社会的サービスの提供者の多様化が課題になります。NPOや社会企業家の他、民間の市場からも社会的サービスへの参入が相次いでいます。こうした経済と福祉の関係を踏まえて、調整することは、これからの福祉社会におけるソーシャルワーカーに必要な内容です。こうした社会的経済の存在が今クローズアップされています。ノーベル平和賞受賞者のユヌス氏など、社会企業家も世界で活躍しています。社会的経済と政府、市場との関係について、理論的、実践的にはどのようになっているのか、またそれは歴史的にどのように位置づけられるのか、などを学びます。広く、社会保障と現代社会の課題を含む内容です。

また経済の中で重要な役割を果たす民間企業についても学習の機会を提供します。現代の企業では社員の福利厚生のために心的支援を行う企業カウンセラーの他、家族の介護や退職後の生きがいづくりなど、ソーシャルワーク的な機能が求められています。また労働を適切にし、社会保険の書類を扱う社会保険労務士との協働も必要になります。しかし、社会福祉だけの学びでは、企業のこと、経営のことを知る機会は十分ではありません。そこで経営の基本となる考え方、そもそも会社とは何か、会社の人事とはどのようなものか、など幅広い学びを行います。この講義では、従来のカリキュラムでは十分に対応できていない、経済や経営と福祉の分野をカバーして学びます。民間企業への就職を考える人、企業人事に関心のある方の他、社会企業家を目指す人、NPOでの活動を考えている人に不可欠の分野です。

なお、講義は兵庫大学の教員の他、他大学の教員や社会企業家、実践者を迎えてのオムニバスになっています。

《授業の到達目標》

- ・社会的企業や企業家精神について理解するとともに、市場と福祉の関係など福祉とそれを取りまく社会経済、市場経済、政府の関係を理解することができます。
- ・企業の経営や人事、組織について理解し、企業文化や企業の人事管理、社会保険労務士の役割などについての知識を身につけることができます。

《テキスト》

授業開始後に指示します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

授業内での態度（30%）、最終試験（70%）。

《授業時間外学習》

授業中に自宅で学習する課題（宿題）についての指示を行います。オムニバスの授業ですので、教員により内容が異なります。

《備考》

オムニバス授業です。多数の教員が関わる授業ですので、掲示板の内容などに注意してください。授業計画の内容、または日程については、教員の都合により変更されることがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション：ソーシャルワークにおける経済の関係
第 2 週	社会保障における政府間関係と社会政策①
第 3 週	社会保障における政府間関係と社会政策②
第 4 週	社会的経済とは何か
第 5 週	社会的経済と社会企業①
第 6 週	社会的経済と社会企業②
第 7 週	民間企業の求める人材
第 8 週	企業経営とは何か①
第 9 週	企業経営とは何か②
第 10 週	企業経営とは何か③
第 11 週	企業経営とは何か④
第 12 週	社会企業家と企業家精神①
第 13 週	社会企業家と企業家精神②
第 14 週	人事を巡る課題と社会保険労務士の役割
第 15 週	企業におけるメンタルヘルス

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

教職の歴史や意義とはどのようなものか、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事とはどのようなものか、教員の身分保障と地位はどのようなものか、求められる教師の資質能力について、教育職員免許状の授与と取得の条件とはなにか、教師の研修、服務とはどのようなものか、等について解説し、その理解をねらいとする。

《授業の到達目標》

教員の資質向上が焦眉の課題である状況のなかで、教育実習をおこなう教職課程履修者は、その責任が以前にも増して重くなったことをよく認識して、教育実習に積極的に取り組むことが求められよう。その意味で本講義は将来、教職の道をめざす履修者にとって、教師になるための基礎的・基本的態度と知識を学ぶことを目指す。

《テキスト》

『新しい教職概論・教育原理』 広岡義之編著（関西学院大学出版会）2008年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。

授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教職の意義と歴史について
第 3 週	教職員組織について
第 4 週	教師の職務と学校の運営について
第 5 週	現場教師（小・中・高等学校）の実際について
第 6 週	大学における教職への動機づけ
第 7 週	教師の養成と免許について
第 8 週	教師の採用・研修・身分保障について
第 9 週	教育職員免許上の授与と取得の条件
第 10 週	求められる教師の資質能力について
第 11 週	生涯学習社会と「開かれた学校」への方向転換
第 12 週	「学ぶ力」の育成と教師の資質能力
第 13 週	教育荒廃と教師の役割
第 14 週	教師の悩みと不安
第 15 週	本講義のまとめと重要箇所の復習

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を伝統的教育学と実存主義教育との対比を通して教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、様々な教育思想家の主張を援用しつつ、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などにも言及したい。また社会で求められる教育的課題という観点から、平和教育、高齢者教育、家庭教育、環境教育、言語教育等の領域について教育人間学的手法で論じてゆくことにする。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《テキスト》

- 『新しい教育原理』 広岡 義之編著（ミネルヴァ書房）2011年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	人間形成と教育
第 3 週	素質と教育: 遺伝と環境
第 4 週	西洋の教育理念と歴史 (方法と制度を含む)
第 5 週	日本の教育理念と歴史 (方法と制度を含む)
第 6 週	発達と教育: 発達の意味
第 7 週	発達と教育: 乳幼児期の課題
第 8 週	発達と教育: 青少年期の課題
第 9 週	発達と教育: 壮年期の課題
第 10 週	家庭教育の意義と特色
第 11 週	地域教育の意義と特色
第 12 週	家庭・地域教育の現代的課題
第 13 週	保育所指針と幼稚園教育要領の特徴と課題
第 14 週	小・中・高等学校学習指導要領の特徴と課題
第 15 週	現代教育の課題: 特別支援教育について

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《テキスト》

- 『教育の制度と歴史』 広岡 義之編著（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

『教育用語集』（仮題）広岡 義之編著（ミネルヴァ書房）2011年

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 3 週	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史
第 4 週	17・18 世紀の教育制度と教育の歴史
第 5 週	西洋近代公教育制度の発達
第 6 週	19・20 世紀の教育制度と教育の歴史
第 7 週	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向
第 8 週	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 9 週	日本近世・近代の教育制度と教育の歴史
第 10 週	国民教育の確立
第 11 週	日本近代教育制度の拡充と教育運動
第 12 週	戦時体制下の教育制度と教育
第 13 週	戦後日本の教育改革および教育制度改革
第 14 週	現代日本教育制度と教育行政
第 15 週	現代日本の教育改革

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（含カウンセリング）				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

学校教育の重大問題として、学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられる。これらの背景には、現代を生きる子どもたちのこころの発達にゆがみがあると考えられるが、これらに対して、教師はどのようなことができるだろうか？

人と人との関係を考えていく上でのヒントは、悩む人々と治療者との関係の中で見出されたものによって理論化された、臨床心理学の理論の中にあるといっても過言ではない。前半の授業では、カウンセリングの基礎を学ぶが、ロールプレイを体験してみると、日常のおしゃべりとは違った、人と人が向き合っていくための方法を学ぶことができる。後半は、子どもたちのこころの発達や、事例についても取り上げるが、各自が自分の耳で聴き、感じたことを大切にしながら、自分なりの視点を持てるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになること。
自分自身のこころに焦点をあて、そこに耳を傾けられるようになること。
子どもたちをとりまく様々な問題に、自分なりの視点を持てるようになること。

《テキスト》

必要な資料は、適宜配布する。

《参考文献》

「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」 滝口俊子・田中慶江編 創元社 1400 円＋税
「特別支援教育のための 100 冊」 特別支援プロジェクトチーム 創元社 1800 円

《成績評価の方法》

授業への取組み 30% レポート 20% 授業内容の理解 50%

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布する（参考文献に取り上げられている 120+100 冊）出来るだけ多くの本を手にとって読んでほしい。このリストの中から、自分の最も興味のある本を 1 冊選んで、手書きで原稿用紙またはレポート用紙 5 枚の感想文を提出すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：教育相談とは何か
第 2 週	カウンセリングの基礎理論
第 3 週	カウンセリングの技術
第 4 週	カウンセリングの過程
第 5 週	カウンセリング実習
第 6 週	自分で出来るカウンセリング：フォーカシングについて
第 7 週	前半のまとめ
第 8 週	発達の臨床と教育相談
第 9 週	こころの発達理論
第 10 週	子どもたちの問題
第 11 週	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題
第 12 週	児童虐待について
第 13 週	教師と専門機関との連携
第 14 週	様々な事例
第 15 週	今後にかかす教育相談

平成 22 年度
(2010 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度(2010年度) 入学者対象
()は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ		
			必修	選択			高等学 校教諭		1年		2年		3年				4年	
							福祉	福祉	I	II	I	II	I	II			I	II
専 門 基 礎 教 育	法学	講義		2					2									
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2					2									
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2						2							(森田 義宏)	39
	生涯学習論	講義		2					2									
	人間の生物的機能と反応	講義	2		○	◇			2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇			2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					2							Sung Lai Boo	40
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2						Sung Lai Boo	41
	美と感性	講義		2				2										
	ライフデザイン論	講義		2										2				
	行政法	講義		2				2										
	家族社会学	講義		2						2							[磯部 香]	42
	家族福祉論	講義		2							2						高橋 千代	43
	発達心理学	講義		2			▲				2						[山田 佳代子]	44
	人間関係論	講義		2							2						(森田 義宏)	45
	親子関係の心理学	講義		2								2						
	健康心理学	講義		2							2						[山田 佳代子]	46
	集団心理学	講義		2								2						
	社会心理学	講義		2					2									
	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2							2						[脇本 忍]	47
コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2								2					[脇本 忍]	48	
教育心理学	講義		2			△					2					[山田 佳代子]	49	
ライフステージと健康	講義		2										2					
食文化論	講義		2					2										
食生活論	講義		2					2										
レクリエーションワークⅠ	講義		2					2										
レクリエーションワークⅡ	講義		2						2									
演習Ⅰ	演習		4						4									
演習Ⅱ	演習		6								6					稲富・田端・Boo・吉原	50・51	
専 門 コ ア 目 的	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△	2										
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△	2										
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇				2							河野 真	52
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇					2						河野 真	53
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○		△	2										
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義	2		○		△	2										
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	2		○		△				2						井上 浩	54
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義	2		○		△				2						高橋 千代	55
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○	◇						2					田端 和彦	56
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義	2		○	◇							2					
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2		○	◇							2				[西澤 正一]	57
	就労支援の制度とサービス	講義	2		○								2					
	権利擁護と成年後見制度	講義	2		○	◇							2					
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△					4					井上・高橋	58・59
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△						4					
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1		○		△		2								田端・高橋・井上	60	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1		○		△					2					田端・牧田・高橋・井上	61	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1		○		△							2					
社会調査の基盤	講義		2		○			2										
社会調査の応用	講義		2					2										

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△				2						桐石 梢	62
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△					4						
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△						4					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2		○		△							2				
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△							12				
	地域経済論	講義		2									2					
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇								2				
	福祉工学	講義		2										2				
	まちづくり論	講義		2										2				
	国際福祉論	講義		2											2			
	スクールソーシャルワーク	講義		2											2			
	更生保護制度	講義		1	○									1				
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○									2				
	インターンシップ	実習		4											12			
	社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		稲富・村上・田端・牧田	63
	社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2						②		②		②		②	稲富・村上・田端・牧田	64
教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇							2					
	応用医療福祉論	講義		2										2				
	精神保健福祉論	講義		6								6					桐石 梢	65・66
	精神医学Ⅰ	講義		2		◇					2					[朝井 知]	67	
	精神医学Ⅱ	講義		2		◇						2				[朝井 知]	68	
	精神保健学Ⅰ	講義		2		◇							2					
	精神保健学Ⅱ	講義		2		◇								2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2										2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2											2			
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義		2										2				
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義		2											2			
	精神保健福祉援助演習	演習		4		◇								4				
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇									12			
	老年医学	講義		2										2				
	認知心理学	講義		2									2				北島 律之	69
	心理統計学	講義		2										2			北島 律之	70
	臨床心理学	講義		2									2				琴浦 志津	71
	心理測定法	講義		2									2				北島 律之	72
	心理学基礎実験	実験		2										4			北島 律之	73
	心理療法Ⅰ	講義		2									2				琴浦 志津	74
	心理療法Ⅱ	講義		2										2			琴浦 志津	75
	心理検査法実習	実習		2										4				
	行動分析論	講義		2											2			
心理カウンセリング演習	演習		2												2			
老人・障害者の心理	講義		2												2			
色彩論	講義		2												2			
社会福祉特別演習	演習		4											4				
卒業演習	演習		4											4				

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				△	2										
	教育原理	講義	2				△	2										
	教育制度論	講義	2				△	2										
	教育課程論	講義	2				△			2							[上寺 常和]	76
	福祉科教育法	講義	4				△				4							
	特別活動論	講義	2				△			2							[上寺 常和]	77
	教育方法・技術論	講義	2				△			2							(河野 稔)	78
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2				△			2							[上寺 常和]	79
	教育相談（含カウンセリング）	講義	2				△	2										
	事前・事後指導	演習	1				△						1					
	高等学校教育実習	実習	2				△							4				
	教職実践演習（高）	演習	2				△								2			

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
- ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

《専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学Ⅱ				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもからおとなになることについての様々な課題や問題を理解し、大人になることへの支援を学ぶ。そして、おとなが自分の人生を“生きる”こととは何か、自分の人生を“生きる”ことにまつわる困難さや問題を理解し、人生を“生きる”ことへの支援について学ぶ。

子どもから大人への移行、青年期の意味と特徴、学校から社会への移行、働くことと家庭を持つことについての問題、中年期、老年期の人々の抱える種々の問題、成長から成熟へ、老いへの適応、老いから生じる問題をとりあげる。

《授業の到達目標》

青年期の課題・心理、青年が抱える問題について説明できる。成人期の課題、心理、問題について説明できる。中年期の課題、心理、問題について説明できる。老年期の課題、心理、問題について説明できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%、提出物 30%

《授業時間外学習》

青年が関係する事件や出来事について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。

成人が関係する事件や家庭の問題について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。

熟年といわれる人たちのリストラや、家庭崩壊、離婚などをめぐる事件や問題について新聞、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。老人に関して報道されている事件や問題について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	おとなになるとは 大人の定義と概念 青年期の課題と青年期のとらえ方
第 2 週	青年期の心理的特徴① 周辺人としての青年
第 3 週	青年期の心理的特徴② 青年期前期の心理 1 自我の覚醒と自立への要求
第 4 週	青年期の心理的特徴③ 青年期前期の心理 2 敏感と不安定
第 5 週	青年期の心理的特徴④ 青年期中期の心理
第 6 週	青年期の心理的特徴⑤ 青年期後期の心理
第 7 週	青年から成人へ① 恋愛と結婚 少子化時代の結婚と家庭
第 8 週	青年から成人へ② キャリア形成の心理学 学校から職業世界への移行の問題
第 9 週	成人期の心理 男女共同参画社会での仕事と家庭 自分の人生を生きる・配偶者と生きる・人生を創る
第 10 週	中年期の心理① 職場・家族のなかのでの自分らしさとは？自分を見失うとき うつ病と自殺
第 11 週	中年期の心理② 夫婦と家庭の危機 人生の成功と挫折 子どもの教育・後進の育成の問題
第 12 週	老年期の心理① 定年（組織社会からの引退）と人生の再出発・再構築
第 13 週	老年期の心理② 老いの受容と老いへの適応
第 14 週	老年期の心理③ 認知症と介護生
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I				
担当者名	Sung Lai Boo				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この科目のねらいと概要は、ソーシャルワークの専門的実践とソーシャルワーク専門職の本質と基盤についての知識を獲得し、理解することである。つまり、本科目は、グローバル社会で変化していく日本の社会的、経済的、政治的状況の中で、コミュニティや人間関係の問題、ニーズ、また困難という幅広い領域での文脈において、支援/援助を必要とする個人、家族、コミュニティを対象にサービスを提供するためのソーシャルワークの基礎的知識と共通かつ全般的な要素をジェネラリスト実践の視点から理解できるように構成されている。

ソーシャルワーク実践の入門としての本科目の内容は、国際ソーシャルワーカー連盟、米国、日本によって定義されているソーシャルワーク専門職の使命、目的、価値、倫理である重要な概念に基づいている。

《授業の到達目標》

- (1) ソーシャルワーカーの業務、役割と多様な公私機関の意義について理解し、説明できる。
- (2) ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程について理解し、説明できる。
- (3) ソーシャルワークの実践理念、目的、知識、価値について理解し、説明できる。
- (4) ソーシャルワーク実践における権利擁護の意義と範囲について理解し、基本的意味を説明できる。
- (5) ソーシャルワークに関わる専門職の概念、範囲、専門職倫理について理解し、説明できる。
- (6) ジェネラリスト・ソーシャルワークによる総合的・包括的支援とチームアプローチの意義と内容について、農村・小都市の文脈の中で理解し、説明できる。

《テキスト》

新・社会福祉養成講座（2009年3月31日）『相談援助の基盤と専門職』（中央法規）

《参考文献》

『ソーシャルワークのパワー ―今がその時―』

《成績評価の方法》

定期試験（30%）、小テスト2回（30%×2回=60%）、課題レポート10%

《授業時間外学習》

担当教員の指示により、実習指導室にて「福祉新聞」、図書館において社会福祉事典などを読んだ上で作成する課題がある。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	科目オリエンテーション： 授業全体の概要と学生への期待
第2週	ソーシャルワークとは何か
第3週	ソーシャルワークの社会的基盤： マトリックス
第4週	ソーシャルワーク専門職と社会の基本的特徴と機能
第5週	ソーシャルワークの基本的実践枠組み（1）： 使命、目的、社会的認知、価値と倫理
第6週	ソーシャルワークの基本的実践枠組み（2）： 理念、知識、技術
第7週	ミルフォード会議の意義： ジェネリックとスペシフィック（1）
第8週	ミルフォード会議の意義： ジェネリックとスペシフィック（2）
第9週	ミルフォード会議の意義： ジェネリックとスペシフィック（3）
第10週	ソーシャルワーク実践に使用された定義
第11週	ソーシャルワーク実践に使用された定義
第12週	ジェネラリスト・ソーシャルワーク： 仮説、哲学、役割
第13週	農村・小都市とジェネラリスト・ソーシャルワーク実践の視点
第14週	課題演習
第15週	総括

《専門基礎科目》

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ				
担当者名	Sung Lai Boo				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この科目のねらいと概要は、ソーシャルワークの専門的実践とソーシャルワーク専門職の本質と基盤についての知識を獲得し、理解することである。つまり、本科目は、グローバル社会で変化していく日本の社会的、経済的、政治的状況の中で、コミュニティや人間関係の問題、ニーズ、また困難という幅広い領域での文脈において、支援/援助を必要とする個人、家族、コミュニティを対象にサービスを提供するためのソーシャルワークの基礎的知識と共通かつ全般的な要素をジェネラリスト実践の視点から理解できるように構成されている。

ソーシャルワーク実践の入門としての本科目の内容は、国際ソーシャルワーカー連盟、米国、日本によって定義されているソーシャルワーク専門職の使命、目的、価値、倫理である重要な概念に基づいている。

《授業の到達目標》

- (1) ソーシャルワーカーの業務、役割と多様な公私機関の意義について理解し、説明できる。
- (2) ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程について理解し、説明できる。
- (3) ソーシャルワークの実践理念、目的、知識、価値について理解し、説明できる。
- (4) ソーシャルワーク実践における権利擁護の意義と範囲について理解し、基本的意味を説明できる。
- (5) ソーシャルワークに関わる専門職の概念、範囲、専門職倫理について理解し、説明できる。
- (6) ジェネラリスト・ソーシャルワークによる総合的・包括的支援とチームアプローチの意義と内容について、農村・小都市の文脈の中で理解し、説明できる。

《テキスト》

新・社会福祉養成講座（2009年3月31日）『相談援助の基盤と専門職』（中央法規）

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験（30%）、小テスト2回（30%×2回=60%）、課題レポート10%

《授業時間外学習》

担当教員の指示により、実習指導室にて「福祉新聞」、図書館において社会福祉事典などを讀んだ上で作成する課題がある。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	前期の振り返りとソーシャルワーク専門職の範囲
第2週	ソーシャルワーク専門職の初期の形成過程
第3週	慈善組織協会とセツルメントハウス運動の流れを学ぶ
第4週	ソーシャルワーク教育と専門職団体、組織 「ソーシャルワークは専門職か」－1915年アブラハム・フレックスナーの講演
第5週	多様なソーシャルワーク専門職に対する議論
第6週	多様なソーシャルワーク専門職に対する議論
第7週	民間の施設、組織における専門職／諸外国における social work の専門職業
第8週	ソーシャルワーク実践におけるアドボカシー
第9週	ソーシャルワーク専門職の価値の原則と倫理綱領、倫理的ジレンマ
第10週	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な実践の意義と内容
第11週	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
第12週	日本におけるソーシャルワーク実践の理念 ①人権尊重 ②社会正義 ③利用者本位 ④尊厳の保持 ⑤権利擁護 ⑥自立支援 ⑦社会的包摂 ⑧ノーマライゼーション
第13週	日本におけるソーシャルワーク実践の理念 ①人権尊重 ②社会正義 ③利用者本位 ④尊厳の保持 ⑤権利擁護 ⑥自立支援 ⑦社会的包摂 ⑧ノーマライゼーション
第14週	日本におけるソーシャルワーク実践－理念そのものの現実性と応用における課題
第15週	総括

《専門基礎科目》

科目名	家族社会学				
担当者名	磯部 香				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

私たちの身近な存在で、かつ説明しにくい「家族」を理論・体系的に理解すること、つまり「家族とは一体何なのか？」を共に考えることが、この授業のねらいです。まずは、私たちが知り体感している「家族」が一体どのようなものなのかを、統計、理論、歴史や世界の家族を学ぶことで、再確認します。そしてアンテナを張り巡らし、情報を収集し、自分の中にある「家族」の常識を疑うことによって、画一ではなく重層的な存在として「家族」を捉え直すことをめざします。

《授業の到達目標》

- 「家族」を、家族社会学の基礎概念を使用して説明することができる。
- 「家族」の歴史を知ること、「家族」が自然発生的な集団でないことを理解することができる。
- 「家族」の実情や抱えている問題を知ることによって、「家族」の多様性を理解することができる。
- 以上より、「家族」のこれからの動向を予測し、考えることができる。

《テキスト》

- ・特定のテキストは使用しません。適宜プリントを配布します。

《参考文献》

- 『21世紀家族へー家族の戦後体制の見かた・超えかた（有斐閣選書）』落合恵美子，有斐閣，2004
- 『21世紀アジア家族』落合恵美子，上野加代子（編），明石書店，2006
- 『ライフコースとジェンダーで読む家族（有斐閣コンパクト）』岩上真珠，有斐閣，2007
- 『論点ハンドブック 家族社会学』野々山久也，世界思想社，2009

《成績評価の方法》

- ・ミニ・ディスカッション等の授業参加度：20%（参加意欲および協力度と作業シートによって評価する）
- ・ミニレポート・感想文の課題提出：20%（提出遅れについては減点の対象とします）
- ・定期試験：60%（試験は資料やノート等は「持ち込み不可」とします）

《授業時間外学習》

- ・ミニ・ディスカッション及び、ミニレポートの提出を求めることがありますので、日頃から家族に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、目を配るようにしてください。
- ・配布資料には必ず目を通し、分からない箇所に関しては、質問したり調べたりしてください。
- ・VTR 視聴後などに感想文を書いてもらいますので、次週までに提出してください。

《備考》

- ・遅刻や私語は慎むように努めてください。
- ・分からない箇所に関しては、授業中・授業後に質問を受け付けます。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	ガイダンス 授業の進め方の説明	
第 2 週	家族とは何か（1）家族の実態と、家族社会学の基本概念	
第 3 週	家族とは何か（2）家族社会学の基本概論	
第 4 週	家族の歴史 戦前（1） 良妻賢母と家庭と「家」	《VTR 視聴》
第 5 週	家族の歴史 戦前戦後（2） 近代家族と国家	
第 6 週	恋愛結婚と家族 配偶者選択	
第 7 週	ジェンダーと家族 性別役割分業と子ども	
第 8 週	多様な家族（1）ひとり親家族、里親、事実婚、国際結婚	《VTR 視聴》
第 9 週	多様な家族（2）離婚、再婚とステップファミリー	《VTR 視聴》
第 10 週	多様な家族（3）世界の家族①：アジアの家族	
第 11 週	多様な家族（4）世界の家族②：欧米の家族	
第 12 週	家族をめぐる問題 DV、虐待、無縁社会	
第 13 週	ケアをめぐる家族（1）：少子高齢化社会との関係	
第 14 週	ケアをめぐる家族（2）：ケアのグローバル化	
第 15 週	まとめ 家族の未来、家族を超えて	《ディスカッション》

《専門基礎科目》

科目名	家族福祉論				
担当者名	高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

家族ソーシャルワークの実践に関する考え方を理解することをねらいとして、家族ソーシャルワークの基本的な考え方、家族力動をアセスメントするためのモデル、マッピング技法、および面接技法を解説する。

《授業の到達目標》

家族ライフサイクル、家族ストレス、家族システムの各モデルを理解する。

《テキスト》

『ワークブック 社会福祉援助技術演習③ 家族ソーシャルワーク』倉石哲也著 ミネルヴァ書房

《参考文献》

随時紹介する

《成績評価の方法》

課題レポート 100%

《授業時間外学習》

テキストの演習課題の予習・復習

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	1 家族ソーシャルワークの基本的な考え方 ①家族ソーシャルワークの価値（事例から家族ソーシャルワークの価値を考える）
第 2 週	②家族ソーシャルワークの原理（家族福祉の考え方、基本的な視点、原理、事例から考える）
第 3 週	③家族ソーシャルワークの対象（制度・理念としての対象、社会的資源、人的資源、あなたを支える人について考える）
第 4 週	2 家族力動をアセスメントし、プランニングするためのモデル ①家族ライフサイクル・モデル（養育期の家族、輩出期の家族、老年期の家族、事例研究）
第 5 週	②家族ストレス・モデル（家族ストレスについて、ABC-X理論、事例研究）
第 6 週	③家族システム・モデル（家族システムについて、家族の問題維持の連鎖、連鎖図と介入プラン、事例研究）
第 7 週	3 家族生活環境をアセスメントし、プランニングするためのマッピング技法 ①ジェノグラム（家族関係図）
第 8 週	②エコマップ（家族生態図）
第 9 週	③プランニング表（サービス調整）
第 10 週	4 家族面接を進める技法 ①個人面接の技法（バイスティックの原則、留意点、ロールプレイ）
第 11 週	②家族初回面接の技法（初回面接の段階と方法、留意点、ロールプレイ）
第 12 週	③家族面接を展開するための技法（基本的態度、介入、留意点、ロールプレイ）
第 13 週	5 事例研究 ①事例を理解しアセスメントを行う（エコマップの活用、発表）
第 14 週	②アセスメントとプランニング（家族ライフサイクル、家族ストレス、家族システムの視点からアセスメントとプランニングを行う）
第 15 週	③発表（仲間の感じ方や考え方の相違を意識しながら、自分自身の考えを深める）

《専門基礎科目》

科目名	発達心理学				
担当者名	山田 佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

発達とは、人間が受精してから死に至るまでの変化過程のことである。ただし、その変化は、例えば、赤ちゃんが歩けるようになったなどのような進歩的発達だけではなく、退化的発達もある。これは、壮年期以降は、心身の発達は少しずつ衰えていく傾向を示すが、自己の専門性は向上していく。このように、発達心理学は、一生涯の変化を取り扱う。本講義では、各発達段階の基本的事項を押さえ、関心をもてるように最近の話題を取り入れながら、発達心理学の概要をできるだけ分かりやすく説明していく。

《授業の到達目標》

発達心理学の基礎的知識の習得を目指す。そして、発達の各段階を独立してみていくのではなく、発達という枠組みの中で、関連性を見出していくことを目標にする。

《テキスト》

『発達心理学』 山本利和編 培風館

《参考文献》

適宜、指示する。

《成績評価の方法》

試験で評価する。(100%)

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	発達心理学とは？ 発達心理学の概要の説明
第 2 週	発達の意味を考える
第 3 週	発達の理論 代表的な理論の説明など
第 4 週	胎児期から誕生まで 胎児期の発達などについて
第 5 週	乳児期 新生児期も含め、心身の発達などについて
第 6 週	幼児期前期 幼児期前期 (3歳くらいまで) の発達について
第 7 週	幼児期後期 幼児期後期 (6歳くらいまで) の発達について
第 8 週	学童期 身体・知的・社会性の発達などについて
第 9 週	種々の発達検査 発達検査の概要について
第 10 週	青年期① 青年期の発達についての概要について
第 11 週	青年期② アイデンティティ、青年期における発達課題について
第 12 週	成人期 成人の認知能力・人格発達・家庭・労働などについて
第 13 週	中年期・老年期① 生理的能力の変化・知的能力の変化・パーソナリティの変化などについて
第 14 週	中年期・老年期② 生理的能力の変化・知的能力の変化・パーソナリティの変化などについて
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	人間関係論				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

良好な人間関係は困った時に支え助けてくれるが、良好でない人間関係は敵対的で、時には傷つけられる危険性すらあり、ストレスのもととなる。この授業では人間関係や良好な人間関係の作り方などに関する理論、実験、実践例などについて心理学の観点から学ぶ。授業では、社会の中の人間関係と個人の視点からの人間関係について概念を整理しながら学びを深めていく。前者では集団とリーダーシップのダイナミクスを学び、後者での人間関係を対人関係という概念に置き換え、コミュニケーション、自己理解、自己意識、対人関係の発達、対人関係の分析、対人関係の病理などについて学ぶ。

《授業の到達目標》

人間関係についての基礎的な専門用語について説明できる。
 自分をとりまく人間関係をある程度分析できる。
 良い人間関係をつくるスキルを日々の生活に応用できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%、レポートなど提出物 30%

《授業時間外学習》

人間関係の悩みについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、報告する
 自分をとりまく人間関係について、授業で学んだこととの関連を探して、報告する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 現代の人間関係の特徴と問題
第 2 週	人間関係論と対人関係のちがひ 人間関係論のはじまり ; ホーソン研究と集団力学
第 3 週	集団とリーダーシップ リーダーシップ研究の変遷 その 1
第 4 週	集団とリーダーシップ リーダーシップ研究の変遷 その 2
第 5 週	対人関係と自己理解 1 自己理解を深める ジョー・ハリーの窓
第 6 週	対人関係と自己理解 2 心理テストを通じた自己理解
第 7 週	対人関係と自己理解 3 他者から見た自己理解
第 8 週	対人関係と自己理解 4 印象形成、対人魅力
第 9 週	自己意識・自己概念の発達
第 10 週	対人関係とコミュニケーション
第 11 週	カウンセリングにおける人間関係のあり方 受容と共感的理解
第 12 週	対人関係の分析 1 エゴグラムと交流分析
第 13 週	対人関係の分析 2 交流分析 : ストローク、ゲーム、ラケット、脚本分析
第 14 週	対人関係ストレスとストレスコーピング
第 15 週	人間関係の病理

《専門基礎科目》

科目名	健康心理学				
担当者名	山田 佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

健康心理学は、比較的新しい心理学の応用分野である。ストレス社会と言われるように、心と健康については、非常に関心の高いところで、その密接な関連性についてはいうまでもない。大人だけではなく子供についても同様である。健康心理学は、健康の増進や、疾病予防や治療などについて、心理学的立場からその解決に役立つようにしていくものである。関連領域も幅が広い。本講義では、できるだけ身近に関心のある分野を中心に、解説していくようにし、基礎事項を習得できるようにつとめていく。

《授業の到達目標》

理論と実践の融合をはかりつつ、健康心理学の基礎的知識の習得を目指す。

《テキスト》

『健康心理学がとってよくわかる本』 野口京子著 東京書店

《参考文献》

適宜、指示する

《成績評価の方法》

試験で評価する。(100%)

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	健康心理学とは何か？ 心理学との関連性
第 2 週	健康心理学の基礎知識①
第 3 週	健康心理学の基礎知識②
第 4 週	ストレスと心の健康①
第 5 週	ストレスと心の健康②
第 6 週	心の病気になりやすい人、なりにくい人①
第 7 週	心の病気になりやすい人、なりにくい人②
第 8 週	いろいろな心の病気
第 9 週	ストレスから心を守る秘訣
第 10 週	劣等感コンプレックスの解消法
第 11 週	人間関係を円滑にするコミュニケーション術
第 12 週	心身を健康に保つリラックス法
第 13 週	心の健康を取り戻すカウンセリング
第 14 週	まとめ①
第 15 週	まとめ②

《専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション心理学 I				
担当者名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会心理学の対人コミュニケーション領域に特化した授業を行う。特に私たちの日常のシーンにおける人と人との、対人コミュニケーションについての理論を学び、対人コミュニケーションに関する実証的な心理学実験を実施する。なお、関連科目であるコミュニケーション心理学IIでは、臨床心理学的テーマ・webコミュニケーション・マスコミュニケーションとコミュニケーションの視点を拡大していく。

《授業の到達目標》

人と人との関係性、魅力などの対人コミュニケーションに関する諸理論の理解。

《テキスト》

使用しない。適時、プリント等の資料を配布する。

《参考文献》**《成績評価の方法》**

- ・講義内ディスカッション 20%
- ・レポート等の提出物 20%
- ・定期試験 60%

《授業時間外学習》

- ・対人コミュニケーションに関わる知見についての個人的見解や意見の構築
- ・配布資料などの知識の復習

《備考》

友達や家族などとの、何気ないコミュニケーションの際の『あれっ?』という疑問や発見を、ぜひあなたのテーマにしてください。本講義で、そのメカニズムを解明していきましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	コミュニケーション心理学 I についての教科オリエンテーション	
第 2 週	コミュニケーションの心理的要因	
第 3 週	身体と心理との関係性	《VTR 視聴》
第 4 週	対人コミュニケーション : 2者間の相性について 遺伝説と環境説	
第 5 週	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション1.	
第 6 週	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション2.	《VTR 視聴》
第 7 週	対人識別判断の心理学実験	
第 8 週	説得的コミュニケーション	
第 9 週	対人イメージ構造の心理学実験1.	《コンピュータ使用》
第10週	対人イメージ構造の心理学実験2.	《コンピュータ使用》
第11週	対人イメージ構造の心理学実験3.	《コンピュータ使用》
第12週	対人魅力と対人好悪1	
第13週	対人魅力と対人好悪2.	《VTR 視聴》
第14週	社会的比較過程	
第15週	コミュニケーション心理学 I のキーワードとまとめ	

《専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション心理学Ⅱ				
担当者名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会心理学の諸理論および臨床心理学のコミュニケーションに関する知見に基づき講義を行う。関連科目であるコミュニケーション心理学Ⅰでは、特に私たちの日常のシーンにおける人と人との対人コミュニケーションについて検討を行うが、本科目では、臨床心理学的テーマ・webコミュニケーション・マスコミュニケーションと、コミュニケーションの視点を拡大していく。そのため、できるだけ本科目の履修者はコミュニケーション心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

《授業の到達目標》

コミュニケーション心理学について、とりわけ社会的応用場面での活用と、周辺諸理論について理解し説明ができる。

《テキスト》

使用しない。適時、プリントなどの資料を配布する。

《参考文献》

《成績評価の方法》

- ・講義内ディスカッション 20%
- ・レポート等の提出物 20%
- ・定期試験 60%

《授業時間外学習》

- ・配布資料の復習
- ・新聞・テレビ・web などからコミュニケーションに関する事象の収集。

《備考》

個人と個人、個人とコミュニケーション媒体の情報のやりとりで、感じたり、思ったりしたことを授業にフィードバックしてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	コミュニケーション心理学Ⅱについての教科オリエンテーション。	
第 2 週	コミュニケーションの臨床心理学との接点	
第 3 週	無気力とコミュニケーション : 発生要因と対処 産業カウンセリングの事例報告を中心に	
第 4 週	怒りとコミュニケーション : 発生要因と対処 産業カウンセリングの事例報告を中心に	
第 5 週	ストレス・不安とコミュニケーション : 発生要因と対処 産業カウンセリングの事例報告を中心に	
第 6 週	サイコセラピーの種類とコミュニケーション技法 1. 認知行動理論	《VTR 視聴》
第 7 週	サイコセラピーの種類とコミュニケーション技法 2. 折衷理論	《VTR 視聴》
第 8 週	電子コミュニケーション 1. Web の特性と行動変容 1.	《パソコン使用》
第 9 週	電子コミュニケーション 2. Web の特性と行動変容 2.	《パソコン使用》
第 10 週	集団間コミュニケーション 1. 場理論と役割理論	
第 11 週	集団間コミュニケーション 2. リーダーシップとコーチング理論	
第 12 週	マスコミュニケーション 1. : 社会的態度とイデオロギー	
第 13 週	マスコミュニケーション 2. : ファッションと消費者心理	
第 14 週	マスコミュニケーション 3. : テレビ CM 効果	《VTR 視聴》
第 15 週	コミュニケーション心理学Ⅱのキーワードとまとめ。	

《専門基礎科目》

科目名	教育心理学				
担当者名	山田 佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育心理学とは、教育に関係ある事象を心理学的に研究していくもので、それには様々な方法があるが、それを心理学の考え方や技術で解決していこうとする学問である。その領域は、従来は、発達、教授・学習、人格・適応、測定・評価が中心であったが、最近では、様々な教育背景もあり、領域は、“カウンセリング”など臨床の分野があげられるなど、多岐に渡っている。本講義では、このような領域をできるだけ平易に講義していく。そして、教育心理学の基礎的知識の習得や問題場面における知識・技能の習得を目指していく。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎的な知識の習得や問題場面における知識・技能の習得を目指す。

《テキスト》

『学生・教師のための教育心理学』 田中敏隆編著 田研出版

《参考文献》

適宜、指示する

《成績評価の方法》

試験で評価する。(100%)

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育心理学とは① 教育心理学の定義について
第 2 週	教育心理学とは② 教育心理学の研究分野や研究法について
第 3 週	発達過程と指導① “発達”の概要と、乳児期（胎児期・新生児期含む）と幼児期について
第 4 週	発達過程と指導② 児童期・青年期を中心に、壮年期・老年期まで
第 5 週	学習と教授の心理 学習の基本的な理論や動機付けなどについて
第 6 週	人格の心理 パーソナリティ研究の代表的なアプローチや人格形成の諸要因について
第 7 週	学級の心理と指導 学校における基本的な単位である学級について
第 8 週	教育評価① 教育評価の目的・意義・学力・評価・指導要録・通知表などについて
第 9 週	教育評価② 知能と測定・人格の測定について
第 10 週	心理検査 各種の心理検査（発達検査・知能検査・性格検査）について
第 11 週	カウンセリングの理解と方法 理論・カウンセリングの方法・学校カウンセリングについて
第 12 週	問題行動と指導及び小児の心身症 幼児期・児童期・思春期の問題行動などについて
第 13 週	障害児の心理と指導 障害児の理解や指導法の研究について
第 14 週	まとめ①
第 15 週	まとめ②

《専門基礎科目》

科目名	演習Ⅱ				
担当者名	稲富 恭・田端 和彦・Sung Lai Boo・吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	6・必	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

演習Ⅱでは、コミュニティ・アワーの経験を通じて、自らのコミュニティの特質を学ぶことになる。そして、①ソーシャルワーカーとして何を知っておかねばならないのか（知識の面）、②どのような方法で問題解決や変化を生み出しいくのか（技術の面）、③どのようなコミュニティが望ましいのか、望ましくないのか（価値の面）、を考えられるようになる。

コミュニティ・アワーは「地域を教科書として」学ぶことにより、学生はジェネラリスト・ソーシャルワーカーとなる基礎的知識と実践的技術を獲得する。具体的には加古川市、宍粟市、稲美町に調査に出て社会福祉実践のある側面に関する直接的な知識と情報を得る。小都市・町村地域において、社会生活を支える資産にはどのようなものがあるか、そこで暮らす人々の福祉ニーズはどのようなものか、また福祉ニーズにコミュニティはどのように対応しようとしているのか、などを知る。

《授業の到達目標》

・調査を通して、ソーシャルワークの理論と実践の基礎となる技能（観察能力や問題の認識能力、批判的思考力、分析能力、問題解決能力など）が高まる。

・コミュニティ・アワーの経験を通して、ソーシャルワーカーとしての適性を確認しながら、自己認識と専門的自我が成長する。

《テキスト》

特に定めない。プリントを用意する。

《参考文献》

授業中に指示をする。

《成績評価の方法》

参加態度・グループにおける活動への参加の配点：50点

課題や提出物の状況の配点：50点

《授業時間外学習》

コミュニティ・アワーは教室で学ぶほか、夏季休業期間中などに実際に現地での調査を含む。

地域ごとのグループに分かれて学習する。報告会の準備、報告書の作成など授業時間以外にもグループで活動するため、自発的な学習が必要である。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・ゼミのポリシー（地域をテキストとして学ぶ、共に学ぶ）について ・学習の目的 ・到達目標 ・ゼミの運営方法 ・グループ編成の発表 ・アイスブレイキング
第 2 週	地域にアプローチする（1） ・ジェネラリストソーシャルワークについて
第 3 週	地域にアプローチする（2） ・エコロジカル視点について
第 4 週	地域を知る（1） ・基礎情報を把握する
第 5 週	地域を知る（3） ・社会資源について確認する ・グループ学習について
第 6 週	地域を観る（1） ・主要テーマの提示とグループでのそれに基づくサブテーマの設定
第 7 週	地域を観る（1） ・主要テーマの提示とグループでのそれに基づくサブテーマの設定
第 8 週	地域を観る（2） ・グループでのサブテーマの検討
第 9 週	地域を観る（3） ・グループでの現地での聞き取り調査、情報の収集
第10週	地域を観る（4） ・グループでのサブテーマの検討
第11週	地域を観る（5） ・サブテーマの発表
第12週	地域を観る（6） ・サブテーマの発表、議論、決定
第13週	地域を観る（7） ・サブテーマの決定・発表
第14週	地域を観る（8） ・サブテーマの決定・発表
第15週	Ⅱ期の準備

《専門基礎科目》

科目名	演習Ⅱ				
担当者名	稲富 恭・田端 和彦・Sung Lai Boo・吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	6・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

I期に引き続き、コミュニティ・アワーを行う。コミュニティにおける課題を現地で把握する。グループでの調査、ディスカッション、レポート作成、報告会などを行う。一連の演習の作業の中で、チームワークを養い、リーダーシップを発揮する術を学ぶ。一連の作業をチームで行うという学習を通し、ソーシャルワーカーとして、あるいは福祉を学ぶ者としての自覚を促す。

《授業の到達目標》

- ・コミュニティ・アワーにおける調査、分析、報告を通し、異なる個性、能力を持ったメンバーで構成されるチームにおいて、協調性を保ちながら自らの能力を最大限に発揮しチームに貢献する自覚を持ち、そのための能力を向上させることができる。
- ・チーム活動のためのリーダーシップを発揮することができる。
- ・調査活動や分析、報告に関するノウハウや知識を身につける。
- ・社会福祉やソーシャルワーク活動に関する基礎的な知識を身につける。

《テキスト》

特に定めない。プリントを用意する。

《参考文献》

授業中に指示をする。

《成績評価の方法》

参加態度・グループにおける活動への参加、貢献の配点（グループ活動への参加が不十分の場合は0点の場合もある）：50点
課題や提出物の状況の配点：50点

《授業時間外学習》

- ・コミュニティ・アワーは教室で学ぶほか、授業時間の他、休日や時間外に実際に現地に赴いての調査を含む。
- ・地域ごとのグループに分かれて学習する。報告会の準備、報告書の作成など授業時間以外にもグループで活動するため、自発的な学習が必要である。

《備考》

実際に地域に赴き活動するため、兵庫大学生としての自覚と誇りをもって対応すること。明らかにこれと反する姿勢や行動が見られた場合は、厳正な措置を講ずる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	Ⅱ期オリエンテーション ・ I期の振り返りと反省点。 ・ Ⅱ期の授業内容と計画。
第 2 週	問題解決のための社会資源の活用（1） ・ 現代の地域における問題、課題を抽出する。
第 3 週	問題解決のための社会資源の活用（2） ・ 抽出した問題の要因は何か、背景に何があるかを抽出する。
第 4 週	問題解決のための社会資源の活用（3） ・ 現在の政策（国、地方）は何か（保育政策、就業支援等・・・）を考える。
第 5 週	問題解決のための社会資源の活用（4） ・ 問題に関するテーマとサブテーマの提示。
第 6 週	問題解決のための社会資源の活用（5） ・ 問題解決のためにどのような社会資源の活用が可能か。 ・ グループで議論をして仮説を立てる。
第 7 週	問題解決のための社会資源の活用（6） ・ サブテーマとなっている問題の解決に社会資源の活用が可能か、調査方法の検討。
第 8 週	問題解決のための社会資源の活用（7） ・ 中間発表。 ・ 仮説の説明と調査方法についての説明。
第 9 週	問題解決のための社会資源の活用（8） ・ 聞き取り調査。 ・ アンケート調査。
第 10 週	問題解決のための社会資源の活用（9） ・ 聞き取り調査。 ・ アンケート調査。
第 11 週	発表準備 ・ 調査に不十分がないか、確認をする。
第 12 週	発表準備 ・ 調査に不十分がないか、確認をする。
第 13 週	発表準備 ・ 調査に不十分がないか、確認をする。
第 14 週	発表会
第 15 週	演習Ⅱの振り返り

《専門コア科目》

科目名	社会保障論 I				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて解説し、制度の体系と概要について理解する。

《授業の到達目標》

社会保障の役割、理念や機能について理解する。
 社会保障の構造を把握し、制度の体系について理解する。
 社会保障の財源と費用を学び、社会保障財政のトレンドについて理解する。
 社会保障を構成する主制度の内容、現状、将来展望について説明できる。

《テキスト》

『社会保障（新・社会福祉士養成講座 12）』社会福祉士養成講座編集委員会（編）、中央法規出版、2009、および授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験 70%、授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する）。

《授業時間外学習》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

市場経済は万能なシステムではなく、常に最適な資源配分をもたらす訳ではない。また、公平性について言えば、市場経済が望ましい結果を生み出す保証はない。こうした市場の失敗から様々な社会問題が発生する。社会保障制度は、社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し、人々の社会的なつながりを強めることを目指してきた。豊かで安定した市民生活を実現するうえで、社会保障サービスの拡充は不可欠であるが、従来の日本では経済的繁栄を追いあまり、制度の充実はなおざりにされてきた。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

なお、欠席回数が授業実施回数の3分の1を超えた者には定期試験の受験資格が与えられない。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（講義の課題と対象）：社会の変化と社会保障
第 2 週	社会保障の理念と機能（定義、目的、範囲、体系等）
第 3 週	社会保障の役割と意義（所得保障、医療保障、社会福祉）
第 4 週	社会保障の財源
第 5 週	社会福祉（1） （社会福祉の法制度、動向）
第 6 週	社会福祉（2） （社会福祉の実施体制、社会福祉制度形成史）
第 7 週	社会福祉（3） （社会福祉施策：生活保護、児童福祉、障害者福祉）
第 8 週	社会福祉（4） （社会福祉施策：母子福祉、老人福祉、介護保険）
第 9 週	近年の社会保障・福祉制度改革 （社会福祉基礎構造改革、高齢者介護政策、少子化対策、障害者政策、医療改革、年金改革等）
第 10 週	医療保障（1） （医療費の動向）
第 11 週	医療保障（2） （日本における医療供給システムの特徴、医療保険制度）
第 12 週	医療保障（3） （医療制度改革）
第 13 週	所得保障（1） （年金制度の仕組み）
第 14 週	所得保障（2） （日本の年金制度）
第 15 週	所得保障（3） （児童手当、労働保険）

《専門コア科目》

科目名	社会保障論Ⅱ				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係等、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、諸外国における社会保障制度の発達過程についても理解を深める。

《授業の到達目標》

現代社会における社会保障制度の課題（格差問題、少子化問題、高齢化問題等）について、それらの本質や動向について理解する。社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで、公共サービスの民営化や市場化、再国営化を推し進める意義や背景をより深く理解できるようにする。

社会保障制度の歴史的展開に対する学習を通して、制度の本質や形成のメカニズムを理解する。

《テキスト》

『社会保障（新・社会福祉士養成講座 12）』社会福祉士養成講座編集委員会（編）、中央法規出版、2009、および授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験 70%、授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する）。

《授業時間外学習》

社会保障制度が直面する諸課題については、基礎的な情報や今日の動向が新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。

限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

市場経済は万能なシステムではなく、常に最適な資源配分をもたらす訳ではない。また、公平性について言えば、市場経済が望ましい結果を生み出す保証はない。こうした市場の失敗から様々な社会問題が発生する。社会保障制度は、社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し、人々の社会的なつながりを強めることを目指してきた。豊かで安定した市民生活を実現するうえで、社会保障サービスの拡充は不可欠であるが、従来の日本では経済的繁栄を追うあまり、制度の充実はなおざりにされてきた。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

なお、欠席回数が授業実施回数の3分の1を超えた者には定期試験の受験資格が与えられない。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（講義の課題と対象）：社会政策の新しい課題
第 2 週	現代社会における社会保障制度の課題 1（格差問題）
第 3 週	現代社会における社会保障制度の課題 1（格差問題・労働環境の変化・男女共同参画・ワークライフバランス）
第 4 週	現代社会における社会保障制度の課題 2（少子化をめぐる諸問題 1）
第 5 週	現代社会における社会保障制度の課題 2（少子化をめぐる諸問題 2）
第 6 週	現代社会における社会保障制度の課題 3（高齢化をめぐる諸問題 1）
第 7 週	現代社会における社会保障制度の課題 3（高齢化をめぐる諸問題 2）
第 8 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（福祉サービス供給・財源調達・管理運営をめぐる公私関係 1）
第 9 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（福祉サービス供給・財源調達・管理運営をめぐる公私関係 2）
第 10 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（社会保障と民間保険）
第 11 週	社会保障の歴史的展開（1）（英国 1）
第 12 週	社会保障の歴史的展開（2）（英国他）
第 13 週	社会保障の歴史的展開（3）（日本 1）
第 14 週	社会保障の歴史的展開（4）（日本 2）
第 15 週	学習のまとめ

《専門コア科目》

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度				
担当者名	井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、社会サービスの一つをソーシャルワークとの関連において説明しようとするものである。すなわち、最初に人が障害を負った際、どのような生物学的変化が生じるのかをいくつか例を提示し、その生物学的変化によって心理状態がどのように変わるのか、結果として社会的な行動がいかに変化していくのかを説明する。すなわち、障害を負ったことで人の **social functioning** がどのように変化するのかを説明する。次に、障害者福祉に関わる政策論を展開する。これには、障害者に対する直接的なサービスを提供する法的根拠と、その法律がどのように運用されているのかを説明する。もちろん、これにはサービスが効果的に・効率的に運用されているかどうかという視点も含んでいる。

《授業の到達目標》

- (1) 知識・理解の観点からは、①障害者が障害をもつ故にどのような **dys-functioning** を生み出しているかを説明できる、②障害者についての制度・政策論について説明できる
- (2) 関心・意欲の観点からは、障害者福祉の現状から、改善点を指摘できる
- (3) 態度・価値観の観点からは、自らの障害者観を他者と論じることができる

《テキスト》

毎回レジュメを配布する

《参考文献》

当事者の手記などはできるだけ読むことが望ましいので、適宜紹介する

《成績評価の方法》

到達目標のうち、知識の観点についてはテストで評価する。態度や関心の観点については小レポートにおいて、自らの障害者観がどれだけ表現されているか（うまく表現されている、やや表現されている、全く表現されていない）の三段階で評価する。テストが 70%、小レポートが 30%で評価する。

《授業時間外学習》

必要に応じて文献を紹介し、その文献のもとに授業を展開する。

《備考》

授業の理解度に合わせて講義を展開していくので、授業ごとにリアクション・メールの送付を求める。送付先アドレスは h-inoue@hyogo-dai.ac.jp である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション、小レポート 【内容】授業の進め方について、成績評価について、障害者に対する見方を知るための小レポート作成
第 2 週	障害者福祉の基本的理念 【内容】ノーマライゼーション・バロリゼーション
第 3 週	障害者とは (1) 【内容】生物学的・心理学的理解
第 4 週	障害者とは (2) 【内容】社会学的理解、生物－心理－社会学的理解
第 5 週	障害者とは (3) 【内容】WHOの定義
第 6 週	障害者とは (4) 【内容】障害者基本法、身体障害者福祉法
第 7 週	障害者とは (5) 【内容】知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法
第 8 週	障害者に対する見方を知る 【内容】第一回目で提出した小レポートについてのグループ討議とレポートの提出
第 9 週	障害者支援の法的根拠 (1) 【内容】障害者自立支援法成立の過程－対象者、サービス分配の方法、財政的側面について－
第 10 週	障害者支援の法的根拠 (2) 【内容】障害者自立支援法－介護給付について
第 11 週	障害者支援の法的根拠 (3) 【内容】障害者自立支援法－地域生活支援事業
第 12 週	障害者支援の法的根拠 (4) 【内容】障害者自立支援法－その他のサービス
第 13 週	障害者支援の法的根拠 (5) 【内容】バリアフリーとユニバーサルデザイン
第 14 週	障害者支援の方法論 【内容】障害者ケアマネジメントについて
第 15 週	まとめ 【内容】障害者福祉をソーシャルワークからとらえ直す

《専門コア科目》

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				
担当者名	高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における子どもや子育ての状況を把握し、社会全体で子どもの育ちと家庭を支援する仕組みを考えることをねらいとして、現代社会と子ども家庭の実態、子ども家庭福祉の理念、発達史、制度、分野別の現状を説明する。さらに、理念と現状を踏まえて、子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク実践上の留意点を考える。

《授業の到達目標》

現代社会における子どもと子ども家庭の現状と課題を把握する。子ども家庭福祉の理念と制度及び実践体系を理解する。

《テキスト》

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』社会福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規

《参考文献》

随時紹介する

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《授業時間外学習》

「児童の権利に関する条約」「児童福祉法」「児童福祉施設最低基準」の内容を把握する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と子どもの現状を把握する。(少子高齢社会と次世代育成支援、子ども家庭福祉の方向性、子育てをめぐる現状、子ども家庭福祉ニーズ)
第 2 週	子ども家庭福祉の理念(子ども家庭福祉の定義、内容、領域、権利保障、児童の権利に関する条約、子ども家庭福祉の発達史)
第 3 週	子ども家庭福祉の法体系(児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法)
第 4 週	子ども家庭福祉の行政機関と関連機関(児童相談所、福祉事務所、保健所、家庭裁判所、審議機関)
第 5 週	児童福祉施設(児童福祉施設最低基準、助産施設、乳児院、保育所、児童養護施設、知的障害児施設、知的障害児通所施設、肢体不自由児施設、盲ろうあ児施設、重症心身障害児施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童厚生施設、児童家庭支援センター)
第 6 週	分野別の目的と内容、現状と課題①母子保健
第 7 週	分野別の目的と内容、現状と課題②障害・難病のある子どもと家庭への支援
第 8 週	分野別の目的と内容、現状と課題③児童健全育成
第 9 週	分野別の目的と内容、現状と課題④保育
第 10 週	分野別の目的と内容、現状と課題⑤子育て支援
第 11 週	分野別の目的と内容、現状と課題⑥ひとり親家庭への支援
第 12 週	分野別の目的と内容、現状と課題⑦社会的養護
第 13 週	分野別の目的と内容、現状と課題⑧非行と情緒障害への支援
第 14 週	分野別の目的と内容、現状と課題⑨児童虐待への支援
第 15 週	子ども家庭へのソーシャルワーク(ソーシャルワークの基本的視点、施設ケア、地域援助活動)

《専門コア科目》

科目名	地域福祉の理論と方法 I				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

福祉国家から福祉社会への移行の中で、地域で福祉を担う必要があり、地域におけるソーシャルワークの重要性が高まっています。その実践は地域にある様々な資源（人や制度、施設）とソーシャルキャピタルを結び、人々の自立の支援が必要です。授業では、地域や自治体の定義やソーシャルキャピタルについての概念を示し、地域福祉に不可欠なさまざまな制度や組織の役割、地域福祉計画の役割などを解説し、さらに福祉社会における地域福祉の意義を歴史的な経緯を含めて説明します。

《授業の到達目標》

- ・地域福祉の概念、地域福祉に係る制度、資源についての知識を獲得する。

《テキスト》

ありません。プリントを配布します。

《参考文献》

授業内で指示をします。

《成績評価の方法》

テストが70%、日常点（レポート、授業内の発言、小テスト）が30%です。

《授業時間外学習》

事前に参考文献を指示しますので読んでおいて下さい。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス／地域とは何か
第 2 週	2 地域の定義～コミュニティ、自治体、自治会
第 3 週	3 地域福祉に関わる組織①～地域福祉の要となる社会福祉協議会
第 4 週	4 地域福祉に関わる組織②～NPO 法人とは何か
第 5 週	5 地域福祉に関わる組織③～地域包括支援センターと社会福祉士の役割
第 6 週	6 地域福祉に関わる組織④～民生委員と自治会、町内会、ボランティア
第 7 週	7 地域福祉が登場した背景と意義①～近代以前の社会における地域と福祉
第 8 週	8 地域福祉が登場した背景と意義②～自助から社会的課題へ
第 9 週	9 地域福祉が登場した背景と意義③～日本の地域福祉の登場とその源流
第 10 週	10 地域福祉が登場した背景と意義④～福祉社会の成立と地域福祉
第 11 週	11 地域福祉に関連する制度①～地域福祉計画
第 12 週	12 地域福祉に関連する制度②～指定管理制度と委託事業
第 13 週	13 ソーシャルキャピタルとは何か
第 14 週	14 地域福祉教育
第 15 週	15 まとめと総括

《専門コア科目》

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度				
担当者名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「低所得者に対する支援と生活保護制度について学ぶ」

公的扶助制度の基本的な理解と共に、特に低所得者に対する様々な支援と生活保護制度を中心として、現代社会における貧困事例等も取り上げながら、公的扶助制度の運営上の問題や生活保護制度が直面する課題について理解する。具体的には、最近特にマスコミ等でも取り上げられる現代社会における貧困や低所得者に対する支援と課題を中心に、「人間らしく生きること」を改めて問い直し、自己の問題として考える。

《授業の到達目標》

- ①わが国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を理解する。
- ②生活保護制度の役割と社会的意義、また今日の問題を考える。
- ③昔の貧困と現代社会における様々な貧困について理解する。
- ④現代社会の貧困をめぐる社会的諸課題について自分達の問題として考える。
- ⑤貧困の現実と制度との関連、また歴史や実践を通して公的扶助論の役割を理解する。

《テキスト》

著者名/Authors : 杉村宏・岡部卓・布川日佐史 編著

書名/Title : 『よくわかる公的扶助』

出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房 (改訂版、最新版)

その他、随時プリント等を配布。

《参考文献》

著者名/Authors : 岡部卓・六波羅詩朗

書名/Title : 新・社会福祉士養成講座 第16巻『低所得者に対する支援と生活保護制度』

出版社・出版年/Publisher・Year : 中央法規出版・2009年3月刊行 1680円

《成績評価の方法》

出席状況/Attendance (20%)

学期末試験など/Final exam (60%)

その他グループ討議の発表態度などを総合的に判断 (20%)

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、その都度指示された期日までに提出のこと。
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見出し、不明の点は連絡先メールなどで確認のこと。

《備考》

・連絡用メールアドレス sazanka@guitar.ocn.ne.jp

・課題提出先：三木市吉川町大沢418番地 社会福祉法人吉川福祉会 高齢者総合福祉施設さざんかの郷

電話 (0794) 72-1170 FAX (0794) 72-2355

※授業計画における毎回のテーマや内容は、講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、福祉現場での実践事例やマスコミ報道等の資料を多く活用し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス (コース概要) 公的扶助を学ぶ視点
第2週	現代社会の中の貧困
第3週	公的扶助と関連施策
第4週	公的扶助制度の歴史 (イギリス公的扶助と日本の救貧制度)
第5週	生活保護制度の成立過程
第6週	生活保護制度のしくみⅠ (目的と基本原理・実施上の原則)
第7週	生活保護制度のしくみⅡ (保護基準と保護の種類・方法)
第8週	生活保護制度のしくみⅢ (保護の実施と費用・権利と義務)
第9週	生活保護の政策と動向
第10週	生活保護におけるソーシャルワーク実践
第11週	相談援助技術と実際
第12週	海外の公的扶助
第13週	生活保護制度の課題
第14週	低所得者施策・実践動向と今後の展望
第15週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践 I				
担当者名	井上 浩・高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ソーシャルワーカーは、さまざまな次元で人と環境との相互作用が行われている場に介入していく専門職である。これまで皆さんは、人間の行動に関する諸理論を学んだことだろう。現実には、人々が社会サービスをしようとしても、サービスの存在そのものを知らなかったり、サービスそのものがなかったりするために、サービスに行き届かないことがある。

本科目では、人間の行動に関する諸理論に基づき、人々が社会的なサービスを効果的に、効率的に用いていくためにはどうすればよいかを、ソーシャルワーク支援の技術という点から説明する。具体的には、ソーシャルワークのエコロジカル視点、人間の生物-心理-社会学-精神文化的視点について、さらにいくつかのソーシャルワークに関する理論やモデルを提示する。

《授業の到達目標》

- (1) 知識・理解の観点からは、①ソーシャルワーク支援の視点や理論、モデルについて説明できる、②ソーシャルワークの過程を説明できる
- (2) 思考・判断の観点からは、クライアントとリソース・システムとの関連性について考えてみようとする
- (3) 関心・意欲の観点からは、なぜ支援が必要なのか、クライアントの立場に立って考えることができる

《テキスト》

毎回レジュメを配布する。

《参考文献》

- ・H.M.バートレット著 小松源助訳「社会福祉の共通基盤」ミネルヴァ書房（図書館あり）
- ・Pincus,A Minahan,A SOCIAL WORK PRACTICE; MODEL AND METHOD, Peacock Pub (1973)（図書館なし）
- ・Germain,C 著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年（図書館あり）
- ・シャルロット・トール著 小松源助訳「コモン・ヒューマン・ニーズ：社会福祉援助の基礎」（図書館あり）
- ・ゾフィア・T.ブトゥリム著 川田誉音訳「ソーシャルワークとは何かーその本質と機能」川島書店 1986年（図書館あり）

《成績評価の方法》

授業への参加態度 20%、確認テスト 30%、学期末テスト 50%で評価する。評価に含まれる対象は、授業への参加度はグループディスカッションへの参加度合いであり、確認テストは授業の復習がどれだけできているかである。学期末テストの評価は授業の一般目標で掲げた目標がどの程度達成できているかである。

《授業時間外学習》

單元ごとに確認テストを行うので、毎回の授業の内容を復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】 オリエンテーション 【内容】 担当者の紹介、授業の全体的な流れについて 【項目】 ソーシャルワークの専門性 【内容】 価値・知識・技術
第 2 週	【項目】 Eco-System (1) 【内容】 システムという考え方 【項目】 Eco-System (2) 【内容】 Pincus,A&Minahan,A のモデル①
第 3 週	【項目】 Eco-System (3) 【内容】 Pincus,A&Minahan,A のモデル② 【項目】 確認テスト 【内容】 確認テストと解説
第 4 週	【項目】 Eco-System (4) 【内容】 Ecological アプローチ① 【項目】 Eco-System (5) 【内容】 Ecological アプローチ②
第 5 週	【項目】 Eco-System (6) 【内容】 Ecological アプローチ③ 【項目】 確認テスト 【内容】 確認テストと解説
第 6 週	【項目】 人間の行動理解とソーシャルワーク (1) 【内容】 Bio-psycho-social-spiritual/economy の視点① 【項目】 人間の行動理解とソーシャルワーク (2) 【内容】 Bio-psycho-social-spiritual/economy の視点②
第 7 週	【項目】 人間の行動理解とソーシャルワーク (3) 【内容】 Bio-psycho-social-spiritual/economy の視点③ 【項目】 確認テスト 【内容】 確認テストと解説
第 8 週	【項目】 ソーシャルワークのモデル (1) 【内容】 問題解決モデル① 【項目】 ソーシャルワークのモデル (2) 【内容】 問題解決モデル②
第 9 週	【項目】 ソーシャルワークのモデル (3) 【内容】 問題解決モデル③ 【項目】 ソーシャルワークのモデル (4) 【内容】 その他のモデル①
第 10 週	【項目】 ソーシャルワークのモデル (5) 【内容】 その他のモデル② 【項目】 確認テスト 【内容】 確認テストと解説
第 11 週	【項目】 ソーシャルワークの過程 (1) 【内容】 インテーク 【項目】 ソーシャルワークの過程 (2) 【内容】 アセスメント①
第 12 週	【項目】 ソーシャルワークの過程 (3) 【内容】 アセスメント② 【項目】 ソーシャルワークの過程 (6) 【内容】 プランニング
第 13 週	【項目】 ソーシャルワークの過程 (7) 【内容】 インターヴェンション 【項目】 確認テスト 【内容】 確認テストと解説
第 14 週	【項目】 ソーシャルワークの過程 (9) 【内容】 過程の復習 【項目】 まとめ 【内容】 これまでの総まとめ
第 15 週	【項目】 これからのソーシャルワーク

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ				
担当者名	田端 和彦・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本科目の目的は二つである。一つめはボランティア活動を通し、現場を知ることである。座学が中心で社会での関わりが限定されたままで実習に向くと、ソーシャルワークの基本的な要素である、対人関係の構築について学ぶことができないまま終わってしまう可能性があるためである。ボランティア体験を通し社会の中の人と人との関わりを学ぶことが一つめの目的である。二つめには、社会に出るとはどのような意味を持っているのか、社会人として振る舞うとはどのような行動なのかを学ぶことである。これは、学士力として、問題解決能力や分析力の基本ともなる力を身につけることである。

《授業の到達目標》

ボランティア活動を通じて、以下の点を獲得できたかどうかを目標とする。

- ①社会の中での人と人との関わり的重要性を感じ取ることができる
- ②社会人として振る舞うとはどのような意味を持っているのかを表現できる

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰの手引き」を配布する

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《成績評価の方法》

ボランティア活動に参加し、その体験を振り返ることができることが最低評価基準となる。さらにその体験をグループディスカッションを通じて発表できた場合に加算される。

《授業時間外学習》

ボランティア活動先を探す場合やボランティア活動先に書類を提出する作業などで、時間外作業が必要となる。

《備考》

毎回、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰの手引き」を持参すること

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】 ボランティア体験
第 2 週	【項目】 ボランティア体験
第 3 週	【項目】 ボランティア体験
第 4 週	【項目】 ボランティア体験
第 5 週	【項目】 ボランティア体験
第 6 週	【項目】 後半オリエンテーション
第 7 週	【項目】 ボランティア体験の振り返り (1) 【内容】 個人ごとのまとめ
第 8 週	【項目】 ボランティア体験の振り返り (2) 【内容】 グループでのまとめ
第 9 週	【項目】 ボランティア体験の振り返り (3) 【内容】 グループでのまとめ
第 10 週	【項目】 ボランティア体験発表会の準備 (1) 【内容】 趣旨と進め方の説明
第 11 週	【項目】 ボランティア体験発表会の準備 (2)
第 12 週	【項目】 ボランティア体験発表会の準備 (3)
第 13 週	【項目】 ボランティア体験発表会の準備 (4)
第 14 週	【項目】 ボランティア体験発表会
第 15 週	【項目】 発表会の振り返りと基礎実習

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
担当者名	田端 和彦・牧田 満知子・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」で実施したボランティア体験と、「ソーシャルワーク実習」とを結ぶ実習指導である。ソーシャルワークを実践していくためには、科目配置として教養科目にて社会学や心理学、生物学を学び、教養科目の上に人間の行動に関する理論を学び、その上で社会サービスと援助技術論を車の両輪としながら、それを机上で演習を繰り返し、実践の場で学習してきたことを組み立ててみる、ということが必要である。しかし、利用者の特性を知らないまま、支援計画を立てることは不可能である。あるいは、施設の役割を理解していなければ、利用者のニーズに応えることは難しい。本科目は、以上のことから目的を二つにおいている。すなわち、利用者とのコミュニケーションを取ってこることと、施設分析ができること、である。そのため、5日間ではあるが施設において実習を行う。

《授業の到達目標》

以下の点を到達目標に置く。

- ①利用者とのコミュニケーションを取るなど、利用者に関わりができるようになること。
- ②施設分析ができること

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（基礎実習）の手引き」を用いる

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《成績評価の方法》

基礎実習を行い、その体験を振り返ることができた場合に最低評価を与える。さらにその体験を、グループディスカッションを通じて他者と共有し、グループ発表ができた場合に加算される。

《授業時間外学習》

基礎実習実習先を決定していくにあたり、担当教員と授業時間外で面談を行う場合がある。

《備考》

実習は権利であって義務ではない。実習先の文化の受容に窮した場合、実習を中止する場合がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】オリエンテーション 【内容】実習の位置づけ、目的、課題
第 2 週	【項目】ソーシャルワークの原則について学ぶ（1） 【内容】サービスと社会正義
第 3 週	【項目】ソーシャルワークの原則について学ぶ（2） 【内容】人間の尊厳と人間関係
第 4 週	【項目】ソーシャルワークの原則について考える 【内容】実践現場とソーシャルワーク
第 5 週	【項目】基礎実習配属先の発表と調整
第 6 週	【項目】施設分析（1） 【内容】高齢者施設
第 7 週	【項目】施設分析（2） 【内容】障害者施設
第 8 週	【項目】施設分析（3） 【内容】児童施設
第 9 週	【項目】施設分析（4） 【内容】社会福祉協議会
第 10 週	【項目】基礎実習配属先施設分析
第 11 週	【項目】実習計画書の作成（1）
第 12 週	【項目】実習計画書の作成（2）
第 13 週	【項目】記録の書き方について（1）
第 14 週	【項目】記録の書き方について（2）
第 15 週	【項目】実習前最終オリエンテーション

《専門コア科目》

科目名	介護概論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

介護を必要とする対象者の理解を深め、日常生活の援助者として必要な知識を習得する。
可能な限り、VTR教材活用や学生参加型の授業をする。
医療・介護・福祉等他職種との連携を深め、福祉の実践者としての基礎を養う。

《授業の到達目標》

社会福祉士を目指す学生がなぜ介護概論を学ぶ必要があるのか？
社会福祉士と介護福祉士は車の両輪と同じで、お互いに連携しあって人間の福祉向上を目指す。
又、地域への貢献に役立つ知識や技術の基礎を習得することを目的とする。

《テキスト》

『新版 社会福祉士養成講座 14「介護概論」』 中央法規出版

《参考文献》

『学びやすい介護概論 最新版』 金芳堂
『学びやすい形態別介護技術 最新版』 金芳堂

《成績評価の方法》

試験とレポート（50点）と平常点、授業態度（50点）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
毎回、次回の授業内容を示すので予習をしておくこと。
- ・復習の方法
授業内容を再確認し、不明な点は質問する。または自分で調べる。

《備考》

現代の介護をめぐる諸問題に対して、問題解決能力を高めていくことを目指している。
授業の積極的な参加を希望する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会福祉士に求められる介護
第 2 週	介護に関する保健・医療・福祉政策の動向
第 3 週	介護を必要とする人間の理解とケアの本質
第 4 週	自立支援とは何か、自立的に生きるということ
第 5 週	介護に関わる関係職種
第 6 週	介護保険法で求められるケアチームと介護支援専門員の役割
第 7 週	介護福祉士、社会福祉援助技術としての基本的知識と介護技術の役割
第 8 週	介護の問題解決過程
第 9 週	コミュニケーション技法、レクリエーション技法
第 10 週	認知症高齢者の理解と介護
第 11 週	ターミナルケアの実際と家族へのケア
第 12 週	介護現場に求められる福祉用具の概念と福祉用具の活用と効果
第 13 週	居宅介護の特徴と介護の方法を理解する
第 14 週	医療施設、福祉施設の特徴と役割、課題を学ぶ
第 15 週	総括

《専門コア科目》

科目名	社会福祉特別講義 I				
担当者名	稲富 恭、村上 須賀子、田端 和彦、牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

障害者や高齢者が現代の生活において垣根を感じることなく通常の生活を営むため、この講義では居住空間とバリアフリーの分野、さらに憲法の定めるところの最低で文化的な生活を保証するための住宅保証に注目します。これからの福祉社会におけるソーシャルワーカーに必要な内容ですが、従来のカリキュラムでは十分に対応できない分野をカバーして学びます。さらには、公務員を志望する人、建築や住宅関係の仕事、コンサルタントなどまちづくりの関係の仕事に進むことを考える人にも不可欠の分野です。住宅と福祉の連関の必要性は地方自治体で年々高まっています。衣食住は人の生活に不可欠な要素であり、人を支援するソーシャルワーカーが身につけておくべき知識といえるでしょう。

住宅の確保が難しいホームレスの問題や住宅内のバリアフリーなど社会福祉と住宅の関係は明らかです。同時に、住宅は「住まい」としてまちの中においてコミュニティの中心、また住生活の中心となっています。住生活基本法の制定をふまえて住宅やまちの在り方は地域で考える時代であり、誰にでも優しい真の福祉のまちづくりの時代を迎えます。こうした福祉のまちづくりの面から、住宅とまちで高齢者や障害者が自由に移動できる状況を作ること社会福祉の重要な役割です。住宅、まちと社会福祉の関係について授業を通して学びます。なお、講義は兵庫大学の教員の他、他大学の教員や社会企業家、実践者を迎えてのオムニバスになっています。

《授業の到達目標》

- ・高齢者や障害者の移動権を保障し自立的な生活を可能にする空間環境の整備としての住宅やまちに関わる制度の詳細、さらにそれを実現するためのアドボカシー（政策提言）を理解することができるようになります。
- ・住生活の概念を理解し、住生活基本法や人の生活と住宅、まちの関係を理解することができるようになります。
- ・公営住宅制度などすべての人に住宅をどのように確保するのか、また震災などで住宅を失った人への住宅提供の在り方はどのようなものなのか、自助、共助、公助の概念と併せて理解します。

《テキスト》

授業開始後に指示します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

授業内での態度（30%）、最終試験（70%）。

《授業時間外学習》

授業中に自宅で学習する課題（宿題）についての指示を行います。オムニバスの授業ですので、教員により内容が異なります。

《備考》

オムニバス授業です。多数の教員が関わる授業ですので、掲示板の内容などに注意してください。授業計画の内容、または日程については、教員の都合により変更されることがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション：ソーシャルワークにおける住宅の重要性
第 2 週	住宅と福祉：バリアフリーとユニバーサルデザイン①
第 3 週	住宅と福祉：バリアフリーとユニバーサルデザイン②
第 4 週	住宅と福祉：高齢者のための住宅について①
第 5 週	住宅と福祉：高齢者のための住宅について②
第 6 週	北欧の高齢者住宅と高齢者政策
第 7 週	北欧の高齢者住宅と高齢者政策
第 8 週	ホームレス問題と住宅
第 9 週	公営住宅と住宅保証
第 10 週	災害弱者と住宅①
第 11 週	災害弱者と住宅②
第 12 週	住まい方と住生活基本法
第 13 週	障害者移送の実際
第 14 週	バリアフリーに向けてのアドボカシー
第 15 週	福祉のまちづくりの将来

《専門コア科目》

科目名	社会福祉特別講義Ⅱ				
担当者名	稲富 恭、村上 須賀子、田端 和彦、牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

福祉社会の形成には、社会的サービスの提供者の多様化が課題になります。NPOや社会企業家の他、民間の市場からも社会的サービスへの参入が相次いでいます。こうした経済と福祉の関係を踏まえて、調整することは、これからの福祉社会におけるソーシャルワーカーに必要な内容です。こうした社会的経済の存在が今クローズアップされています。ノーベル平和賞受賞者のユヌス氏など、社会企業家も世界で活躍しています。社会的経済と政府、市場との関係について、理論的、実践的にはどのようになっているのか、またそれは歴史的にどのように位置づけられるのか、などを学びます。広く、社会保障と現代社会の課題を含む内容です。

また経済の中で重要な役割を果たす民間企業についても学習の機会を提供します。現代の企業では社員の福利厚生のために心的支援を行う企業カウンセラーの他、家族の介護や退職後の生きがいづくりなど、ソーシャルワーク的な機能が求められています。また労働を適切にし、社会保険の書類を扱う社会保険労務士との協働も必要になります。しかし、社会福祉だけの学びでは、企業のこと、経営のことを知る機会は十分ではありません。そこで経営の基本となる考え方、そもそも会社とは何か、会社の人事とはどのようなものか、など幅広い学びを行います。この講義では、従来のカリキュラムでは十分に対応できていない、経済や経営と福祉の分野をカバーして学びます。民間企業への就職を考える人、企業人事に関心のある方の他、社会企業家を目指す人、NPOでの活動を考えている人に不可欠の分野です。

なお、講義は兵庫大学の教員の他、他大学の教員や社会企業家、実践者を迎えてのオムニバスになっています。

《授業の到達目標》

- ・社会的企業や企業家精神について理解するとともに、市場と福祉の関係など福祉とそれを取りまく社会経済、市場経済、政府の関係を理解することができます。
- ・企業の経営や人事、組織について理解し、企業文化や企業の人事管理、社会保険労務士の役割などについての知識を身につけることができます。

《テキスト》

授業開始後に指示します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

授業内での態度（30%）、最終試験（70%）。

《授業時間外学習》

授業中に自宅で学習する課題（宿題）についての指示を行います。オムニバスの授業ですので、教員により内容が異なります。

《備考》

オムニバス授業です。多数の教員が関わる授業ですので、掲示板の内容などに注意してください。授業計画の内容、または日程については、教員の都合により変更されることがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション：ソーシャルワークにおける経済の関係
第 2 週	社会保障における政府間関係と社会政策①
第 3 週	社会保障における政府間関係と社会政策②
第 4 週	社会的経済とは何か
第 5 週	社会的経済と社会企業①
第 6 週	社会的経済と社会企業②
第 7 週	民間企業の求める人材
第 8 週	企業経営とは何か①
第 9 週	企業経営とは何か②
第 10 週	企業経営とは何か③
第 11 週	企業経営とは何か④
第 12 週	社会企業家と企業家精神①
第 13 週	社会企業家と企業家精神②
第 14 週	人事を巡る課題と社会保険労務士の役割
第 15 週	企業におけるメンタルヘルス

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	6・選	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

精神保健福祉士は、人と環境に介入する専門職である。精神障害者だけでなく、現代社会人のこころの病気や取り巻く環境についても深く考察でき、将来専門職として実践できる能力を養う。

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれた社会的歴史状況を理解し、精神障害者にかかる医療、保健、福祉や雇用、さらに障害者施策の変遷及び現状課題を伝え、精神障害があっても安心して暮らせる環境をどのように整えればよいのかを学ぶ。ノーマライゼーションの思想および権利擁護についての深い理解を得る。最近の精神保健福祉施策及び市町村の精神保健福祉についても理解し、障害者基本法、障害者自立支援法、精神保健福祉法等の法規についても理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉論 新・精神保健福祉士養成講座』 中央法規出版

《参考文献》

『社会福祉小六法』 ミネルヴァ書房
 『精神保健福祉士養成セミナー「精神保健福祉論」』へるす出版
 『これからの精神保健福祉 精神保健福祉ガイドブック』へるす出版

《成績評価の方法》

試験、レポート(50点)・平常点、授業態度(50点)

《授業時間外学習》

予習の方法： 毎回次回の授業内容を示すので予習しておくこと
 復習の方法： 授業内容の再確認し、不明な点は質問する。又は自分で調べる

《備考》

授業の積極的な参加を希望する。通年で開講する科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	障害者福祉の理念 障害者福祉の発達
第 2 週	障害及び障害者の理解 ノーマライゼーションとは何か
第 3 週	リハビリテーションについて 生活の質(3つのQOL)
第 4 週	生活のしづらさと生活支援について 障害の理念・精神障害の特性
第 5 週	障害分類および国際障害分類の理解 障害者基本法
第 6 週	障害者プランの背景と動向 精神障害者施策の転換と改革のグランドデザイン
第 7 週	精神障害者ノーマライゼーション 精神障害者施策の理解と生活支援
第 8 週	障害者自立支援法 障害者サービスと地域ケア
第 9 週	精神障害者と家族 地域における精神障害者と現状
第 10 週	精神障害者と成年後見制度について 精神障害者と地域福祉権利擁護事業
第 11 週	精神保健福祉の発達と理解 精神保健福祉法ができるまでの法と意義
第 12 週	精神保健福祉士の対象と業務 精神保健福祉士の専門性と守るべき職業倫理
第 13 週	精神障害者のバリアフリー 精神障害者の主体性の尊重ということ
第 14 週	医療施設における相談援助と精神保健福祉士 社会復帰施設等の相談援助と精神保健福祉士
第 15 週	地域における相談活動と精神保健福祉士 事例にみる精神障害者相談援助の実際

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	6・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

1期15回の障害者福祉全般の知識や理解を踏まえて、更にⅡ期15回で現代の様々な環境とこころの健康障害を理解する。

《授業の到達目標》

精神障害者を生活者としてみるソーシャルワークの視点を培う。
利用者が持つ社会的問題に対するソーシャルワーカーの対応の課題を明らかにできる。

《テキスト》

『精神保健福祉論 新・精神保健福祉士養成講座』 中央法規出版

《参考文献》

『社会福祉小六法』 ミネルヴァ書房
『精神保健福祉士養成セミナー「精神保健福祉論」』 へるす出版
『これからの精神保健福祉 精神保健福祉ガイドブック』 へるす出版

《成績評価の方法》

試験、レポート(50点)・平常点、授業態度(50点)

《授業時間外学習》

予習の方法： 毎回次回の授業内容を示すので予習しておくこと
復習の方法： 授業内容の再確認し、不明な点は質問する。又は自分で調べる

《備考》

授業の積極的な参加を希望する。通年で開講する科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	精神保健福祉法の意義及び要点の理解
第2週	福祉的就労・雇用・就業の現状と課題
第3週	医療法・地域保健法等の関連法規の理解
第4週	精神保健福祉行政組織の理解
第5週	精神保健福祉の各種公的負担制度
第6週	精神保健福祉施策の現状と方向及び課題
第7週	精神障害者社会復帰施設施策の発達と現状
第8週	精神障害者社会復帰施設施策の発達と現状
第9週	社会資源と多様な社会資源の活用
第10週	福祉的就労・雇用・就業の現状と課題
第11週	所得保障(手当・年金制度の知識)と理解
第12週	経済的負担の軽減と制度の知識と理解
第13週	生活環境の改善と精神障害者
第14週	精神保健福祉調査の知見と展望
第15週	総括

《専門コース科目》

科目名	精神医学 I				
担当者名	朝井 知				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

認知症やうつ病の増加など、昨今の精神医学領域の問題は、精神保健福祉士を目指す方々に限らず、社会全体が向きあうべきものであります。

本講義を通じて精神医学の基礎を理解し、諸問題に向きあう契機となれば幸いです。

《授業の到達目標》

精神医学の主要な疾患や、関連する社会福祉的問題について理解できる。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座（1）』精神医学 日本精神保健福祉士養成校協会 編
 （討論会については追加資料を配布する。）

《参考文献》**《成績評価の方法》**

定期試験60%、各分野の学習後に行う討論会での発表40%を評価の割合として、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	第 1 章 精神医学、精神医療の歴史
第 2 週	第 2 章 脳および神経の生理・解剖
第 3 週	第 3 章 精神医学の概念
第 4 週	第 4 章 診断法 第 1 節 診断の手順と方法
第 5 週	第 2 節 精神症状と状態像 第 3 節 心理検査、身体的検査
第 6 週	第 5 章 代表的な精神障害 第 1 節 症状性を含む器質性精神障害
第 7 週	第 2 節 精神作用物質使用による精神および行動の障害
第 8 週	第 3 節 統合失調症、統合失調症および妄想性障害
第 9 週	第 4 節 気分障害
第 10 週	第 5 節 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第 11 週	第 6 節 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第 12 週	第 7 節 成人のパーソナリティおよび行動の障害
第 13 週	討論会 認知症
第 14 週	討論会 統合失調症
第 15 週	討論会 気分障害

《専門コース科目》

科目名	精神医学Ⅱ				
担当者名	朝井 知				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

認知症やうつ病の増加など、昨今の精神医学領域の問題は、精神保健福祉士を目指す方々に限らず、社会全体が向きあうべきものであります。

本講義を通じて精神医学の基礎を理解し、諸問題に向きあう契機となれば幸いです。

《授業の到達目標》

精神医学の主要な疾患や、関連する社会福祉的問題について理解できる。

《テキスト》

「新・精神保健福祉士養成講座（1）精神医学」 日本精神保健福祉士養成校協会 編
(討論会については追加資料を配布する。)

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験60%、各分野の学習後に行う討論会での発表40%を評価の割合として、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	第5章 代表的な精神障害 第8節 精神遅滞
第2週	第9節 心理的発達の障害
第3週	第10節 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
第4週	第11節 神経系の疾患
第5週	第6章 治療法 第1節 身体療法
第6週	第2節 精神療法
第7週	第3節 環境・社会療法
第8週	第4節 精神科リハビリテーション
第9週	第7章 病院精神医療および地域精神医療 第1節 病院精神医療
第10週	第2節 精神科救急医療
第11週	第3節 地域精神医療
第12週	第8章 司法精神医学
第13週	討論会 社会療法（音楽療法）
第14週	討論会 地域精神医療
第15週	討論会 精神保健福祉士

《専門コース科目》

科目名	認知心理学				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

認知心理学は心理学の中で人間の知的機能全般についての基盤となる部分を担います。情報の入力(感覚)、最低限の意味の成立(知覚)、情報の処理(狭義の認知)をテーマとし、人の心の基礎過程について実験とモデルを両輪として理解します。それにより、人間の様々な心理・社会的な活動をより深く考察できるようになります。「感覚」では、視覚の特性について生理的なデータも交えて解説します。「知覚」では、対象の体制化や錯視現象などについてデモを行いながら解説します。そして「認知」では、記憶や問題解決など多くのトピックスについて、映像教材などを用いながら解説します。別途配布するプリント「認知心理学講義ノート」はテキストの役割をもつとともに、受講者が内容を整理するため活用できます。

《授業の到達目標》

- 「認知心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 感覚、知覚、認知の各過程を理解し分類することができる。
- 実験やモデルといった科学的な視点で心をとらえることができる。
- 心理的または社会的な事象のいくつかについて、認知心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《テキスト》

プリント(認知心理学講義ノート)を配布

《参考文献》

『知性と感性の心理 認知心理学入門』 行場次郎, 箱田裕治(編) 福村出版
 『グラフィック 認知心理学』 森敏昭・井上毅・松井孝雄 サイエンス社

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 80% レポート・小テストなど 10% 受講態度 10%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
特に予習は必要としない。
- ・復習の方法
復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください。

《備考》

本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「認知心理学って何？」 認知心理学の概要を説明。
第 2 週	「眼からの情報は脳へどう伝わるかⅠ(視覚の基礎過程)」 網膜の役割。光信号から電気信号への変換。
第 3 週	「眼からの情報は脳へどう伝わるかⅡ(エッジと形)」 エッジの強調から形を知るまでの流れ。
第 4 週	「感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)」 ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則。
第 5 週	「おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)」 錯視のデモやその見えの仕組み。いくつかの対象がまとまって見える性質。
第 6 週	「わたしたちの世界(三次元知覚)」 三次元に世界を知覚するために必要な要素。大きさの恒常性。
第 7 週	「見えていても見えていない(注意)」 網膜に投影されることと「見える」こととの違い。注意の空間的および時間的性質。
第 8 週	「自分が自分であるために(記憶)」 記憶の分類。短期記憶から長期記憶へのシフト。ワーキングメモリ。
第 9 週	「いつも言葉で考える(言語)」 言葉と脳。文の理解にかかわる処理。
第10週	「人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)」 顔を認識する能力。人種と顔。感情と顔。
第11週	「一難去ってまた一難(問題解決)」 洞察と情報処理による問題解決。
第12週	「使いやすいのはどんなもの(デザインとアフォーダンス)」 情報デザイン。感性デザイン。エコロジカル(生態学的)デザイン。
第13週	「どっちを選ぶ?(意思決定)」 期待効用。ヒューリスティックス。
第14週	「認知心理学の現代的トピックス」 進化心理学的アプローチ、計算論的アプローチなど。
第15週	「これまで何を学んだか(まとめ)」 実験とモデルによる心の理解。

《専門コース科目》

科目名	心理統計学				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

心理学の代表的な研究方法に実験法や質問紙法があります。これらの手法を通して得られた数値に統計的な解析を行うことで、心についての理解を深めることができます。すなわち、統計についての学習は、心理学を学ぶ上で不可欠であるといえます。しかし、統計の初学者にとっては、数字の並びに不安や恐怖を感じることもあるようです。そこで本講義では、内容を特に必要なものに絞り、学生になじみがある Excel や、授業「心理測定法」で使用した JavaScript-STAR といったソフトを実際に体験しながら学びを進めます。具体的な問題についてソフトを利用した統計解析を行いながら、自らがデータを分析できるようになることを目指します。

《授業の到達目標》

- Excel や JavaScript-STAR で基本的な統計手法を実際に行うことができる。
- 統計についての基本的な考え方を理解し、データに対する適切な処理法を指摘することができる。

《テキスト》

『使える統計－Excel で学ぶ実践心理統計－』 櫻井広幸・神宮英夫 著 ナカニシヤ出版

《参考文献》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』 加藤司 北樹出版 (授業「心理測定法」のテキスト)

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60% レポート・小テストなど 20% 受講態度 20%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・復習の方法
もう一度テキストに目を通すとともに、授業で扱った Excel などの操作を確認しながら、統計手法の内容を確認してください。

《備考》

- 本科目は、教養科目「心理学」、専門科目「心理測定法」を修得後に受講してください。
- 認定心理士の資格取得を目指す人は、受講するようにしてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス
第 2 週	尺度
第 3 週	記述統計(1) 代表値
第 4 週	記述統計(2) 分散
第 5 週	正規分布
第 6 週	母集団と標本
第 7 週	推測統計と仮説検定(1) 信頼区間
第 8 週	推測統計と仮説検定(2) t 検定
第 9 週	分散分析(1) 1 要因の分散分析
第 10 週	分散分析(2) 2 要因の分散分析
第 11 週	相関と回帰(1) 相関係数
第 12 週	相関と回帰(2) 回帰分析
第 13 週	ノンパラメトリック検定法(1) 順位相関係数
第 14 週	ノンパラメトリック検定法(2) χ^2 検定
第 15 週	「これまで何を学んだか」 まとめ

《専門コース科目》

科目名	臨床心理学				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

臨床心理学とは、こころの治療に関する心理学である。フロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人の情緒発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者は、フロイトの理論を基礎にしながら、より年少の乳幼児と母親との関係に焦点をあて、対象関係論をうちたてていった。そのようなこころの治療研究の歴史をたどりながら、人のこころの発達の理論について学び、人と人が関わることで育まれる関係性とその意味の理解ができるように学んでほしい。また人との関係の上での問題を呈する人々への理解と、自分自身への理解も深めていってほしい。

《授業の到達目標》

人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
人のこころの成長・発達において大切なことは何かを知る。
関係性とその意味について理解する。

《テキスト》

「保育・教育に生きる 臨床心理学」松島恭子監修・篠田美紀編著 光生館 2200 円

《参考文献》

『スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社 1400 円
『フロイト その思想と生涯』ラッセル・ベイカー 宮城音弥訳 講談社現代新書 420 円
『ユングの心理学』秋山さと子 講談社現代新書 420 円

《成績評価の方法》

授業への取組み 30% 授業内容の理解 50% レポート 20%

《授業時間外学習》

毎回の授業から、次回の授業までの 1 週間の中に、授業内容に関して「思い浮かんだこと」を各自のノートに記入すること。

《備考》

テキスト以外にも必要な資料を多く配布するので、A4 サイズの用紙が入るファイルを用意し、毎回閉じておくこと。またノートも用意すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション「臨床心理学とは何か」
第 2 週	フロイトの発見：無意識の世界をめぐって
第 3 週	フロイトの精神分析①
第 4 週	フロイトの精神分析②
第 5 週	精神分析学からみた乳幼児期①赤ちゃんの不安の源泉
第 6 週	精神分析学からみた乳幼児期②母子発達理論
第 7 週	精神分析学からみた乳幼児期③分離・個体化理論
第 8 週	ウィニコットの対象関係論①
第 9 週	ウィニコットの対象関係論②
第 10 週	遊戯療法
第 11 週	ユングの臨床心理学
第 12 週	箱庭療法
第 13 週	行動療法
第 14 週	認知行動療法
第 15 週	臨床心理学の理解について

《専門コース科目》

科目名	心理測定法				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

心理学は科学的な性質を強くもっており、新たな知見を見出すためには、仮説を構築し実際に検証することが重要です。そのためには体系的なデータの取得方法や解析方法を心得ていなければなりません。本科目では、科学的に「ものをいう」ための基本的な作法について勉強します。テキストに従い、「研究に対する考え方の基礎」「実験法」「測定法」「分析法」などについて順序だてて説明するとともに、別途配布するプリントにて内容を整理し、基本事項の理解が促されるようにします。また、受講生自身が計算問題やコンピュータを用いた統計解析にも挑み、最後は自らが計画した簡単な実験を行って分析を試みます。

《授業の到達目標》

- 心理学の研究について、どのような方法論があるか類別できる。
- 研究における手順や留意点を説明することができる。
- 結果の解析に基本的な統計手法を用いることができる。

《テキスト》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 〔改訂版〕 加藤司 北樹出版

《参考文献》

『心理測定法への招待』 市川伸一編著 サイエンス社
『はじめての心理統計法』 鶴沼秀行・長谷川桐 東京図書

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 80% レポート・小テストなど 10% 受講態度 10%

《授業時間外学習》

・予習の方法

下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。

・復習の方法

授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まずは用語の意味を理解し覚えてください。次に具体的な手法などを順を追って振り返ってください。

《備考》

- ・本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておく必要があります。
- ・心理学が科学的な性質を強くもつため、研究で得られた数値を解析する必要があります。特に授業の後半では、比較的容易ではありませんが、実際に計算を行ったりコンピュータを用いたりします。そのあたりを十分心得て受講してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「心理学における研究の基礎①」 科学的な心理学の成立までを概観
第 2 週	「心理学における研究の基礎②」 基本用語や心理学を支える幾つかの考え方
第 3 週	「実験法①」 独立変数や従属変数を考慮した実験計画
第 4 週	「実験法②」 実験結果を歪める剰余変数
第 5 週	「さまざまな研究法」 実験法以外の研究法：観察法、質問紙法
第 6 週	「心理学的測定法①」 刺激と心の間隔を数量的にとらえる精神物理学
第 7 週	「心理学的測定法②」 被験者の意見や態度などを調べる評定法、性格などを調べる検査法
第 8 週	「データ分析の基礎①」 測定尺度、記述統計の基礎
第 9 週	「データ分析の基礎②」 推測統計の基礎
第 10 週	「変数間の差の検定①」 t 検定の説明と練習
第 11 週	「変数間の差の検定②」 「変数間の関係」 分散分析および相関
第 12 週	「フリーソフトウェア JavaScript-STAR の利用」 分散分析、相関係数の算出など、コンピュータによる実習
第 13 週	「学生による簡単な実験①」 研究計画
第 14 週	「学生による簡単な実験②」 実験と分析
第 15 週	実験の発表、授業の振り返り

《専門コース科目》

科目名	心理学基礎実験				
担当者名	北島 律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

心理学の代表的な研究方法である実験法を、心理学の各領域における基礎的な実験を実際に行うことによって体験的に学びます。また、「実験目的」「実験方法」「実験結果」「考察」をレポートにまとめ、さらにそれを発表することで、心理学の科学的な考え方を体系的に身につけます。本科目での学びは、様々な領域や場面において、実際にデータを取得したり報告書を作成したりすることに役立ちます。

《授業の到達目標》

- 心理学の代表的な研究方法である実験法の特徴について、どのようなものか説明することができる。
- 心理学の各領域における基礎的な実験について実際に行うことができる。
- 実験結果を適切なやり方でまとめることができる。
- 結果から自分の考えを述べることができる。

《テキスト》

『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版

《参考文献》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』 加藤司 北樹出版 <授業「心理測定法」のテキスト>

《成績評価の方法》

レポート 80% 受講態度 10% 発表 10%

《授業時間外学習》

授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください。レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください。送信先のメールアドレスは授業中に示します。レポートは添削し、次の授業の前半で講評を行います。

《備考》

- ・本科目を受講するためには、前もって「心理学」「認知心理学」「心理測定法」を修得しておく必要があります。
- ・実験は少人数のグループで行うものであるため、欠席や遅刻はしないようにしてください。事情がある場合は必ず担当教員に連絡してください。
- ・すべての実験に参加しレポートを提出することが、単位修得のための最低条件です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「ガイダンス」 実験に関する基本の説明。心理測定法の復習
第 2 週	「実験をしてみよう1(ミューラー・リヤー錯視)」<知覚心理学> 実験の説明, 実験
第 3 週	「実験をしてみよう1(ミューラー・リヤー錯視)」<知覚心理学> 実験のつづき, 基本的なレポートの書き方説明, レポートの作成
第 4 週	「実験をしてみよう2(触二点閾)」<感覚心理学> 実験の説明, 実験
第 5 週	「実験をしてみよう2(触二点閾)」<感覚心理学> 実験のつづき, レポートの作成
第 6 週	「実験レポートの書き方」 より本格的なレポートの書き方の説明
第 7 週	「実験1:自由再生の実施」<認知心理学> 実験の説明, コンピュータを用いた実験の準備
第 8 週	「実験1:自由再生の実施」<認知心理学> 実験, レポートの作成
第 9 週	「実験2:両側性転移の実施」<学習心理学> 学習・知覚運動協応など重要概念の説明, 反転メガネによる知覚運動協応の体験
第10週	「実験2:両側性転移の実施」<学習心理学> 実験の説明, 実験
第11週	「実験2:両側性転移の実施」<学習心理学> 実験のつづき, レポートの作成
第12週	「実験3:パーソナルスペースの実施」<社会心理学> 実験の説明, 実験
第13週	「実験3:パーソナルスペースの実施」<社会心理学> 実験のつづき, レポートの作成
第14週	「実験のプレゼンテーション」 発表準備
第15週	「実験のプレゼンテーション」 プレゼンテーション

《専門コース科目》

科目名	心理療法 I				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、テキストを用いて子どもの心理療法の基礎を学ぶ。また子どもに関わる地域でのネットワークや福祉機関との連携についてもふれ、児童福祉の現場での「子ども」への援助の方法についても具体的に学ぶことをめざす。

《授業の到達目標》

心理療法の基礎となる、言語表現について理解する。
 子どもの心理療法である遊戯療法について具体的に理解する。
 事例研究の方法を知る。
 サイコセラピー・カウンセリング・ソーシャルワークについて学ぶ。

《テキスト》

『子どもの心に会おうとき 心理療法の背景と技法』村瀬嘉代子著 金剛出版 3500円＋税

《参考文献》**《成績評価の方法》**

授業への取り組み 30% 授業内容の理解 50% レポート 20%

《授業時間外学習》

テキストをしっかりと読んでおくこと。次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味などをノートに整理して理解しておくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 心理療法とは何か
第 2 週	治療関係における言語表現①
第 3 週	治療関係における言語表現②
第 4 週	プレイセラピーについて
第 5 週	プレイセラピストに求められるもの
第 6 週	事例研究について
第 7 週	サイコセラピーとカウンセリングとソーシャルワークについて①
第 8 週	サイコセラピーとカウンセリングとソーシャルワークについて②
第 9 週	遊戯療法の理論と実際①
第 10 週	遊戯療法の理論と実際②
第 11 週	遊戯療法の理論と実際③
第 12 週	事例からみる心の成長・発達
第 13 週	心理療法におけるシンボル
第 14 週	地域社会におけるネットワーク
第 15 週	心理療法の背景と技法 まとめ

《専門コース科目》

科目名	心理療法Ⅱ				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

心理療法Ⅰで学んだ心理療法の基礎をもとに、心理療法のプロセスについて学ぶ。関係性という視点から、遊びの意味や、治療の中で描かれる絵の意味や、イメージが伝えるものについて考える。ここでとりあげるいくつかの心理療法から、人と人の関わりのなかで生じることについて「気づく」視点を身につけ、福祉の現場での対人援助において役立ててほしい。

《授業の到達目標》

“カウンセリングの基本”である、受容・共感・傾聴といった人のところへの向き合い方から一歩前進して、人と人が関わる関係性の変化のプロセスを思い描けるようになること。

《テキスト》

特になし。必要な資料は配布する。

《参考文献》

『心理療法の基本』村瀬嘉代子・青木省三 金剛出版（2400円＋税）

《成績評価の方法》

授業への取組み 30% 毎回の授業ごとに提出するレポート 30% 全体のまとめ 40%

《授業時間外学習》

心理療法Ⅰを受講していない者は『子どもの心に出会うとき 心理療法の背景と技法』村瀬嘉代子著 金剛出版 3500円＋税を購入し、よく読み込んだうえで、この授業に臨んでほしい。また、日常的にこのころに関する本を1冊でも多く手にとって読んでほしい。リストは配布する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（心理療法をめぐって）
第 2 週	心理療法Ⅰの復習
第 3 週	遊戯療法について①
第 4 週	遊戯療法について②
第 5 週	描画療法について
第 6 週	描画療法実習①
第 7 週	描画療法実習②
第 8 週	箱庭療法について
第 9 週	箱庭療法の事例
第 10 週	箱庭療法実習①
第 11 週	箱庭療法実習②
第 12 週	箱庭療法実習③
第 13 週	箱庭療法実習④
第 14 週	箱庭療法実習⑤
第 15 週	心理療法Ⅱのまとめ

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を理解することが、この講義の眼目である。そのために以下の項目を中心に論ずる。

- (1) わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について
- (2) 教育課程の意義と目的について
- (3) 教育課程及び学習指導要領編成の内容について
- (4) 道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》

教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、主体的に考えることができる。

《テキスト》

1. 『新しい教育課程論』 広岡 義之編著 (ミネルヴァ書房) 2010年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小テスト 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読して、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためであるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教育課程の意義
第 3 週	学習指導要領の意義と内容の歴史の変遷 (1)
第 4 週	学習指導要領の意義と内容の歴史の変遷 (2)
第 5 週	教育課程編成の教育目的・目標および社会的基盤
第 6 週	教育課程の諸形態について
第 7 週	教育課程の編成 (幼稚園)
第 8 週	教育課程の編成 (小学校)
第 9 週	教育課程の編成 (中学校)
第 10 週	教育課程の編成 (高等学校)
第 11 週	道徳教育の内容について
第 12 週	教育課程における特別活動の意義・役割・位置づけ
第 13 週	総合的な学習の時間の取り扱いについて
第 14 週	教育課程実施上の配慮事項について
第 15 週	新しい学習指導要領の変更点について

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在の小学校・中学校・高等学校における特別活動の枠組みと内容を理解することが、この講義のねらいである。そのために以下の項目を中心に論ずる。

- (1) わが国の特別活動の歴史と変遷について
- (2) 特別活動の意義と目的について
- (3) 学習指導要領における特別活動の位置づけについて
- (4) 道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、わが国の特別活動は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の特別活動はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。

《テキスト》

『新しい特別活動論』 広岡義之編著（創言社）2009年

《参考文献》

小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編
その他、必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

到達目標にかかわる出題範囲の定期試験（80%）、指定された教材を読む等の受講態度（20%）により評価する。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは、試験の受験資格を失う。

《授業時間外学習》

- ・ 受講前に、教材の指定された箇所を読んでおくこと。
- ・ 講義中に解説した内容を一旦ノートに記した後、重要と思われる内容を教科書の余白に転記する、あるいは付箋に記して教科書に張り付けるなどし、同時に教科書と読み合わせて講義内容を復習する。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	特別活動の意義
第 3 週	特別活動の歴史
第 4 週	特別活動の目標
第 5 週	学級会活動について
第 6 週	ホームルーム活動について
第 7 週	児童会活動について
第 8 週	生徒会活動について
第 9 週	学校行事について
第 10 週	クラブ活動と部活動
第 11 週	特別活動と教科指導の関連
第 12 週	道徳教育の内容について
第 13 週	特別活動の今日的課題と役割
第 14 週	「総合的な学習の時間」と特別活動の関係・区分
第 15 週	本講義のまとめと重要個所の復習

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教職専門科目として、現代的な教育の方法や技術について扱う。学校でも学校以外でも使える方法論を目指し、何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめることができるかを体験的に学習する。授業設計の体系的アプローチ（教えるための準備と自己評価の手順）に基づいて「何かを教えるための材料（教材）」を自作するための方法を解説し、受講生一人ひとりが毎回の授業で段階的に教材を作成したり、受講生どうしで作成した教材を相互にチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計の体系的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも体系的アプローチを応用することができる。

《テキスト》

『教材設計マニュアル－独学を支援するために』鈴木克明（北大路書房）2002年

《参考文献》

- ・『教育の方法と技術』西之園晴夫、宮寺晃夫編著（ミネルヴァ書房）2004年
- ・中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書

その他の文献や資料は、授業中に必要に応じて紹介する。

《成績評価の方法》

- ・自作した教材とその計画書・作成報告書（50%）
- ・小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ・授業で課せられる作業や討論への参加態度（20%）
- ・欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンを使用して教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなどの使用方法を練習しておくこと。また、ICT（情報コミュニケーション技術）と教育の関係についても論じていくので、授業に関わらず、情報機器や情報システムに積極的に利用してもらいたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション／教材をイメージする／キャロルの時間モデル
第 2 週	教材作りをイメージする：体系的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
第 3 週	独学を支援する教材のアイデア交換／教材企画書の書き方
第 4 週	小テスト①（第3、4章）／教材の責任範囲を明らかにする：学習目標と3つのテスト
第 5 週	テストを作成する：学習課題の種類／教材企画書の作成
第 6 週	教材企画書の相互チェック／教材企画書の作成
第 7 週	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／教材の構造を見きわめる：課題分析
第 8 週	独学を支援する作戦をたてる：ガニエの9教授事象と指導方略表
第 9 週	教材パッケージを作成する：形成的評価の7つ道具
第10週	教材パッケージを作成する：形成的評価の7つ道具の相互チェック
第11週	教材パッケージを作成する：7つ道具チェックリストの提出
第12週	小テスト③（第8、9章）／形成的評価を実施する：形成的評価の方法
第13週	形成的評価を実施する／教材作成報告書の書き方
第14週	教材を改善する：教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
第15週	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習のふり返り

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健康と体力）を積極的に推進するには、生徒指導、進路指導、いわゆるガイダンス・カンセリングが必要不可欠である。本講義では、このような生徒の全人的な育成を主眼とした生徒指導と進路指導を目指し、それぞれの事項についての深い理解ができることをねらいとする。

《授業の到達目標》

学校教育における生徒指導と進路指導の意義と役割を明らかにする。生徒指導と進路指導とは生徒が自己実現を図るためには車の両輪のように必須の内容であり、学校教育の上で重要な位置を占めるものである。本講義では現代における生徒指導及び進路指導の在り方の確立を目指す。

《テキスト》

『新しい生徒指導・進路指導』加澤恒雄・広岡義之編著（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	生徒指導の教育的意義と課題
第 3 週	生徒指導の原理と理論
第 4 週	児童・生徒理解の進め方
第 5 週	学級経営の進め方
第 6 週	教科指導と生徒指導
第 7 週	生徒指導実践における教師像と研修
第 8 週	学校の生徒指導体制と家庭・地域との連携
第 9 週	進路指導の意義と課題
第 10 週	自己の発見と自我同一性の確立
第 11 週	就労観・職業観の形成と変容
第 12 週	進路指導実践の学校体制
第 13 週	学校教育における進路指導の実践展開（1）
第 14 週	学校教育における進路指導の実践展開（2）
第 15 週	本講義のまとめと重要箇所の復習

平成 21 年度
(2009 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度(2009年度) 入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門	法学	講義		2				2										
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2				2										
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2					2									
	生涯学習論	講義		2				2										
	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◇			2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇			2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2							
	美と感性	講義		2				2										
基 礎	ライフデザイン論	講義		2										2				
	行政法	講義		2				2										
	家族社会学	講義		2					2									
	家族福祉論	講義		2						2								
	発達心理学	講義		2			▲		2									
	人間関係論	講義		2						2								
	親子関係の心理学	講義		2							2					琴浦 志津	85	
	健康心理学	講義		2						2								
	集団心理学	講義		2									2			未定	86	
	社会心理学	講義		2					2									
教 育	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2					2									
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2						2								
	教育心理学	講義		2			△			2								
	ライフステージと健康	講義		2										2				
	食文化論	講義		2				2										
	食生活論	講義		2				2										
	レクリエーションワークⅠ	講義		2				2										
	レクリエーションワークⅡ	講義		2					2									
	演習Ⅰ	演習		4					4									
	演習Ⅱ	演習		6						6								
専 門 目	現代社会と福祉Ⅰ	講義		2		○	◇	△	2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○	◇	△		2								
	社会保障論Ⅰ	講義		2		○	◇				2							
	社会保障論Ⅱ	講義		2		○	◇					2						
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2		○		△	2									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2		○		△		2								
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2		○		△			2							
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2		○		△				2						
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2		○	◇					2						
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2		○	◇						2			田端 和彦	87	
ア ル 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2		○	◇					2						
	就労支援の制度とサービス	講義		2		○							2			谷口 春治	88	
	権利擁護と成年後見制度	講義		2		○	◇						2			今井 俊介	89	
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義		4		○	◇	△				4						
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義		4		○	◇	△					4			井上・高橋	90	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習		1		○		△		2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習		1		○		△					2			田端・牧田・高橋・井上	91	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習		1		○		△						2		田端・牧田・村上・高橋・井上・桐石	92	
	社会調査の基盤	講義		2		○			2									
	社会調査の応用	講義		2					2									

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ			
			必修	選択				1年		2年		3年		4年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△					2								
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△					4						井上・村上	93	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△						4					井上・村上	94	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2		○		△							2						
	ソーシャルワーク実習	実習		4		○		△							12			井上・桐石・高橋・田端・牧田・村上	95	
	社会統計学Ⅰ	講義		2								2								
	社会統計学Ⅱ	講義		2								2								
	地域経済論	講義		2									2					田端 和彦	96	
	福祉行財政と福祉計画	講義		2		○	◇							2				[西澤 正一]	97	
	福祉工学	講義		2										2						
	まちづくり論	講義		2										2				稲富 恭	98	
	国際福祉論	講義		2											2					
	スクールソーシャルワーク	講義		2											2					
	更生保護制度	講義		1		○								1				今井 俊介	99	
	福祉サービスの組織と経営	講義		2		○									2			[西澤 正一]	100	
	インターンシップ	実習		4											12			稲富・今井・浜島・本多	101	
	社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2					②		②		②		②			稲富・村上・田端・牧田	102	
	社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2						②		②		②		②		稲富・村上・田端・牧田	103	
	教 育 科 目	医療福祉論	講義		2		○	◇						2					村上 須賀子	104
		応用医療福祉論	講義		2										2				村上 須賀子	105
精神保健福祉論		講義		6								6								
精神医学Ⅰ		講義		2			◇						2							
精神医学Ⅱ		講義		2			◇							2						
精神保健学Ⅰ		講義		2			◇							2				村上 須賀子	106	
精神保健学Ⅱ		講義		2			◇							2				村上 須賀子	107	
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		講義		2										2				[知念 奈美子]	108	
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		講義		2										2				[知念 奈美子]	109	
精神科リハビリテーション学Ⅰ		講義		2										2				[光田 豊茂]	110	
精神科リハビリテーション学Ⅱ		講義		2										2				[光田 豊茂]	111	
精神保健福祉援助演習		演習		4			◇							4				村上・[光田]	112・113	
精神保健福祉援助実習		実習		4			◇								12					
老年医学		講義		2										2				不開講		
認知心理学		講義		2										2						
臨床心理学		講義		2										2						
心理測定法		講義		2										2						
心理学基礎実験		実験		2										4						
心理療法Ⅰ		講義		2										2						
心理療法Ⅱ		講義		2										2						
心理検査法実習	実習		2										4				琴浦 志津	114		
行動分析論	講義		2										2				(森田 義宏)	115		
心理カウンセリング演習	演習		2											2						
老人・障害者の心理	講義		2											2			[奥 典之]	116		
色彩論	講義		2											2			浜島 成嘉	117		
社会福祉特別演習	演習		4											4						
卒業演習	演習		4											4						

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2			△	2										
	教育原理	講義		2			△	2										
	教育制度論	講義		2			△		2									
	教育課程論	講義		2			△			2								
	福祉科教育法	講義		4			△				4						岩本 真佐子	
	特別活動論	講義		2			△			2								
	教育方法・技術論	講義		2			△			2								
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			△			2								
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△		2									
	総合演習	演習		2			△					2						稲富・今井・吉原
	事前・事後指導	演習		1			△						1					吉原 恵子
	高等学校教育実習	実習		2			△							4				

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
- ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

《専門基礎科目》

科目名	親子関係の心理学				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

ひとはこの世に産まれて以降、最初に出会う親との関係から様々なものを取り入れ成長していく。この授業では、人のライフサイクルを全体として見渡した上での「親子関係の心理学」を、ひとつひとつの時期に焦点をあて、様々な題材を用いながら学んでいく。「乳幼児」の視点からみた親～思春期の子どもからみた親～青年期へ、そして成人期、結婚、自分自身が親となつてからの子どもとの関係、中年期、高齢期。将来、様々なところで出会っていく様々な人たちの人生を理解して、その援助に役立てるだけでなく、自分自身の人生について考えていく力も身につけてほしい。

《授業の到達目標》

人のライフサイクルについての理解を深める。
 ライフサイクルの各時期における親子関係の変化について知る。
 人とひとの関係についての理解を深める。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要な資料は配布する。

《参考文献》

「ライフサイクルの心理療法」松島恭子編 創元社 2500 円

《成績評価の方法》

授業への取組み 30% レポート 70%

《授業時間外学習》

ライフサイクルの各時期ごとにレポートを提出する。普段から、新聞などで授業でふれたことに関連するテーマを収集しておくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	乳児期の親子関係
第 3 週	幼児期前期の親子関係
第 4 週	学童期の親子関係
第 5 週	思春期の親子関係①
第 6 週	思春期の親子関係②
第 7 週	青年期前期の親子関係
第 8 週	青年期後期の親子関係
第 9 週	成人期の親子関係①
第 10 週	成人期の親子関係②
第 11 週	中年期の親子関係①
第 12 週	中年期の親子関係②
第 13 週	高齢期の親子関係①
第 14 週	高齢期の親子関係②
第 15 週	親子関係の心理学まとめ

《専門基礎科目》

科目名	集団心理学				
担当者名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

別紙参照

《授業の到達目標》**《テキスト》****《参考文献》****《成績評価の方法》****《授業時間外学習》****《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《専門コア科目》

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

第一に、日本と海外における地域福祉に係る理論や考え方を紹介します。地域福祉の理論が、現在、政策として進められている地方分権や地域主権の考え方、あるいは新しい公共なども深く関連することが理解することが狙いとなります。第二には社会的企業と社会的経済、あるいは企業のCSRなど、地域経済と地域福祉の関係を学び、地域における資源の広がり理解することを狙いとします。そして、第三に、いくつかの地域課題を提示しますので、実際に地域資源を踏まえて地域ニーズを把握しつつコミュニティオーガニゼーションを進めて解決するのか、互いの議論を深めながら学び、理解することが狙いとなります。

《授業の到達目標》

- ・地域福祉に関する理論や考え方を理解することができる。
- ・コミュニティの組織化の具体的な手法を獲得し実践の場での応用が可能になる。
- ・高齢化したニュータウンや限界集落の課題を地域福祉の視点から理解することができる。

《テキスト》

ありません。プリントを配布します。

《参考文献》

必要に応じて指示します。

《成績評価の方法》

日常点（ディスカッションでの参加やレポート）50点と最終レポート50点です。

《授業時間外学習》

事前に参考文献や新聞記事、雑誌記事などを指示しますので読んでおくとともに、ディスカッションの前に調べておくことを指示します。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス／復習、クラス分け
第 2 週	2 地域福祉の理論①
第 3 週	3 地域福祉の理論②
第 4 週	4 地域福祉の理論③
第 5 週	5 地域における福祉のニーズ
第 6 週	6 社会的経済と社会的企業
第 7 週	7 企業の社会的責任
第 8 週	8 地域における福祉サービスの評価①
第 9 週	9 地域における福祉サービスの評価②
第 10 週	10 新しい課題と地域福祉～ソーシャルインクルージョン①
第 11 週	11 新しい課題と地域福祉～ソーシャルインクルージョン②
第 12 週	12 新しい課題と地域福祉～I LM（中間労働市場）と格差問題①
第 13 週	13 新しい課題と地域福祉～I LM（中間労働市場）と格差問題②
第 14 週	14 新しい課題と地域福祉～高齢化した地域①
第 15 週	15 新しい課題と地域福祉～高齢化した地域②

《専門コア科目》

科目名	就労支援の制度とサービス				
担当者名	谷口 泰司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

労働と福祉は一見距離が遠いように見えるかもしれない。しかしながら、そのいずれもが人間の“尊厳”にとって不可欠なものであるため、それらが満たされない場合には“疎外感”を抱くという点に加え、社会保障にかかる政策や財源という点でも極めて密接な関わりを持つものである。

本講義では、従来障害者や生活保護等の限定的な領域で語られることの多かった就労問題をより広角度でとらえ、就労支援を通じたソーシャルワークの実践並びに“尊厳”の一側面の理解に資することを目的として展開する。

《授業の到達目標》

- (1) 「働く」ということの価値と、それが奪われることにより生じる問題について理解し説明できる。
- (2) 社会保障における労働政策の占める重要性について説明できる。
- (3) 個別領域（障害者・高齢者・低所得者等）における就労支援の現状と課題について説明できる。
- (4) 上記をふまえ、就労支援の今後のあり方について、自分自身の意見を持つことができる。

《テキスト》

使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》

『就労支援サービス』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座 18〕（2009年、中央法規出版）

《成績評価の方法》

テスト（80%）、平常点（随時のレポート、質問等の発言：20%）

《授業時間外学習》

アルバイトをしている学生であれば実体験のこととして、そうでない場合も身近にヒアリングができる問題であるので、講義内容を自身の体験等に照らしたうえで掘り下げて考えてみる時間をとってほしい。

《備考》

福祉には唯一絶対の答えなどないという思いで講義を行っています。従って、学生の皆さんも講義をうのみにすることなく常に批判的な立場で臨み、自身の見解が異なる場合には遠慮なく質問をしてくれることを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	労働とは何か
第 2 週	労働形態の変遷
第 3 週	現代社会における労働問題
第 4 週	失業と社会的排除
第 5 週	労働施策以外の領域との関係
第 6 週	就労支援の必要性和今日までの変遷
第 7 週	各論：障害者就労支援Ⅰ（障害者一般就労の現状と課題）
第 8 週	各論：障害者就労支援Ⅱ（福祉的就労の現状と課題）
第 9 週	各論：高年齢者就労支援
第 10 週	各論：生活保護世帯就労支援
第 11 週	各論：母子世帯就労支援
第 12 週	各論：若年者就労支援
第 13 週	就労支援ネットワークの現状
第 14 週	就労支援の課題と展望
第 15 週	まとめ（通常試験とふりかえり）

《専門コア科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

権利擁護の観点から成年後見制度の概要・運用の実情を理解してもらう。日常生活上支援を必要とする多種・多様な人びとを理解し、それぞれの権利擁護のあり方についてその方策を考える。同時にその施策にあたっている人びとに理解を示してもらう。

《授業の到達目標》

権利擁護を必要としている人びと、この施策に奔走している人びとを知り、理解すること、成年後見制度はその施策の1つであることを理解して欲しい。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考文献》

新井誠ほか2名：『成年後見制度—法の理論と実務』有斐閣
資料は随時コピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが（80%）、中間にレポートを提出させ参考とする（20%）。

《授業時間外学習》

特にない。

《備考》

特にない。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第1週	成年後見制度の理念と創設に至るいきさつ	
第2週	成年後見の概要 成年後見人の役割と権利・義務	
第3週	保佐の概要	保佐人の役割と権利・義務
第4週	補助の概要	補助人の役割と権利・義務
第5週	任意後見制度の概要 任意後見契約・公正証書	
第6週	日常生活自立支援事業の概要	
第7週	成年後見制度利用支援事業の概要	
第8週	成年後見制度と関係機関（1）	家庭裁判所
第9週	同	上（2） 法務局（特に後見登記につき）、市町村
第10週	同	上（3） 弁護士、司法書士、社会福祉士、民間人
第11週	権利擁護活動の実情（1）	認知症高齢者、知的障害者、精神障害者
第12週	同	上（2） 被虐待児童・虐待者、非行少年
第13週	同	上（3） 消費者被害者、多重債務者
第14週	同	上（4） アルコール依存者、累犯犯罪者
第15週	補充説明とまとめ 質疑応答	

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ				
担当者名	井上 浩・高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

相談援助に係わる知識と技術について理解することをねらいとして、理論と実践Ⅰに続く内容（ケアマネジメント、アウトリーチ、ネットワークング、グループワークなど）を解説する。

《授業の到達目標》

社会的なネットワークの中で、利用者の個別性を重視しながら、援助活動を展開するところに、社会福祉における相談援助の専門性があることを理解する。

《テキスト》

社会福祉士シリーズ ソーシャルワーク 8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂

《参考文献》

随時紹介する

《成績評価の方法》

課題レポート 100%

《授業時間外学習》

相談援助の対象理解と実践モデルの会得に努めること

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（Ⅰの振り返り、Ⅱの概要）
第 2 週	相談援助の社会性（人間の社会性、相談援助の社会性）
第 3 週	ケアマネジメント（考え方、意義と目的、方法、留意点）
第 4 週	アウトリーチサービス（考え方、意義と目的、方法、留意点）
第 5 週	社会資源の活用（身近の社会資源、社会資源の種類、実際と留意点）
第 6 週	ネットワークング（意義と目的、構築と方法、留意点）
第 7 週	グループワーク（考え方、原理、原則、展開過程、留意点）
第 8 週	スーパービジョン（必要性、意義と目的、方法）
第 9 週	記録（意義と目的、種類、マッピング技法）
第 10 週	個人情報の保護（個人情報保護法、守秘義務）
第 11 週	ITの活用（コミュニケーションの円滑化、意義と留意点）
第 12 週	事例検討の視点（事例分析、事例研究、意義と目的、留意点）
第 13 週	権利擁護の事例検討
第 14 週	社会的排除の事例検討
第 15 週	まとめ（相談援助の理論と方法の振り返り）

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
担当者名	田端 和彦・牧田 満知子・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」で実施したボランティア体験と、「ソーシャルワーク実習」とを結ぶ実習指導である。ソーシャルワークを実践していくためには、科目配置として教養科目にて社会学や心理学、生物学を学び、教養科目の上に人間の行動に関する理論を学び、その上で社会サービスと援助技術論を車の両輪としながら、それを机上で演習を繰り返し、実践の場で学習してきたことを組み立ててみる、ということが必要である。しかし、利用者の特性を知らないまま、支援計画を立てることは不可能である。あるいは、施設の役割を理解していなければ、利用者のニーズに応えることは難しい。本科目は、以上のことから目的を二つにおいている。すなわち、利用者とのコミュニケーションを取ってこることと、施設分析ができること、である。そのため、5日間ではあるが施設において実習を行う。

《授業の到達目標》

以下の点を到達目標に置く。

- ①利用者とのコミュニケーションを取るなど、利用者に関わりができるようになること。
- ②施設分析ができること

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（基礎実習）の手引き」を用いる

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《成績評価の方法》

基礎実習を行い、その体験を振り返ることができた場合に最低評価を与える。さらにその体験を、グループディスカッションを通じて他者と共有し、グループ発表ができた場合に加算される。

《授業時間外学習》

グループ発表会を行うにあたり、授業時間内では十分に充足できない場合、時間外で集まって準備を行わなければならない場合がある。

《備考》

実習は権利であって義務ではない。実習先の文化の受容に窮した場合、実習を中止する場合がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】 配属実習
第 2 週	【項目】 配属実習
第 3 週	【項目】 配属実習
第 4 週	【項目】 配属実習
第 5 週	【項目】 配属実習
第 6 週	【項目】 後半オリエンテーション
第 7 週	【項目】 実習振り返り（1） 【内容】 個人ごとのまとめ
第 8 週	【項目】 実習振り返り（2） 【内容】 グループでのまとめ
第 9 週	【項目】 実習振り返り（3） 【内容】 グループでのまとめ
第 10 週	【項目】 基礎実習発表会の準備（1） 【内容】 趣旨と進め方の説明
第 11 週	【項目】 基礎実習発表会の準備（2）
第 12 週	【項目】 基礎実習発表会の準備（3）
第 13 週	【項目】 基礎実習発表会の準備（4）
第 14 週	【項目】 基礎実習発表会
第 15 週	【項目】 発表会の振り返りとソーシャルワーク実習

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担当者名	田端 和彦・牧田 満知子・村上 須賀子・高橋 千代・井上 浩・桐石 梢				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、ソーシャルワーク実習（本実習）の事前指導にあたる科目である。これまで学生の皆さんはすでに体験してきたように、実習はただ行けばよいという科目ではない。なぜ自分がこの実習を選んだのか（動機付け）や、実習に行くことで何をしようとしているのか（目的）を明らかにしなければ、実習自体が組み立てられないことが分かっているはずである。

本科目はさらに、ソーシャルワーク実習として成り立たせていくための事前指導である。ソーシャルワーク実習自体が持つ目的を明らかにさせながら、学生が自分で実習を組み立てられるよう支援をしていくための科目である。なお、本科目にはソーシャルワーク実習を終えた後の事後指導も含まれてくるので、学生には注意をされたい。

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク実習（本実習）の目的に合わせて、次の観点が理解できる。

- ①実習先の利用者理解
- ②ソーシャルワーク援助技術の過程

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅲの手引き」を使用する

《参考文献》

特に指定はしないが、学生自らが実習に行く分野に関連した図書と、ソーシャルワーク援助技術に関連した文献。

《成績評価の方法》

4年次Ⅰ期に行われる後半分と併せて評価を行う。

《授業時間外学習》

ソーシャルワーク援助技術に関連した内容、特にアセスメントやプロセスリコードの提出などで課題を出すことがある。

《備考》

ソーシャルワーク実習（本実習）の事前・事後指導なので、ソーシャルワーク実習（本実習）を履修しなかった場合、単位はキャンセルされる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】オリエンテーション 【内容】実習の位置づけ、目的、課題
第 2 週	【項目】プロセスリコード（1） 【内容】プロセスリコードの説明と記述の仕方
第 3 週	【項目】プロセスリコード（2） 【内容】プロセスリコードの作成練習
第 4 週	【項目】プロセスリコード（3） 【内容】プロセスリコードの作成練習
第 5 週	【項目】利用者理解（1） 【内容】ソーシャルワークのプロセスについて確認する
第 6 週	【項目】利用者理解（2） 【内容】アセスメントの練習
第 7 週	【項目】利用者理解（3） 【内容】アセスメントの練習
第 8 週	【項目】利用者理解（4） 【内容】アセスメントの練習
第 9 週	【項目】実習テーマの作成（1）
第10週	【項目】実習テーマの作成（1）
第11週	【項目】実習テーマの作成（1）
第12週	【項目】実習計画書の作成
第13週	【項目】実習記録について（1）
第14週	【項目】実習記録について（2）
第15週	【項目】現場実習前最終オリエンテーション

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク演習 I				
担当者名	井上 浩・村上 須賀子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、これまで学生の皆さんが学んできた社会サービスと、援助技術論を具体的な支援に結びつけられるようにするものである。援助技術論は実践理論を中心に解説されているが、これらを学んただけでは支援に結びつけることはできない。そこで、演習を通じてこれら社会サービスと援助技術論を統合化し、次に実習において行ってみようとするのである。本科目では、対人支援のためのコミュニケーションの取り方や面接をいかに行うのかに焦点を置く。つまり、ミクロの場面に焦点を当てた演習を行う。

《授業の到達目標》

ミクロの場面で、社会サービスと援助技術とを結びつけることができる

《テキスト》

『対人援助技術の実際』 白石大介著 創元社 1988

《参考文献》

『ケースワークの原則「新訳版」』F・P バイスティック著 誠信書房 1996

《成績評価の方法》

演習は毎回出席が原則である。評価は出席状況（30パーセント）
レポート（30パーセント）授業態度（40パーセント）で評価する。

《授業時間外学習》

『ケースワークの原則「新訳版」』F・P バイスティック著を読みレポート作成

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 内容：社会福祉援助技術のスキル構造を理解する
第 2 週	自己の理解 内容：対人援助職としての自己覚知（自己理解、他者からの目）を深める
第 3 週	自己覚知 内容：自己覚知を深めるとともに自己の活用法を考える
第 4 週	コミュニケーション入門 内容：初歩的態度、ポジショニングを理解する
第 5 週	面接技法(1) 内容：面接技術基本：「対人援助技術の実際」を理解する
第 6 週	面接技法(2) 内容：面接技術基本：「対人援助技術の実際」を理解する
第 7 週	事例の理解 内容：事例を読みロールプレイ場면을想定する
第 8 週	ロールプレイ 内容：事例のインシデント場面のロールプレイを行う（ビデオ収録）
第 9 週	ロールプレイ振り返り 内容：前回のビデオ収録の分析評価を行う
第 10 週	ソーシャルワークの記録 内容：ビデオを観て事例の記録を書く
第 11 週	ロールプレイ 内容：事例のインシデント場面のロールプレイを行う（ビデオ収録）
第 12 週	ロールプレイ振り返り 内容：前回のビデオ収録の分析評価を行う
第 13 週	バイスティックの原則 内容：バイスティックの原則を自らの言葉で解説する
第 14 週	生活史理解 内容：生活史把握の意味を理解する
第 15 週	生活史聞き取りの実際 内容：生活史聞き取りの課題に取り組む

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担当者名	井上 浩・村上 須賀子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、これまで学生の皆さんが学んできた社会サービスに関する科目と、援助技術論を机上で具体的な支援に結びつけようとするものである。これまで、社会サービスに関する科目は単体で学んできたり、援助技術論は実践理論を中心に説明してきたりしたが、当然これらを学んだだけでは支援に結びつけることはできない。そこで、演習を通じてこれら社会サービスの科目と援助技術論を統合化し、次に実習にて現場で行ってみようとするのである。本科目では、前半にグループに焦点を当てた支援を試み、後半でソーシャルワークのメゾ領域に焦点を当てた支援を試みる。

《授業の到達目標》

- ・グループを用いた支援を組み立てることができる
- ・メゾ領域における支援計画を立てることができる

《テキスト》

毎回レジュメを配布する

《参考文献》**《成績評価の方法》**

学期末に、事例に基づいた支援計画をプレゼンテーションし、クライアントのニーズを把握し、アセスメントができていのかどうかで評価する

《授業時間外学習》**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】オリエンテーション
第 2 週	【項目】グループを用いた支援方法（1）
第 3 週	【項目】グループを用いた支援方法（2）
第 4 週	【項目】グループを用いた支援方法（3）
第 5 週	【項目】グループを用いた支援方法（4）
第 6 週	【項目】グループを用いた支援方法（5）
第 7 週	【項目】グループを用いた支援方法（6）
第 8 週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（1）
第 9 週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（2）
第10週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（3）
第11週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（4）
第12週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（5）
第13週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（6）
第14週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（7）
第15週	【項目】ソーシャルワークのマイクロからメゾ領域にわたる支援（8）

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習				
担当者名	井上 浩・桐石 梢・高橋 千代・田端 和彦・牧田 満知子・村上 須賀子				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、学部卒ソーシャルワーカーとしての力量を確認するための実習である。これまで学生は教養科目で心理学や法学などを学び、さらに人間の行動に関する諸理論を学び、社会サービスに関する科目と援助技術論を学び、これらを統合させるために、机上で演習として学習してきた。本科目は、これまで学んできた内容を実践の場で試行し、集大成としてまとめるものである。なお、本科目はソーシャルワーク実習であると同時に、社会福祉士国家試験受験資格のための実習でもある。勤務時間の扱いが厳格になるので、学生には注意をされたい。

《授業の到達目標》

学部レベルのソーシャルワーカーとしての力量を保っていること。具体的には以下の項目となる。

- ①利用者理解ができる
- ②ソーシャルワーク援助技術を用いることができる
- ③施設分析ができる
- ④自己覚知ができる

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導の手引き」を使用する

《参考文献》

特に指定はしないが、学生自らが実習に行く分野に関連した図書と、ソーシャルワーク援助技術に関連した文献。

《成績評価の方法》

実習先からの評価 50%、学内評価 50%

《授業時間外学習》

実習記録を書くために時間外を要する場合がある。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	配属実習
第 2 週	配属実習
第 3 週	配属実習
第 4 週	配属実習
第 5 週	配属実習
第 6 週	配属実習
第 7 週	配属実習
第 8 週	配属実習
第 9 週	配属実習
第 10 週	配属実習
第 11 週	配属実習
第 12 週	配属実習
第 13 週	配属実習
第 14 週	配属実習
第 15 週	配属実習

《専門コア科目》

科目名	地域経済論				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

グローバル化時代であるからこそ、ローカルが重要になる時代、これがグローバル化と呼ばれるものです。地域主権や地域政党の設立など地域とその経済を巡る環境は大きく変化しています。社会福祉の側面でも地域経済の理解は不可欠です。ここでは、地域経済に関するテーマについて最近の話題（地域政策、社会的企業、地方財政など）を中心に、理論や考え方を踏まえ解説します。地元の話から全国における事例について講義します。さらに日本の地域開発についての歴史を説明します。

《授業の到達目標》

- ・地域の経済事情に関心を持ち、ニュースで取り上げられる経済記事の背景を理解し、説明することができる。
- ・イノベーションや産学連携、社会的企業など地域経済のキーワードを理解し、説明することができる。

《テキスト》

テキストはありません。プリントを配布します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

テストが80%、日常点（レポート、授業内の発言）が20%です。

《授業時間外学習》

事前にプリントを配布する場合には、目を通しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス／授業の概要と進め方
第 2 週	2 地域経済の現状～身近な地域を中心に
第 3 週	3 兵庫県と震災からの復興について～自助、共助、公助の意味とは
第 4 週	4 日本の地域経済の特徴と産業構造と産業集積について
第 5 週	5 地方財政とその危機とは
第 6 週	6 地域経済格差とその解消のために
第 7 週	7 日本の地域開発の歴史①
第 8 週	8 日本の地域開発の歴史②
第 9 週	9 規制緩和と地域交通を巡る課題について①
第 10 週	10 規制緩和と地域交通を巡る課題について②
第 11 週	11 観光開発と地域経済①
第 12 週	12 観光開発と地域経済②
第 13 週	13 農業の自由化と地産地消の推進について
第 14 週	14 コミュニティビジネスと地域通貨の活用・地域におけるボランタリー経済
第 15 週	15 まとめと総括

《専門コア科目》

科目名	社会福祉行財政と福祉計画				
担当者名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「社会福祉に関する法律と行財政について学ぶ」

福祉六法を基盤とする社会福祉も、近年の「社会福祉基礎構造改革や三位一体の改革」に伴って、また一方では介護保険制度や障害者自立支援法の施行等によって大きな転換が図られ、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へ、また措置から利用契約型へと、行財政のあり方も改めて問われる時代となってきた。社会福祉の現状と今後の動向を理解するため、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《授業の到達目標》

- ①基本的な福祉政策の形成過程を理解する。
- ②これまでの国と地方の役割や福祉サービス供給体制や制度の経緯を知る。
- ③福祉サービスを利用する住民の視点で制度・政策を理解する。
- ④高齢者・障がい者等が地域で自立して生活できる「総合的支援策」を組み立てることができる。
- ⑤少子高齢化社会の問題を自分達ひとり一人の課題として考える。

《テキスト》

著者名/Authors : 西村健一郎・品田充儀 編著
 書名/Title : 「よくわかる社会福祉と法」
 出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房(改訂版、最新版)
 その他、随時プリント等を配布。

《参考文献》

書名/Title : 「よくわかる行政学」
 出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房・2009年4月発行

著者名/Authors : 編集委員(河幹夫・小林良二・和気康太)
 書名/Title : 新・社会福祉士養成講座 第10巻「福祉行財政と福祉計画」
 出版社・出版年/Publisher・Year : 中央法規出版・2009年3月刊行

著者名/Authors : 河野正輝、増田雅暢、倉田聡ほか編
 書名/Title : 「社会福祉法入門(第2版)」
 出版社・出版年/Publisher・Year : 有斐閣・2008年

《成績評価の方法》

出席状況/Attendance (20%)
 学期末試験など/Final exam (60%)
 その他グループ討議の発表態度などを総合的に判断(20%)

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示された期日までに提出のこと。
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見出し、不明な点は連絡用メールアドレス等にて確認して下さい。

《備考》

- ・連絡用メールアドレス sazanka@guitar.ocn.ne.jp
- ・課題提出先：三木市吉川町大沢418番地 社会福祉法人吉川福祉会 高齢者総合福祉施設さざんかの郷
 電話(0794)72-1170 FAX(0794)72-2355

※授業計画における毎回のテーマや内容は、講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、福祉現場での実践事例やマスコミ報道等の資料を多く活用し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス(コース概要) 社会福祉をめぐる最近の話題
第2週	社会福祉の法体系と目的
第3週	社会福祉法制の展開
第4週	社会福祉における給付の法構造
第5週	社会福祉の財政と利用者負担
第6週	福祉サービスの提供体制
第7週	福祉サービス利用者の権利とその擁護
第8週	高齢者福祉
第9週	障害者福祉
第10週	児童・母子福祉
第11週	低所得者福祉(生活保護を中心として)
第12週	苦情解決・不服申立てと行政訴訟等
第13週	社会福祉の将来像
第14週	社会福祉法制の今後の課題と展望
第15週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	まちづくり論				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

・「まちづくり」は単に道路や建物を造る事ではなく、全ての人が安全で快適な生活を送ることのできる環境をつくったり、そのための仕組みを考えたりする活動です。本授業のねらいは、「まちづくり」の実践に必要な知識を習得するとともに、価値判断能力を身につけることにあります。

《授業の到達目標》

- 「まちづくり」に必要な専門的知識、手法について理解する。
- 積極的に「まちづくり」に関与できる能力を身につける。

《テキスト》

- ・テキストは用いない。

《参考文献》

- ・『まちづくりキーワード事典 第三版』三船 康道、学芸出版社,2009
- ・『まちづくり教科書』(全10巻)日本建築学会編、日本建築学会,2005
- ・『住民参加でつくる地域の計画・まちづくり』日本まちづくり協会編、技術書院,2002

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施するレポート(60%)、授業中に不定期に実施する小テスト(40%)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
各回の授業内容に関連したまちづくり事例を新聞、Web等の媒体を用いて調査する。
- ・復習の方法
授業内容に従い、ノートを制作する。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	1. ガイダンス:まちづくりとは 神戸市真野地区のまちづくりを事例に「まちづくり」の意味について考える。
第2週	2. まちづくりに関わる法制度(都市計画法の概要) 土地区画整理事業、市街地再開発事業、地区計画について理解する。
第3週	3. 中心市街地におけるまちづくり 滋賀県長浜市におけるまちづくりを例に中心市街地活性化手法について理解する。
第4週	4. まちづくりにおける住宅と住環境の整備 住宅問題と住宅政策、密集市街地における住環境整備について考える。
第5週	5. まちづくりと市民参加 まちづくりと市民組織、市民を中心としたまちづくり手法について理解する。
第6週	6. 景観とまちづくり 景観法の概要と景観形成手法について学ぶ。
第7週	7. 歴史を活かしたまちづくり 近江八幡市の伝建地区、彦根市の中心市街地整備を例に歴史資産の利用について学ぶ。
第8週	8. 公園とまちづくり 都市緑地法と公園計画について理解する。
第9週	9. 安全と安心を確保するためのまちづくり 神戸市を例にまちづくりにおける防災計画、防犯計画について学ぶ。
第10週	10. 福祉のまちづくり バリアフリー、ユニバーサルデザインと高齢者居住を例に福祉まちづくりについて理解する。
第11週	11. まちづくりと交通 富山市、ストラスブールを例に交通問題とその対策手法、ノーマライゼーション、シヨップモビリティ等について理
第12週	12. まちの歴史と形態 歴史的な都市の発生形態と近代の都市計画手法について学ぶ。
第13週	13. サステイナビリティとコンパクトシティ コンパクトシティ、スマートグロース政策を中心に近年のまちづくり動向について概観する。
第14週	14. 事例調査のプレゼンテーションと講評
第15週	15. 小テストの解説とまとめ

《専門コア科目》

科目名	更生保護制度				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「裁判は誰でもできる。難しいのはそれから。」と喝破した著名な刑法学者がいる。それほど更生の仕事は難しい。矯正は刑務所だけではない。保護観察は社会内処遇を図るものであるから、「社会」そのものが「巨大な矯正施設」である。この観点を重視し、講義の中心に据えていきたい。

《授業の到達目標》

処遇方法の種類、その長・短所をしっかりと理解する。犯罪者の社会復帰・処遇につき民意を検討・理解する。

《テキスト》

特に指定はしない。

《参考文献》

ここ数年の犯罪白書の中から更生保護関係の資料を活用する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが（80%）、中間にレポートを提出させる（20%）。

《授業時間外学習》

事情が許せば「刑務所」の見学をしたい。

《備考》

特にない。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	刑事司法の中で更生保護の占める役割・地位、収用制度、保護観察制度の歴史と現状
第 2 週	仮釈放等更生緊急保護の実情
第 3 週	恩赦の実情 犯罪被害者保護の趨勢 少年犯罪の実情
第 4 週	常習犯・累犯の実情と予防（地域の取組み）、高齢犯罪者の処遇対策と問題
第 5 週	保護観察制度、収用制度の運用と担い手（1） 保護観察官、保護司、刑務官の仕事
第 6 週	同 上（2） 更生保護施設の現状、民間協力者
第 7 週	関係機関・団体との連携（1） 検察庁、裁判所、矯正施設（刑務所）、福祉機関
第 8 週	同 上（2） 就労支援機関（更生保護事業法）
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《専門コア科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営				
担当者名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「福祉サービスの組織と経営について学ぶ」

福祉六法を基盤とする社会福祉は、特に介護保険制度や障害者支援費制度の導入という大きな転換が図られたが、それもすでに10年以上経過し、福祉サービスを提供する組織も多様化するなかで、そのあり方が課題となってきた。また、措置から契約といった利用者が自ら選択する時代の中で、単なる運営から経営という、新たな感覚が問われる時代になってきた。

福祉サービスに係わる組織と、その運営について、教科書中心でなく福祉の実践体験を通じて学ばせる。

《授業の到達目標》

- ①福祉サービスに係る組織や団体について学ぶ。
- ②福祉サービスに係る組織の経営について、基本的理論を理解する。
- ③福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ。
- ④福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する。

《テキスト》

著者名/Authors :小松理佐子 編著
 書名/Title :「よくわかる社会福祉運営管理」
 出版社・出版年/Publisher・Year :ミネルヴァ書房・2010年3月発行
 その他、随時プリント等を配布。

《参考文献》

書名/Title :新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」
 出版社・出版年/Publisher・Year :ミネルヴァ書房・2009年3月発行

《成績評価の方法》

出席状況/Attendance (20%)
 学期末試験など/Final Exam (60%)
 その他グループ討議の発表態度などを総合的に判断 (20%)

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示された期日までに提出のこと。
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見出し、不明な点は連絡用メールアドレス等にて確認してください。

《備考》

- ・連絡用メールアドレス sazanka@guitar.ocn.ne.jp
- ・課題提出先：三木市吉川町大沢418番地 社会福祉法人吉川福祉会 高齢者総合福祉施設 さざんかの郷
 電話(0794)72-1170 FAX72-2355

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス(コース概要) 社会福祉運営管理の理論と実践について
第2週	社会福祉運営管理の考え方
第3週	社会福祉供給の基礎理論
第4週	社会組織運営(経営)の基礎理論
第5週	福祉サービスの提供主体
第6週	社会福祉法人・医療法人・特定非営利活動法人の運営管理
第7週	多様な主体によるサービスの創出
第8週	社会福祉の運営管理システム
第9週	地域類型にみる運営管理の課題
第10週	福祉サービスの質の管理と利用者支援
第11週	福祉人材の育成と確保(労働環境の整備含む)
第12週	地域の運営管理と福祉専門職
第13週	社会福祉施設の分業管理と福祉専門職
第14週	社会福祉運営管理を担う福祉専門職の展望
第15週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	インターンシップ				
担当者名	稲富 恭、今井 俊介、浜島 成嘉、本多 彩				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ることも重要な目的となっています。

まずは企業に関する研究から開始します。企業の目的や企業の成立ち、その組織的な特徴、どのような業務があるかなどを学びます。次に、自身の関心時なども踏まえて、インターンシップ先を選択します。学生の皆さんが実際にインターンシップに出向くのは夏季休暇中になります。インターンシップに赴く期間、またはインターンシップ先については、今後通知します。インターンシップ終了後は、学んだことの定着を目指して、報告書を作成します。

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することができます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することができます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることができます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることができるようになります。

《テキスト》

最初の授業時間の際に指示します。

《参考文献》

授業時間中に指示します。

《成績評価の方法》

授業態度 (30%)、インターンシップ先での評価 (30%)、事後の振り返りにおけるレポート等 (40%)

《授業時間外学習》

企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備は全て授業時間外で実施することになります。

インターンシップは授業時間と重ならないようにするため、主に夏季休暇等長期休暇期間で実施する予定です。

《備考》

インターンシップの授業とソーシャルワーク実習の両方を履修することはできません。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	企業とは何か。経済社会における位置づけと日本経済
第 2 週	企業とは何か。制度的側面と規模、業種等
第 3 週	企業研究 1 (産業・業界編)
第 4 週	企業研究 2 (規模・業態編)
第 5 週	企業研究 3 (制度編)
第 6 週	企業研究 4 (企業以外の雇用の場)
第 7 週	インターンシップ先の希望調査
第 8 週	マナーや事務書類の書き方等、ビジネス等での活動に必要なスキル 1
第 9 週	マナーや事務書類の書き方等、ビジネス等での活動に必要なスキル 2
第 10 週	マナーや事務書類の書き方等、ビジネス等での活動に必要なスキル 3
第 11 週	インターンシップ
第 12 週	インターンシップ
第 13 週	インターンシップ
第 14 週	インターンシップ
第 15 週	インターンシップの振り返りと反省

《専門コア科目》

科目名	社会福祉特別講義 I				
担当者名	稲富 恭、村上 須賀子、田端 和彦、牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

障害者や高齢者が現代の生活において垣根を感じることなく通常の生活を営むため、この講義では居住空間とバリアフリーの分野、さらに憲法の定めるところの最低で文化的な生活を保証するための住宅保証に注目します。これからの福祉社会におけるソーシャルワーカーに必要な内容ですが、従来のカリキュラムでは十分に対応できない分野をカバーして学びます。さらには、公務員を志望する人、建築や住宅関係の仕事、コンサルタントなどまちづくりの関係の仕事に進むことを考える人にも不可欠の分野です。住宅と福祉の連関の必要性は地方自治体で年々高まっています。衣食住は人の生活に不可欠な要素であり、人を支援するソーシャルワーカーが身につけておくべき知識といえるでしょう。

住宅の確保が難しいホームレスの問題や住宅内のバリアフリーなど社会福祉と住宅の関係は明らかです。同時に、住宅は「住まい」としてまちの中においてコミュニティの中心、また住生活の中心となっています。住生活基本法の制定をふまえ住宅やまちの在り方は地域で考える時代であり、誰にでも優しい真の福祉のまちづくりの時代を迎えます。こうした福祉のまちづくりの面から、住宅とまちで高齢者や障害者が自由に移動できる状況を作ること社会福祉の重要な役割です。住宅、まちと社会福祉の関係について授業を通して学びます。なお、講義は兵庫大学の教員の他、他大学の教員や社会企業家、実践者を迎えてのオムニバスになっています。

《授業の到達目標》

- ・高齢者や障害者の移動権を保障し自立的な生活を可能にする空間環境の整備としての住宅やまちに関わる制度の詳細、さらにそれを実現するためのアドボカシー（政策提言）を理解することができるようになります。
- ・住生活の概念を理解し、住生活基本法や人の生活と住宅、まちの関係を理解することができるようになります。
- ・公営住宅制度などすべての人に住宅をどのように確保するのか、また震災などで住宅を失った人への住宅提供の在り方はどのようなものなのか、自助、共助、公助の概念と併せて理解します。

《テキスト》

授業開始後に指示します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

授業内での態度（30%）、最終試験（70%）。

《授業時間外学習》

授業中に自宅で学習する課題（宿題）についての指示を行います。オムニバスの授業ですので、教員により内容が異なります。

《備考》

オムニバス授業です。多数の教員が関わる授業ですので、掲示板の内容などに注意してください。授業計画の内容、または日程については、教員の都合により変更されることがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション：ソーシャルワークにおける住宅の重要性
第 2 週	住宅と福祉：バリアフリーとユニバーサルデザイン①
第 3 週	住宅と福祉：バリアフリーとユニバーサルデザイン②
第 4 週	住宅と福祉：高齢者のための住宅について①
第 5 週	住宅と福祉：高齢者のための住宅について②
第 6 週	北欧の高齢者住宅と高齢者政策
第 7 週	北欧の高齢者住宅と高齢者政策
第 8 週	ホームレス問題と住宅
第 9 週	公営住宅と住宅保証
第 10 週	災害弱者と住宅①
第 11 週	災害弱者と住宅②
第 12 週	住まい方と住生活基本法
第 13 週	障害者移送の実際
第 14 週	バリアフリーに向けてのアドボカシー
第 15 週	福祉のまちづくりの将来

《専門コア科目》

科目名	社会福祉特別講義Ⅱ				
担当者名	稲富 恭、村上 須賀子、田端 和彦、牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

福祉社会の形成には、社会的サービスの提供者の多様化が課題になります。NPOや社会企業家の他、民間の市場からも社会的サービスへの参入が相次いでいます。こうした経済と福祉の関係を踏まえて、調整することは、これからの福祉社会におけるソーシャルワーカーに必要な内容です。こうした社会的経済の存在が今クローズアップされています。ノーベル平和賞受賞者のユヌス氏など、社会企業家も世界で活躍しています。社会的経済と政府、市場との関係について、理論的、実践的にはどのようになっているのか、またそれは歴史的にどのように位置づけられるのか、などを学びます。広く、社会保障と現代社会の課題を含む内容です。

また経済の中で重要な役割を果たす民間企業についても学習の機会を提供します。現代の企業では社員の福利厚生のために心的支援を行う企業カウンセラーの他、家族の介護や退職後の生きがいづくりなど、ソーシャルワーク的な機能が求められています。また労働を適切にし、社会保険の書類を扱う社会保険労務士との協働も必要になります。しかし、社会福祉だけの学びでは、企業のこと、経営のことを知る機会には十分ではありません。そこで経営の基本となる考え方、そもそも会社とは何か、会社の人事とはどのようなものか、など幅広い学びを行います。この講義では、従来のカリキュラムでは十分に対応できていない、経済や経営と福祉の分野をカバーして学びます。民間企業への就職を考える人、企業人事に関心のある方の他、社会企業家を目指す人、NPOでの活動を考えている人に不可欠の分野です。

なお、講義は兵庫大学の教員の他、他大学の教員や社会企業家、実践者を迎えてのオムニバスになっています。

《授業の到達目標》

- ・社会的企業や企業家精神について理解するとともに、市場と福祉の関係など福祉とそれを取りまく社会経済、市場経済、政府の関係を理解することができます。
- ・企業の経営や人事、組織について理解し、企業文化や企業の人事管理、社会保険労務士の役割などについての知識を身につけることができます。

《テキスト》

授業開始後に指示します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

授業内での態度（30%）、最終試験（70%）。

《授業時間外学習》

授業中に自宅で学習する課題（宿題）についての指示を行います。オムニバスの授業ですので、教員により内容が異なります。

《備考》

オムニバス授業です。多数の教員が関わる授業ですので、掲示板の内容などに注意してください。授業計画の内容、または日程については、教員の都合により変更されることがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション：ソーシャルワークにおける経済の関係
第 2 週	社会保障における政府間関係と社会政策①
第 3 週	社会保障における政府間関係と社会政策②
第 4 週	社会的経済とは何か
第 5 週	社会的経済と社会企業①
第 6 週	社会的経済と社会企業②
第 7 週	民間企業の求める人材
第 8 週	企業経営とは何か①
第 9 週	企業経営とは何か②
第 10 週	企業経営とは何か③
第 11 週	企業経営とは何か④
第 12 週	社会企業家と企業家精神①
第 13 週	社会企業家と企業家精神②
第 14 週	人事を巡る課題と社会保険労務士の役割
第 15 週	企業におけるメンタルヘルス

《専門コース科目》

科目名	医療福祉論				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉専門職の基礎知識としての保健医療サービスを理解する。テキストを使用して保健医療サービス全般の基本的知識を押さえ、ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者(患者・家族)を中心とした連携のあり方を考えることができるようになる。

《テキスト》

『保健医療サービス』 村上須賀子・横山豊治編著 久美出版 2010

『医療福祉総合ガイドブック2010年度版』 村上須賀子・佐々木哲二郎編著 医学書院 2011

《参考文献》

患者、精神障害者の闘病記や介護体験記

《成績評価の方法》

定期試験 60% レポート 40%

《授業時間外学習》

患者および精神障害者、その家族など当事者の闘病記や体験記を複数読み込みレポートにまとめる。
医療福祉問題に関する新聞をスクラップにし、レポートにまとめる。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	保健医療分野のソーシャルワークの実際を学ぶ
第 2 週	病むことの意味を学ぶ
第 3 週	各医療専門職の役割を理解する
第 4 週	医療ソーシャルワーカー業務指針を理解する
第 5 週	保健医療サービスの概要を理解する
第 6 週	診療報酬制度を理解する
第 7 週	保健医療対策を理解する
第 8 週	連携の意味を学ぶ
第 9 週	保健医療サービスにおける連携の意味を学ぶ
第 10 週	地域の社会資源との連携を理解する
第 11 週	医療機関別実践・低所得者への医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
第 12 週	医療機関別実践・総合病院における医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
第 13 週	当事者に学ぶ
第 14 週	医療保険制度を理解する
第 15 週	介護保険制度を理解する

《専門コース科目》

科目名	応用医療福祉論				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

医療福祉分野、精神保健福祉分野のソーシャルワークの専門性を理解し、その実践の組み立てを学ぶ。テキストを中心に事例検討も重ね、各専門分化した実践を具体的に学ぶ。Ⅰ期の医療福祉論Ⅰの発展科目に位置する。

《授業の到達目標》

専門分化した医療環境の変化を理解し、各専門分野における医療ソーシャルワークの特性を理解する。事例検討を重ねることにより、各事例に対して支援プロセスの対案を考えられるようになる。

《テキスト》

『新・医療福祉学概論』 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子編著 川島書店 2010

《参考文献》

『在宅医療ソーシャルワーク』村上須賀子・京極高宣他編著 勁草書房 2008

《成績評価の方法》

レポート70% プレゼンテーション30%

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、ディスカッションに参加できるように疑問点や自己の意見などをまとめておくこと。

《備考》

進路として、医療領域・精神医療領域希望の学生は必須である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
第2週	医療福祉の歴史 医療の場における実践の歴史を理解する
第3週	保健医療サービスを支える診療報酬制度と介護保険制度（その1） 診療報酬制度、介護保険制度の基本枠組みを理解する
第4週	保健医療サービスを支える診療報酬制度と介護保険制度（その2） 診療報酬制度、介護保険制度の今日の課題を理解する
第5週	保健医療サービスをあり方を示す医療法 医療法の変遷から今日の医療サービスの課題を理解する
第6週	さまざまな保健医療機関の役割と課題 機能分化した医療機関の役割と課題を理解する
第7週	チームにおけるコーディネイトと多職種協働 多職種協働のあり方を理解する
第8週	利用者主体を実現する医療ソーシャルワーカー 利用者主体を理解しその実現をはかる医療ソーシャルワーカーのあり方を学ぶ
第9週	医療ソーシャルワーカーの実践から問う地域連携 今日の地域連携の実際と課題を理解する
第10週	在宅医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
第11週	在宅医療ソーシャルワーク事例検討をする。（その1）
第12週	在宅医療ソーシャルワーク事例検討をする。（その2）
第13週	在宅医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
第14週	在宅医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ。
第15週	地域医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ。

《専門コース科目》

科目名	精神保健学 I				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《授業の到達目標》

テキストを使用して精神保健の基本的知識を押さえる。ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ

《テキスト》

『精神保健学』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2009

《参考文献》

『医療福祉総合ガイドブック 2011 年度版』 村上須賀子・佐々木哲二郎 編集代表 医学書院 2011

《成績評価の方法》

レポート課題等に対する取り組み (50%)

授業への取り組み各回コメント (50%)

《授業時間外学習》

学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	統合失調症の理解と支援
第 2 週	統合失調症の理解と支援
第 3 週	患者家族が求める精神医療
第 4 週	患者家族が求める精神医療
第 5 週	患者家族が求める精神医療
第 6 週	統合失調症からの回復、早期発見、早期支援
第 7 週	統合失調症の回復、リハビリテーション
第 8 週	精神保健に関する対策 自殺防止対策
第 9 週	精神保健に関する対策 自殺防止対策
第 10 週	精神保健に関する対策 うつ病対策
第 11 週	精神保健に関する対策 うつ病対策
第 12 週	精神保健に関する対策 うつ病対策
第 13 週	ゲストスピーカー
第 14 週	精神保健に関する対策 アルコール依存症対策
第 15 週	精神保健に関する対策 アルコール依存症対策

《専門コース科目》

科目名	精神保健学Ⅱ				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《授業の到達目標》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《テキスト》

『精神保健学』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2009

《参考文献》

『医療福祉総合ガイドブック2011年度版』 村上須賀子・佐々木哲二郎 編集代表 医学書院 2011

《成績評価の方法》

レポート課題等に対する取り組み (50%)

授業への取り組み各回コメント (50%)

《授業時間外学習》

学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	精神保健に関する対策 薬物依存対策
第2週	精神保健に関する対策 薬物依存対策
第3週	精神保健に関する対策 摂食障害
第4週	精神保健に関する対策 摂食障害
第5週	精神保健に関する対策 若者のこころの病
第6週	精神保健に関する対策 若者のこころの病
第7週	精神保健に関する対策 認知症高齢者に対する対策
第8週	精神保健に関する対策 認知症高齢者に対する対策
第9週	ライフサイクルと精神保健
第10週	ライフサイクルと精神保健
第11週	地域精神保健に関する諸法規
第12週	地域精神保健に関する諸法規
第13週	保健師等の役割と連携
第14週	ゲストスピーカー
第15週	地域精神保健に係る行政機関の役割及び連携

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論 I				
担当者名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選		開講年次・開講期	3年・前期

《授業のねらい及び概要》

精神科ソーシャルワークの個別援助技術、集団援助技術および地域援助技術について学ぶ。

《授業の到達目標》

精神科ソーシャルワークの個別援助技術、集団援助技術および地域援助技術について、支援プロセスと方法を説明できる。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉援助技術各論』 中央法規

《参考文献》

『精神科ソーシャルワーカーの実践とかかわり～御万人の幸せを願って～』 名城健二 中央法規

《成績評価の方法》

定期試験 (55%)

毎回の講義後に実施するレポート (45%)

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書は授業前に読んでおくこと。

《備考》

授業では、講義の他アクティビティもあるため、積極的に参加し学ぶ態度が求められる。

授業は、疑問や質問を解消するための時間として、積極的に活用する態度が求められる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	自己紹介、個別援助技術の展開過程①
第 2 週	個別援助技術の展開過程②
第 3 週	ケースワークの実際①
第 4 週	ケースワークの実際②
第 5 週	ケースワークの実際③
第 6 週	集団援助技術の展開過程①
第 7 週	集団援助技術の展開過程②
第 8 週	集団援助技術の実際①
第 9 週	集団援助技術の実際②
第 10 週	集団援助技術の実際③
第 11 週	地域援助技術の展開過程①
第 12 週	地域援助技術の展開過程②
第 13 週	コミュニティワークの実際①
第 14 週	コミュニティワークの実際②
第 15 週	まとめ

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ				
担当者名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選		開講年次・開講期	3年・後期

《授業のねらい及び概要》

精神科ソーシャルワークにおけるケアマネジメント、チームアプローチ、障害者福祉計画作成・進行管理、精神保健福祉士の共通技術について学ぶ。

《授業の到達目標》

精神科ソーシャルワークにおけるケアマネジメントのプロセスと方法が説明できる。
精神科ソーシャルワークにおけるチームアプローチおよび連携の方法が説明できる。
障害者福祉計画作成の過程と進行管理および評価方法を説明できる。
精神保健福祉士の共通技術である面接、記録、スーパービジョン、効果測定の方法を説明できる。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉援助技術各論』 中央法規

《参考文献》

ACT 入門—精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム 西尾雅明 金剛出版

《成績評価の方法》

定期試験（55%）
毎回の講義後に実施するレポート（45%）
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書は授業前に読んでおくこと。

《備考》

授業では、講義の他アクティビティもあるため、積極的に参加し、学ぶ態度が求められる。
授業は、疑問や質問を解消するための時間として、積極的に活用する態度が求められる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ケアマネジメントの展開過程
第 2 週	ケアマネジメントの実際①
第 3 週	ケアマネジメントの実際②
第 4 週	チームアプローチと連携①
第 5 週	チームアプローチと連携②
第 6 週	チームアプローチと連携③
第 7 週	障害者福祉計画①
第 8 週	障害者福祉計画②
第 9 週	障害者福祉計画③
第 10 週	精神保健福祉士の共通技術①
第 11 週	精神保健福祉士の共通技術②
第 12 週	精神保健福祉士の共通技術③
第 13 週	精神保健福祉士の共通技術④
第 14 週	精神保健福祉士の共通技術⑤
第 15 週	まとめ

《専門コース科目》

科目名	精神科リハビリテーション学 I				
担当者名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きていく上での生活の質（QOL）を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、病院、施設、地域での精神科リハビリテーションのプロセスを知る。

《テキスト》

『精神科リハビリテーション学』日本精神保健福祉士養成協会編集、中央法規、2009年

《参考文献》**《成績評価の方法》**

レポート課題に対する取り組み（50%）
授業への取り組み（50%）

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと

《備考》

授業中、積極的な質問や意見を期待する

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	リハビリテーションの概念と歴史
第 2 週	リハビリテーションの理念、意義と基本原則
第 3 週	精神科リハビリテーションの概念
第 4 週	精神科リハビリテーションの基本原則と技法
第 5 週	わが国および諸外国の精神科リハビリテーションの現状
第 6 週	精神科リハビリテーションの対象
第 7 週	精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
第 8 週	精神科リハビリテーションにかかわる専門職等との連携
第 9 週	精神科リハビリテーションの施設
第 10 週	精神科リハビリテーションの関連領域
第 11 週	リハビリテーション計画
第 12 週	病院におけるリハビリテーション
第 13 週	社会復帰施設等におけるリハビリテーション
第 14 週	地域におけるリハビリテーション
第 15 週	学習のまとめ

《専門コース科目》

科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ				
担当者名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神科リハビリテーションⅠをふまえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、そこにおける精神保健福祉士の役割について講義する。

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を理解する。

《テキスト》

『精神科リハビリテーション学』日本精神保健福祉士養成協会編集、中央法規、2009年

《参考文献》**《成績評価の方法》**

レポート課題に対する取り組み (50%)
授業への取り組み (50%)

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと

《備考》

授業中、積極的な質問や意見を期待する

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	医療機関におけるリハビリテーション概説
第 2 週	医療機関におけるリハビリテーション：精神科作業療法
第 3 週	医療機関におけるリハビリテーション：作業療法の実際
第 4 週	医療機関におけるリハビリテーション：レクリエーション療法
第 5 週	医療機関におけるリハビリテーション：集団精神療法
第 6 週	医療機関におけるリハビリテーション：行動療法
第 7 週	医療機関におけるリハビリテーション：認知行動療法の概要
第 8 週	医療機関におけるリハビリテーション：認知行動療法の実際
第 9 週	医療機関におけるリハビリテーション：社会生活技能訓練の理論
第 10 週	医療機関におけるリハビリテーション：社会生活技能訓練の実際
第 11 週	医療機関におけるリハビリテーション：家族教育プログラム
第 12 週	医療機関におけるリハビリテーション：デイケア、ナイトケア
第 13 週	医療機関におけるリハビリテーション：精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
第 14 週	医療機関におけるリハビリテーション：退院・地域移行支援
第 15 週	医療機関におけるリハビリテーションのまとめ

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助演習				
担当者名	村上 須賀子・光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・I期分

《授業のねらい及び概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワーク等）及びリハビリテーション技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し小グループで議論し合う形で事例研究及びロールプレイ等を行う。

《授業の到達目標》

- ・精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその技術・技法を習得する。
- ・学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

《テキスト》

『精神保健福祉士養成セミナー第7巻、「精神保健福祉援助演習』、へるす出版、定価（本体価格2,800円＋税）

《参考文献》**《成績評価の方法》**

レポート課題等に対する取り組み（50%）

授業への取り組み各回コメント（50%）

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える知識・技術の習得を目指すので、学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション・自己紹介・グループ分け
第2週	ケースワーク事例：保健所・危機介入事例（事例番号②）
第3週	同上（上記事例の続き）
第4週	インテークの取り方
第5週	ケースワーク事例：病院・資源紹介事例（事例番号①）
第6週	同上（上記事例の続き）
第7週	入院形態・精神保健診察の流れについて
第8週	専門職としての基本的態度・ゲスト予定
第9週	当事者理解：当事者体験談・ゲスト予定
第10週	社会復帰施設見学予定
第11週	ケースワーク事例：退院援助事例（事例番号③）
第12週	同上（上記事例の続き）
第13週	ケースワーク事例：社会復帰施設による生活援助事例（事例番号④）
第14週	兵庫県内の社会復帰施設について
第15週	夏休暇課題説明・精神保健福祉領域の社会資源調査

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助演習				
担当者名	村上 須賀子・光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワーク等）及びリハビリテーション技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し小グループで議論し合う形で事例研究及びロールプレイ等を行う。

《授業の到達目標》

- ・精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその技術・技法を習得する。
- ・学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

《テキスト》

『精神保健福祉士養成セミナー第7巻、「精神保健福祉援助演習」、』へるす出版、定価（本体価格2,800円＋税）

《参考文献》**《成績評価の方法》**

レポート課題等に対する取り組み（50%）

授業への取り組み各回コメント（50%）

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える知識・技術の習得を目指すので、学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	グループワーク事例：依存症患者セルフヘルプ・グループ事例（事例番号⑩）
第2週	同上（上記事例の続き）
第3週	アルコール依存症の理解と自助グループの役割について
第4週	グループワーク事例：精神科デイケア事例（事例番号⑥）
第5週	同上（上記事例の続き）
第6週	精神科病院デイケア見学予定
第7週	コミュニティーワーク事例：社会復帰施設におけるリハビリテーション相談事例（事例番号⑫）
第8週	同上（上記事例の続き）
第9週	ケースワーク事例：地域生活における生活支援事例（事例番号⑤）
第10週	地域生活支援事例：チームアプローチによる援助事例（事例番号⑭）
第11週	同上（上記事例の続き）
第12週	地域生活支援事例：ケアマネジメントによる援助事例（事例番号⑮）
第13週	同上（上記事例の続き）
第14週	学習の振り返り
第15週	現場実習の意味について・オリエンテーション

《専門コース科目》

科目名	心理検査法実習				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉士として福祉の現場に出て行く時、知ってくと役に立つ「心理学検査」について学ぶ。授業では様々な種類の「心理テスト」を取り上げるが、体験・実習した心理テストについては、レポートにまとめて自己理解を深めることにも役立ててほしい。

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査、性格検査、パーソナリティーテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《テキスト》

『心理検査の理論と実際 第IV版』花沢・佐藤・大村著 駿河台出版社 2800円

《参考文献》

現在のエスプリ別冊 臨床心理学シリーズII 『心理査定プラクシス』

《成績評価の方法》

毎回の授業に参加し、心理テストを体験することが重要であるため、授業実施回数の3分の1以上を欠席した場合は単位を与えない。受講態度30%、毎回提出の授業時間内提出レポート70%で評価する。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。配布する資料は、将来福祉の現場でも活用できるものであるため、各自ファイルしておくこと。

《備考》

同じ日に2コマ連続で実施する授業である。遅刻厳禁。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション
第2週	パーソナリティーテスト
第3週	児童相談所で用いられる心理検査①
第4週	児童相談所で用いられる心理検査②
第5週	児童相談所で用いられる心理検査③
第6週	児童相談所で用いられる心理検査④
第7週	病院で使用される心理テスト①
第8週	病院で使用される心理テスト②
第9週	病院で使用される心理テスト③
第10週	病院で使用される心理テスト④
第11週	投影法①
第12週	投影法②
第13週	描画テスト
第14週	親子関係を知るテスト
第15週	高齢者のための心理テスト・まとめ

《専門コース科目》

科目名	行動分析論				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

動物は環境に様々な行動によって働きかけ、その結果によって行動は支配される。この行動主義の考え方や理論を学ぶ。ある行動を支配する先行刺激と結果にもとづき、その行動をコントロールする行動分析（機能的分析）のテクニックについて、実験事例を通して詳しく学ぶ。授業では、レスポネントおよびオペラント条件づけ、強化随伴性、行動分析（機能的分析）、行動分析のテクニック、行動療法、認知行動療法などをテーマとして取り上げる。

《授業の到達目標》

動物にとって学習とは何か、学習の持つ意味を説明できる。
代表的な学習理論について説明できる。
強化と罰および汎化と分化の違いを説明できる。
行動分析（機能的分析）の代表的なテクニックを説明できる。

《テキスト》

杉山尚子 『行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由』 集英社新書

《参考文献》

ポール・A. アルバート、アン・C. トルーマン、佐久間徹ほか訳 『はじめての応用行動分析』 二弊社

《成績評価の方法》

試験 70%、提出物 30%

《授業時間外学習》

日々の生活での、強化随伴性、消去、分化、汎化の事例を探し、報告する。
ターゲット行動を決めて、行動分析を体験し、報告する。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	行動主義心理学のはじまりと発展
第 2 週	スキナーの考え方とオペラント条件づけ 1
第 3 週	スキナーの考え方とオペラント条件づけ 2
第 4 週	オペラント条件づけの研究法 1
第 5 週	オペラント条件づけの研究法 2
第 6 週	オペラント条件づけの研究法 3
第 7 週	オペラント条件づけによる言語獲得
第 8 週	フリーオペラントとディスクリートオペラント
第 9 週	応用行動分析 1 強化の適用 事例と問題点
第 10 週	応用行動分析 2 消去法適用 事例と問題点
第 11 週	応用行動分析 3 分化強化法の適用 事例と問題点
第 12 週	応用行動分析 4 罰の適用 1 レスポンスコスト法ほか
第 13 週	応用行動分析 5 罰の応用 2 罰適用の問題点
第 14 週	ソーシャルスキルの獲得 対人的ソーシャルスキルについて
第 15 週	スキナー理論への反証と認知行動療法について

《専門コース科目》

科目名	老人・障害者の心理				
担当者名	奥 典之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

老人・障害者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行うことにより、老人や障害者をよりよく理解することをねらいとする。又、本講は認定心理士資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、心理学専攻者としてのアイデンティティをもてることにも留意する。

《授業の到達目標》

具体的には、老人・障害者をよりよく理解することにより、彼らに適切に接し、あるいは支援したり介護したりし、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになることを目標とする。

《テキスト》

中野 善達・守屋 國光 編著『老人・障害者の心理』（改訂版）福村出版

《参考文献》

下山 晴彦 編「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房

《成績評価の方法》

平常点40%、課題レポート10%、定期試験50%とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめること。

《備考》

講義中心であるが、随時課題レポートの作成を求める。
課題レポートのテーマについては、場合によってはゲストスピーカーを招く事がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	老人の心理：総論（1）
第 2 週	老人の心理：総論（2）
第 3 週	障害とその心理的影響（1）
第 4 週	障害とその心理的影響（2）
第 5 週	老人の心理的特性（1）
第 6 週	老人の心理的特性（2）
第 7 週	老人の心理的特性（3）
第 8 週	障害の原因・程度・種類別心理的特性（1）
第 9 週	障害の原因・程度・種類別心理的特性（2）
第10週	障害の原因・程度・種類別心理的特性（3）
第11週	老年期の精神障害・機能障害とその心理（1）
第12週	老年期の精神障害・機能障害とその心理（2）
第13週	高齢者、障害者への対応・事例研究（1）
第14週	高齢者、障害者への対応・事例研究（1）
第15週	総括

《専門コース科目》

科目名	色彩論				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「騒音」という言葉に対して「騒色」という表現がマスコミで用いられている。この言葉は特に、都市における景観色のあり方について、警告の意味として「騒色公害」などとも表現されている。色彩が生活のなかで無秩序で刺激的な色彩の氾濫により私達の日常生活に影響を与える。「色彩と生活」、「色彩と文化」、「環境と色彩等々について、改めて色彩の意味を考えます。

《授業の到達目標》

私達は、多くの色彩に囲まれています。無意識にそれらの色彩にかかわっていて、色が無言で発しているメッセージを「色彩科学」「色彩の感情効果」「社会と色彩」等々の視点から解き明かし、色彩のもつ不思議さを学習する事により、色彩をきれいな色とか汚い色といった感覚的だけでなく、理論的にそしてまた情報伝達の役割を果たしており、自分の生活にも取り入れ役立てることが出来ます。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

- ・『色彩科学入門』（日本色彩研究所・編 日本色研事業）
- ・『色彩』（大井義雄他・著 日本色研事業）

《成績評価の方法》

- ・レポート課題 100%
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・各自の身の回りの生活用品(携帯電話、Tシャツ、口紅等々)の色彩を見ておくこと。

《備考》

- ・日常生活のなかで色に注目すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・色彩論の概説 色彩を科学的、理論的視点からだけでなく、私達の生活のなかでどの様に、活用されているのかを改めて見直す。
第 2 週	・色彩と生活 色彩の時代を迎え、私達の周りにはおびただしい数の色が氾濫しており、色彩の果たす役割りは何かを考える。
第 3 週	・色彩と文化 各国によって同じ色ども、解釈の違いがありそれは何故なのか？
第 4 週	・色の見え方(色知覚のメカニズム) 色はただ単に見ているのではなくある現象によって色の見え方が異なることがあり、それはどうして起こるのか？
第 5 週	・色彩の感情効果 色は無言で、暖寒、軽重感等々我々に語りかけてくることについての解説
第 6 週	・イメージと色彩・Ⅰ 色は可愛い、落ち着いた、エレガンスというようなイメージを表わすことが出来る。
第 7 週	・シンボルとしての色彩・Ⅱ (例)フランス国旗の色：トリコロールカラ・・・ 青(自由) 白(平等) 赤(博愛)
第 8 週	・シングルとしての色彩・Ⅲ
第 9 週	・色の表示方法 数限りの無い色はどのように表わすのか？
第 10 週	・色名 それぞれの色には色の名前が付けられており、日本の色名の由来について説明。
第 11 週	・環境と色彩 ピンクの色のマンションが周辺住民の人達から大反対された？
第 12 週	・企業と色彩 企業戦略としての色彩：コーポレートカラー(例・ユニクロ、セブンイレブンの色は)
第 13 週	・社会と色彩・Ⅰ 流行色が求められる背景とその時代的変遷
第 14 週	・社会と色彩・Ⅱ 安全色彩について
第 15 週	・現代社会における色彩

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法				
担当者名	岩本 真佐子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・I期分

《授業のねらい及び概要》

この講義では、①高等学校の福祉科の設置に関する基本理解（教科設置の背景・経緯、教科「福祉」7科目の目的・内容・留意点および展開など）、②校務分掌および教師の職務・教育観などを理解することによって、教師として必要な職業倫理を身につける。また、高校への教育実習に向けて、学習指導案の作成、模擬授業、授業展開の技術、教材研究、評価の方法などを教授するとともに、一般的な留意点も合わせて指導する。

《授業の到達目標》

- ・教科「福祉」の創設・経緯が理解できたか。
- ・教科「福祉」の7科目の目標・内容・留意点が理解できたか。
- ・教科「福祉」を担当する教師に求められる人間観、福祉観が再認識できたか。
- ・現代の高校生の特徴が理解できたか。

《テキスト》

- ・『福祉科指導法入門』大橋謙策編集代表、田村真広・辻浩・原田正樹編、中央法規、2007
- ・その他、資料は適宜配布する。

《参考文献》

- ・『高等学校学習指導要領の展開 「福祉」編 専門教科』矢幅清司・細江容子編著、明治図書、2000
- ・『教育法規の解説 受験必読法規の掲載』吉川寿一・中谷静夫編著、大阪教育図書株式会社、2010

《成績評価の方法》

- ・レポート・課題などの提出物（提出日時を厳守すること）40%
- ・定期試験（持ち込み不可にて実施する）60%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法は適宜、課題を出すので、次週の授業時に提出すること。
- ・復習の方法は、その都度、本時の授業に関する課題を出すので次週の授業時に提出すること。

《備考》

- ・教育実習や教員採用試験に向けて、日頃から提示した図書を繰り返し学習するよう心がけてください。積極的な学習態度を望みます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	現代社会の現状を考える：特に、高校生の特徴を考えることによってどのように接する必要があるか理解する。
第2週	教師と職務について理解する：よい教師とは、校務分掌、教師の仕事のやりがい・困難なところなどを考える。
第3週	教育法規：教育を受ける権利・公教育、教育権、教育法規体系を理解する。
第4週	教科「福祉」創設の背景・その経緯について理解する。
第5週	学習指導要領の内容について理解する。
第6週	高校福祉科の教育目標と教育内容：教材研究、教育評価の役割などを理解する。
第7週	学習指導案の作成の方法と留意事項について理解する。
第8週	高校福祉科の教科内容とその展開：「社会福祉基礎」の目標・内容・留意事項の説明
第9週	高校福祉科の教科内容とその展開：「社会福祉制度」の目標・内容・留意事項の説明
第10週	高校福祉科の教科内容とその展開：「社会福祉援助技術」の目標・内容・留意事項の説明
第11週	高校福祉科の教科内容とその展開：「基礎介護」の目標・内容・留意事項の説明
第12週	高校福祉科の教科内容とその展開：「社会福祉実習」の目標・内容・留意事項の説明
第13週	高校福祉科の教科内容とその展開：「社会福祉演習」・「福祉情報処理」の目標・内容・留意事項の説明
第14週	授業技術（板書、発問、文字、指示の方法、机間巡視など）を理解する。
第15週	ビデオ視聴：教育実習生の実際、課題

《教職に関する科目》

科目名	総合演習				
担当者名	稲富 恭・今井 俊介・吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

教科指導を中心とした教職イメージではなく、学校現場の視点から見た教員とその職務について学習することを中心として、これまでの教職課程で得られた知識・技術を総合的に用いる能力を実践的授業方法により養う。

《授業の到達目標》

本演習では、教職課程においてすでに習得している教科に関する専門的な知識・技能および教職に関する科目の統合を図る。主として、教員として基本的な身につけるべき職務上の知識や技術を習得することに加えて、教員としての使命感や責任感を認識することを目標とする。さらに、教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を理解するだけでなく、それらを実践するために必要な諸能力（汎用的技能など）を身につけることを目標とする。

具体的目標は以下の通りである。

- (1) 教員の資質と使命について理解し、説明できる。
- (2) 学校組織と運営について理解し、説明できる。
- (3) 教科指導以外の教育活動について理解し、説明できる。
- (4) 学級経営の問題点について指摘し、解決できる。
- (5) 学校をとりまく社会変化と問題点について指摘し、解決できる。

《テキスト》

教職問題研究会編『教職必修 新教職論』

《参考文献》

教職問題研究会編『教職論 ―教員を志すすべてのひとへー』

《成績評価の方法》

毎回の授業記録に基づく学生による自己評価(40%)と教員による評価(60%)の相互評価による。

《授業時間外学習》

- (1) できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 授業以外でも、新聞などにより教職や教育活動全般に関する情報収集に心がけ、教育問題への理解を深めるよう努めて下さい。

《備考》

この授業では、演習を通して、受講者が共に学ぶことにより、知識や技術の習得だけでは身につけることのできない汎用的能力を身につけることもねらいとしています。この汎用的能力は、社会人として、職業人として、そして教職に携わる者にとって必要不可欠な能力です。授業に出席するだけでなく、演習に積極的に参加することが重要になります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育関係法規の体系、教職員の職務についての理解（講義および討議）
第 2 週	教員の資質と使命（1）教員に求められる資質能力を考える（事例研究）
第 3 週	教員の資質と使命（2）望ましい教員像を考える（事例研究）
第 4 週	学校の組織と運営（1）職務構成の理解（講義および討議）
第 5 週	学校の組織と運営（2）教員の勤務とサービス（ロールプレイングおよび討議）
第 6 週	教員の教育活動の実際（1）学級担任の職務（講義および討議）
第 7 週	教員の教育活動の実際（2）教科指導の基本と課題（模擬授業）
第 8 週	教員の教育活動の実際（3）生徒理解と生徒指導（ロールプレイングおよび討議）
第 9 週	教員の教育活動の実際（4）進路指導の意義と役割（講義および討議）
第 10 週	実際の学級経営（1）特別活動の領域（模擬授業）
第 11 週	実際の学級経営（2）生徒理解に基づく教科指導（模擬授業）
第 12 週	実際の学級経営（3）問題行動への対処（ロールプレイングおよび討議）
第 13 週	学校教育の広がりや課題（保護者および地域との連携）（講義および討議）
第 14 週	社会の変化と教育問題（カウンセリングマインドと福祉マインド）（討議）
第 15 週	学習のまとめ（学習のふり返りと学習成果の自己評価）

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1)自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

- (1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。
- (2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。
- (3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。
- (4)学級経営について、ロールプレイにより、問題点を発見し、解決できる。
- (5)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。
- (6)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲 10%、(2)知識・技術の習得 10%、(3)模擬授業 30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲 10%、(2)研究授業 20%、(3)問題解決力 20%の配点により評価する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。とりわけ、教職における諸問題（教科指導、特別活動、学級経営等）については、教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態であるので、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育実習の全体 1) 教師(教員)養成と教育実習 2) 教育実習の目標 3) 教育実習の展開 4) 教育実習の心得
第 2 週	教育実習の内容 (1) 1) 学校経営 2) 学校の組織 3) 生徒の理解事項 4) 教育課程 5) 学習指導
第 3 週	教育実習の内容 (2) 1) 道徳と特別活動 2) 生徒指導と学級経営 3) 学校の施設と環境 4) 教師としての勤務
第 4 週	教育実習の実際 1) 教材研究の実際 2) 学習指導の実際 3) 学習指導案の事例 4) 授業研究の実際 5) 道徳・特別活動・生活指導
第 5 週	教育の方法及び技術 (ビデオ視聴) 1) 『授業の仕組みとはたらき』 2) 『授業を創る』 3) その他
第 6 週	教材研究と指導案づくり (1) (講義および演習)
第 7 週	教材研究と指導案づくり (2) (講義および演習)
第 8 週	教材研究と指導案づくり (3) (講義および演習)
第 9 週	模擬授業 (および討議)
第 10 週	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価
第 11 週	「教育実習」全体のふり返り (実習内容の明確化・体系化) : 討議・発表 (実習内容の反省・共有化)
第 12 週	事後の教材研究と事後の授業研究
第 13 週	研究授業 (および討議)
第 14 週	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)
第 15 週	「教育実習」全体の総括

平成 20 年度
(2008 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門	生涯発達心理学Ⅰ	講義	2					2										
	生涯発達心理学Ⅱ	講義	2					2										
	生涯学習論	講義	2					2										
	ソーシャルワーク論	講義	2					2										
	ライフデザイン論	講義	2										2			吉原 恵子	125	
	法学Ⅰ	講義	2		◎	※		2										
	法学Ⅱ	講義	2					2										
	行政法	講義	2					2										
	家族社会学	講義	2							2								
	家族福祉論	講義	2								2							
基 礎	社会福祉学入門	講義	2					2										
	発達心理学	講義	2				▲		2									
	人間関係論	講義	2							2								
	親子関係の心理学	講義	2								2							
	健康心理学	講義	2							2								
	集団心理学	講義	2									2						
	社会心理学	講義	2						2									
	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義	2							2								
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義	2								2							
	教育心理学	講義	2					△			2							
教 育	ライフステージと健康	講義	2										2			不開講		
	医学概論Ⅰ	講義	2		○	◇		2										
	医学概論Ⅱ	講義	2		○	◇		2										
	食文化論	講義	2					2										
	食生活論	講義	2						2									
	レクリエーションワークⅠ	講義	2					2										
	レクリエーションワークⅡ	講義	2						2									
	演習Ⅰ	演習	4						4									
	演習Ⅱ	演習	6								6							
	専 門 コ ア ス 目 科	社会福祉学原論Ⅰ	講義	2		○	◇	△	2									
社会福祉学原論Ⅱ		講義	2		○	◇	△	2										
社会保障論		講義	2		●	◆				2								
老人福祉論Ⅰ		講義	2		○		△	2										
老人福祉論Ⅱ		講義	2		○		△	2										
障害者福祉論Ⅰ		講義	2		○		△				2							
障害者福祉論Ⅱ		講義	2		○		△					2						
児童福祉論Ⅰ		講義	2		○		△				2							
児童福祉論Ⅱ		講義	2		○		△					2						
地域福祉論		講義	2		●	◆						2						
公的扶助論		講義	2		●	◆							2					
社会福祉援助技術論A		講義	4		○	◇	△				4							
社会福祉援助技術論B		講義	4		○	◇	△					4						
介護概論		講義	2		○		△					2						
人間の行動と社会環境		講義	2						2									
社会福祉援助技術演習A		演習	4		○		△					4						
社会福祉援助技術演習B		演習	4		○		△						4					
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		講義	1		○		△		1									
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	講義	1		○		△				2								
社会福祉援助技術現場実習	実習	4		○		△						12						

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 科 目	社会統計学Ⅰ	講義		2						2							
	社会統計学Ⅱ	講義		2							2						
	社会調査論Ⅰ	講義		2				2									
	社会調査論Ⅱ	講義		2				2									
	地域経済論	講義		2							2						
	社会福祉行財政論	講義		2							2						
	福祉工学	講義		2								2			稲富 恭	126	
	まちづくり論	講義		2								2					
	国際福祉論	講義		2										2	河野 真	127	
	スクールソーシャルワーク論	講義		2										2	井上 浩	128	
専 門 科 目	医療福祉論Ⅰ	講義		2								2					
	医療福祉論Ⅱ	講義		2									2				
	精神保健福祉論	講義		6		◇					6						
	精神医学Ⅰ	講義		2		◇				2							
	精神医学Ⅱ	講義		2		◇				2							
	精神保健学Ⅰ	講義		2		◇							2				
	精神保健学Ⅱ	講義		2		◇							2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2		◇							2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2		◇							2				
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義		2		◇							2				
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義		2		◇							2				
	精神保健福祉援助演習	演習		4		◇							4				
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇								12	桐石・村上・[光田]	129・130	
	老年医学	講義		2									2				
	認知心理学	講義		2								2					
	臨床心理学	講義		2								2					
	心理測定法	講義		2								2					
	心理学基礎実験	実験		2									4				
	心理療法Ⅰ	講義		2									2				
	心理療法Ⅱ	講義		2									2				
心理検査法実習	実習		2									4					
心理カウンセリング演習	演習		2										2	琴浦 志津	131		
老人・障害者の心理	講義		2										2				
色彩論	講義		2										2				
社会福祉特別演習	演習		4										4	*1	132		
卒業演習	演習		4										4	*1	133		

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目、●◎は社会福祉士国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）

◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆※は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

*1 Boo・田端・浜島・河野・吉原・牧田・今井・村上・高橋・稲富・井上・北島・桐石・琴浦・本多

※ 社会福祉援助技術現場実習を履修した学生は、4年Ⅰ期またはⅡ期に開講する「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ」を履修すること。

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				△	2										
	教育原理	講義	2				△	2										
	教育制度論	講義	2				△		2									
	教育課程論	講義	2				△			2								
	福祉科教育法	講義	4				△				4							
	特別活動論	講義	2				△			2								
	教育方法・技術論	講義	2				△			2								
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2				△		2									
	教育相談（含カウンセリング）	講義	2				△	2										
	総合演習	演習	2				△				2							
	事前・事後指導	演習	1				△					1						
	高等学校教育実習	実習	2				△						4			吉原 恵子	134	

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目、●◎は社会福祉士国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）
 ◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆※は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）
 △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
 ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
 日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
 指定の科目を履修すること。

《専門基礎科目》

科目名	ライフデザイン論				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

生涯学習社会においては、一人ひとりが自分自身の生活・生き方をデザインする力をもつことが必要である。したがって、ソーシャルワークには、その時その場だけの支援ではなく、人々がそれぞれに合った、しかも将来を見通したライフデザインをする力をもつための手助けも含まれる。本講義では、まず人間のライフコースを一人ひとりの価値観や幸福感との関係から理解する。さらに、自己決定の尊重、生活の質(QOL)の確保、持続可能な社会創造などの諸課題を通して、個々人のライフデザインと協働・共生との関係を考える。

《授業の到達目標》

- (1)ライフデザイン論とは何かについて説明できる
- (2)ライフコースの各ステージにおける人々の生活を、家族、労働の視点から説明できる
- (3)個々人のライフデザインに関わる問題を社会全体の文脈のなかで捉えることができる

《テキスト》

『生活経営論 一自立と共生のライフデザイナー』藤原千賀他著（同文書院, 1996）

《参考文献》

『ライフデザイン学入門（第2版）』古川孝順他編（誠信書房, 2007）

《成績評価の方法》

学習のまとめ(1)(2)において、知識の定着度を評価する（45%）。また、所定のテーマについてのレポートを課す（55%）。

《授業時間外学習》

3年次までに修得した社会福祉に関する知識をふり返り、理解が不十分な分野や領域についてはできるだけ自主的に補習を行っておくことが望ましい。

《備考》

各回のテーマによっては、ミニレポートを課す場合もある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ライフデザイン論とはなにか ～対象と方法～
第 2 週	ライフデザイン論のアプローチ（1） 「生きること」の意味（哲学、文化人類学、宗教学）
第 3 週	ライフデザイン論のアプローチ（2） 「生活すること」の諸側面（身体と心）
第 4 週	ライフデザイン論のアプローチ（3） 「豊かさ」の諸側面（モノとココロ）
第 5 週	家族とライフデザイン（1） 家族と生活 ～高齢者とその家族～
第 6 週	家族とライフデザイン（2） 家族と生活 ～障がい者とその家族～
第 7 週	家族とライフデザイン（3） 家族と生活 ～児童とその家族～
第 8 週	学習のまとめ(1)
第 9 週	労働とライフデザイン（1） 子育て期の家族
第 10 週	労働とライフデザイン（2） 子育て後の家族
第 11 週	労働とライフデザイン（3） 高齢者と労働
第 12 週	健康とライフデザイン
第 13 週	人間環境とライフデザイン
第 14 週	まちづくりとライフデザイン
第 15 週	学習のまとめ(2)

《専門コア科目》

科目名	福祉工学				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

・福祉工学とは、狭義においては高齢者、障がい者、児童を対象に、広義においては全ての人を対象に、快適で公平な社会参加を可能とするための人間工学です。本講義を通して、生活環境における物理的な障壁とその改善手法について学びます。

《授業の到達目標》

- 福祉工学の基本的考え方、各研究分野について理解する。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案する事ができる。

《テキスト》

- ・テキストは用いない

《参考文献》

- ・『福祉工学入門』宇土博、労働調査会,2005

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施するレポート(60%)、授業中に不定期に実施する小テスト(40%)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
事前に各回の授業内容に関連した事例を新聞、Web等の媒体を用いて調査する。
- ・復習の方法
授業内容に従い、ノートを制作する。

《備考》

《授業計画》

週	授業計画
第1週	福祉工学とは何か(ガイダンス)
第2週	福祉機器開発のための動作分析
第3週	バリアフリーとユニバーサルデザインの概念
第4週	福祉機器の設計と運用(1)視覚・聴覚障がいを補助する機器
第5週	福祉機器の設計と運用(2)義肢・装具
第6週	福祉機器の設計と運用(3)移動機器
第7週	福祉機器の設計と運用(4)コミュニケーションを補助する機器
第8週	福祉機器の設計と運用(5)日常生活を補助する機器
第9週	生活環境の整備手法(1)住環境整備
第10週	生活環境の整備手法(2)福祉施設における住環境整備
第11週	生活環境の整備手法(3)こどものための空間
第12週	生活環境の整備手法(4)公共空間の整備
第13週	高齢者、障がい者の安全確保と事故防止
第14週	福祉ロボットの開発と現状
第15週	授業のまとめ、及び小テスト

《専門コア科目》

科目名	国際福祉論				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

福祉国家政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大してきた。本講では、社会福祉や社会保障制度の仕組みや政策を比較することの意義やその手法について学ぶ。そのうえで、福祉国家の類型を代表する諸外国と日本の制度や社会状況を比較し、共通点や相違点、制度的発展の社会・経済・政治的背景について学ぶ。さらに社会福祉に関する国際的な枠組みや、外国人による介護労働の動向や課題について考察する。

《授業の到達目標》

福祉国家類型を代表する諸外国や、急速に福祉国家が進む東アジア諸国の制度の特質や発展過程についての知識を身につける。諸外国との比較を通じて、日本の福祉国家制度の水準や特質、制度形成の背景についてより深く理解することができるようになる。

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験 70%、授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する）。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。

授業で扱うトピックスは、基礎的な情報や動向については新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。

《備考》

グローバル化、情報化、脱工業化、さらに少子高齢化など、社会のシステムは大きく変貌を遂げつつあります。豊かで安定した市民生活を実現するうえで、社会福祉や社会保障制度を内実とする福祉国家政策の充実是不可欠です。今日日本では、経済的繁栄を優先する政策運営に見直しが迫られており、福祉国家政策のあり方にも大きな変化が進行しつつあります。これからの日本の社会を考察する上で、国際比較の視点を交えることは有益です。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	福祉国家の国際比較 1 社会福祉制度や社会保障制度を比較する上での留意点、比較のポイント等について学ぶ。
第 2 週	福祉国家の国際比較 2 福祉国家比較のための諸理論（1）産業化理論、権力資源論、コーポラティズム論について学ぶ。
第 3 週	福祉国家の国際比較 3 福祉国家比較のための諸理論（2）福祉国家類型論について学ぶ（その1）。
第 4 週	福祉国家の国際比較 4 福祉国家比較のための諸理論（3）福祉国家類型論について学ぶ（その2）。
第 5 週	福祉国家の国際比較 5 福祉国家比較のための諸理論（4）クオリティオブライフ・アプローチ、ソーシャルクオリティ・アプローチについて学ぶ。
第 6 週	スウェーデンの福祉国家政策 高福祉高負担の北欧式福祉国家の在り方をスウェーデンを通じて学ぶ。
第 7 週	ドイツの福祉国家政策 社会保険方式の福祉国家制度を代表するドイツの制度について学ぶ。
第 8 週	イギリスの福祉国家政策 古い伝統を有するイギリス福祉国家の過去と現在を学ぶ。
第 9 週	アメリカの福祉国家政策 市場重視の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ。
第 10 週	韓国や台湾の福祉国家政策 近年急速に福祉国家が進む韓国と台湾の制度について学ぶ。
第 11 週	東アジア諸国の福祉国家政策 韓国や台湾を除く東アジア諸国の状況について学ぶ。
第 12 週	日本の福祉国家政策 1 日本の福祉国家制度の特徴とその背景について学ぶ。
第 13 週	日本の福祉国家政策 2 国際比較を通じて、日本型福祉国家の本質について考察する。
第 14 週	社会保障の国際的枠組みと外国人の介護労働の動向と課題 東アジアにおける家事・介護・看護の労働移動について学び、日本における外国人介護労働の現状と課題について考察する。
第 15 週	授業のまとめ、ふりかえり

《専門コア科目》

科目名	スクールソーシャルワーク論				
担当者名	井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スクールソーシャルワークは、ソーシャルワークを学校という場においていかに実践していくかという考え方である。すなわち、スクールソーシャルワークという別のソーシャルワークがあるわけではない。この科目では、スクールソーシャルワークに関する概念整理、特に子どもの学習保証という観点から講義を展開する。内容としては、スクールソーシャルワークと子どもを巡る現状、歴史、専門職としてのスクールソーシャルワークに分けて概説する。

《授業の到達目標》

- ①スクールソーシャルワークが専門職であるという認識ができる
- ②子どもの学習保証にとってスクールソーシャルワークがどのような役割を担っているのかを説明できる

《テキスト》

『スクールソーシャルワーク論』山下 英三郎・内田 宏明・半羽 利美佳、学苑社、2008

《参考文献》

適宜紹介するが、スクールソーシャルワークの歴史から英語の文献を紹介することが多くなる

《成績評価の方法》

学期末試験で評価する

《授業時間外学習》

教科書に沿って授業を展開するので、次回予定する講義内容のページに合わせた部分を読んでおくこと

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	スクールソーシャルワークと子どもを巡る現状（1）
第 2 週	スクールソーシャルワークと子どもを巡る現状（2）
第 3 週	スクールソーシャルワークの歴史（1）
第 4 週	スクールソーシャルワークの歴史（2）
第 5 週	ソーシャルワーク実践理論の応用（1）
第 6 週	ソーシャルワーク実践理論の応用（2）
第 7 週	ソーシャルワーク実践理論の応用（3）
第 8 週	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（1）
第 9 週	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（2）
第10週	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（3）
第11週	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（4）
第12週	専門職としてのスクールソーシャルワーク（1）
第13週	専門職としてのスクールソーシャルワーク（2）
第14週	専門職としてのスクールソーシャルワーク（3）
第15週	スクールソーシャルワークの可能性

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助実習				
担当者名	桐石 梢・村上 須賀子・光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	4年・I期分

《授業のねらい及び概要》

- 1、現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び援助並びに関連知識の理解を深める。
- 2、精神保健福祉士として必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3、職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5、関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

面接技術、記録作成、実習先調整など精神保健福祉士実習に向けての準備ができる。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2009年

《参考文献》

浦河べてるの家『べてるの家の「非」援助論 そのままでいいと思えるための25章』医学書院 2002年

《成績評価の方法》

出席状況（20%）、授業態度（30%）、計画書の中身（25%）、個別テーマ設定の中身（25%）

《授業時間外学習》

実習先の訪問、実習先を始めとして精神保健福祉領域の社会資源を調べることは授業時間外学習となる。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	実習の目的と課題について
第2週	社会福祉実習において困った場面を抽出しロールプレイで振り返る
第3週	実習先調整
第4週	精神保健福祉領域の社会資源の理解
第5週	地域施設の精神保健福祉の実際（ゲスト）精神保健福祉士
第6週	精神病院の精神保健福祉の実際（ゲスト）精神保健福祉士
第7週	認知症患者と家族の理解（ゲスト）認知症家族の会
第8週	地域移行事業の課題
第9週	実習機関の学習成果の発表
第10週	面接場面ロールプレイ
第11週	グループワークロールプレイ
第12週	計画書作り
第13週	記録について
第14週	個別テーマ設定を行う
第15週	実習における留意点を確認する

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助実習				
担当者名	桐石 梢・村上 須賀子・光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

- 1、現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び援助並びに関連知識の理解を深める。
- 2、精神保健福祉士として必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3、職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5、関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神保健福祉実習の現場体験を踏まえ、精神保健福祉士としての知識及び技術並びに態度を習得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版 2009年

《参考文献》

浦河べてるの家『べてるの家の「非」援助論 そのままでいいと思えるための25章』医学書院 2002年

《成績評価の方法》

実習先の評価（30%）、実習記録（30%）、実習報告書（20%）、実習報告会（20%）で評価する。

《授業時間外学習》

実習報告書並びに実習報告会の準備は授業時間外学習となる。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現場実習の振り返り
第 2 週	現場実習の振り返り
第 3 週	現場実習の振り返り
第 4 週	現場実習の振り返り
第 5 週	実習報告書づくり
第 6 週	実習報告書づくり
第 7 週	実習報告書づくり
第 8 週	実習報告書づくり
第 9 週	実習報告書づくり
第 10 週	実習報告会の意味確認
第 11 週	実習報告会準備 成果と問題の整理
第 12 週	実習報告会準備 グループ討議
第 13 週	実習報告会準備 グループ討議
第 14 週	実習報告会準備 プレゼンテーション準備
第 15 週	実習報告会

《専門コース科目》

科目名	心理カウンセリング演習				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期などの人生の各時期の事例研究と、その時期のクライアントに適した心理療法について学ぶ。

《授業の到達目標》

2年次の「心理療法Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理学」を基礎にして、人のライフサイクルの各段階の事例研究から、ひとのこころの治療過程をより具体的に知る。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

「ライフサイクルの心理療法」松島恭子編 創元社

《成績評価の方法》

授業内でふれた事例ごとのレポート 50% 期末のレポート 50%

《授業時間外学習》

授業内でとりあげた事例に関連する新聞・専門誌等の記事などを自分でも集めておくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	乳児期
第 3 週	幼児期前期
第 4 週	幼児期後期
第 5 週	学童期①
第 6 週	学童期②
第 7 週	思春期①
第 8 週	思春期②
第 9 週	青年期前期
第 10 週	青年期後期
第 11 週	成人期
第 12 週	更年期
第 13 週	中年期
第 14 週	高齢期
第 15 週	心理カウンセリング演習のまとめ

《専門コース科目》

科目名	社会福祉特別演習			
担当者名	Sung Lai Boo・田端 和彦・浜島 成嘉・河野 真・吉原 恵子・牧田 満知子・今井 俊介・村上 須賀子・高橋 千代・稲富 恭・井上 浩・北島 律之・桐石 梢・琴浦 志津・本多 彩			
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期 4年・通年

《授業のねらい及び概要》

社会福祉士国家試験の合格を目指し、そのための学習を専門に行うことが授業の狙いです。また、一部ですが、精神保健福祉士の国家試験の対策講座を兼ねています。演習という名前からわかりますように、一方的に学生が教員から講義を受ける、というのではなく自主的に受験勉強に取組み、不明なところは教員に質問し、また国家試験受験科目については、担当教員から講義も受けます。受験勉強は繰り返しが必要です。友人と助け合いながら、合格を目指しましょう。

《授業の到達目標》

社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験に合格するための知識を身につけます。

《テキスト》

最初の授業時間の際に指示します。

《参考文献》

授業時間中に指示します。

《成績評価の方法》

出席・授業態度（50%）、模擬試験等の結果（50%）

《授業時間外学習》

授業時間だけでは国家試験に合格することは難しいと思われます。授業時間以外の学習が必要です。

《備考》

平成 20 年度入学生には必修科目となっています。社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験を受験しない、という受講者については、別の課題を与える予定です。なお授業計画については平成 23 年 3 月現在で策定中です。今後大幅な変更があると思われるので、教員の指示を確認して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 人体の構造と機能及び疾病
第 2 週	心理学理論と心理的支援
第 3 週	社会理論と社会システム
第 4 週	現代社会と福祉
第 5 週	社会調査と基礎
第 6 週	相談援助の基盤と専門職
第 7 週	相談援助の理論と方法 I II
第 8 週	地域福祉の理論と方法
第 9 週	福祉行財政と福祉計画
第 10 週	福祉サービスの組織と経営
第 11 週	社会保障
第 12 週	高齢者に対する支援と介護保険制度
第 13 週	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
第 14 週	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
第 15 週	低所得者に対する支援と生活保護制度（以下、Ⅱ期に続く）

《専門コース科目》

科目名	卒業演習			
担当者名	Sung Lai Boo・田端 和彦・浜島 成嘉・河野 真・吉原 恵子・牧田 満知子・今井 俊介・村上 須賀子・高橋 千代・稲富 恭・井上 浩・北島 律之・桐石 梢・琴浦 志津・本多 彩			
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期 4年・通年

《授業のねらい及び概要》

4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。そして自らの論文を皆の前で発表します。卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要で、さらにそれを論文として仕上げるための整理することや執筆することの能力が求められます。これらは演習Ⅰ、演習Ⅱを始めとする演習の他、各授業の中で能力として獲得されてきたことです。卒業論文は、学びの成果を発揮する最大の機会になります。なお内容や論文執筆までのスケジュールなどについては教員と密接に連携して進めて下さい。

卒業論文の提出の期限は12月上旬、発表は2月上旬です（締切り等の日程は国家試験等の日程を踏まえ、後日通知します）。

《授業の到達目標》

- ・卒業論文を執筆し発表します。
- ・卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることができます。
- ・卒業論文の発表によりプレゼンテーション能力を身につけることができます。

《テキスト》

指導教員の指示に従ってください。

《参考文献》

指導教員の指示に従ってください。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程、及び発表論文とその発表内容を踏まえて評価します。

《授業時間外学習》

文献の読解や資料収集、データ分析、執筆などは授業時間で実施することが難しく、多くが授業時間外での学習になります。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらくは最初の（そして、もしかしたら最後の）論文の執筆かもしれません。全ての能力を傾けて取り組んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
第 2 週	同上
第 3 週	同上
第 4 週	同上
第 5 週	同上
第 6 週	同上
第 7 週	同上
第 8 週	同上
第 9 週	同上
第 10 週	卒業論文の締め切りです。締切日、提出の方法は後日発表します。
第 11 週	卒業論文の発表に向けての準備を行ないます。
第 12 週	同上
第 13 週	同上
第 14 週	同上
第 15 週	卒業論文を発表します。日程は後日発表します。

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

授業のねらいは、教育実習の目的を達成することにある。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識と理論を統合化する。学校における実習においては、常に現場の指導教員と連絡を取りながら実習を効果的なものとするため、電話やメール等による学生とのカンファレンスおよび巡回指導を行う。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議などにより経験の共有化を図る。教育実習の主たる目的は、高等学校という現場において、観察や参加、研究授業等を行うことである。本科目を通して、「教えること」にかかわる旺盛な創造性と研究意欲をもって現場実習に臨むことができる力を養う。

《授業の到達目標》

- (1) 教職に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でどのように用いるのか説明できる。
- (2) 教科に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でどのように用いるのか説明できる。
- (3) 教職を希望する者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《テキスト》

『教育実習の研究』教師養成研究会（学芸図書、2001）

《参考文献》

- 『教育実習の新たな展開』有吉秀樹・長沢憲保（ミネルヴァ書房、2001）
『福祉教育論』村上尚三郎他（1998、北大路書房）
『福祉教育の理論と実践』阪野貢編著（2000、相川書房）

《成績評価の方法》

実習校による実習評価(50%)、およびレポート(50%)による総合評価

《授業時間外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って行動することが求められる。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教科「教育実習」の目的と方法の理解
第 2 週	1 教育実習の全体（1） 1) 教員養成と教育実習 2) 教育実習の目的
第 3 週	1 教育実習の全体（2） 3) 教育実習の展開 4) 教育実習の心得
第 4 週	2 教育実習の内容（1） 1) 学校経営 2) 学校の組織
第 5 週	2 教育実習の内容（2） 3) 生徒の理解 4) 教育課程 5) 学習指導
第 6 週	4 教育実習の実際（1） 1) 教材研究の実際 2) 学習指導の実際
第 7 週	4 教育実習の実際（2） 3) 学習指導案の事例
第 8 週	4 教育実習の実際（3） 4) 授業研究の実際
第 9 週	4 教育実習の実際（4） 5) 道徳・特別活動・生活指導の実際 6) 教育実習の評価
第 10 週	5 教育の方法及び技術（1） 1) 授業の仕組みとはたらき
第 11 週	5 教育の方法及び技術（2） 2) 教育方法および教育技術
第 12 週	6 教材研究と指導案づくり（1）
第 13 週	6 教材研究と指導案づくり（2）
第 14 週	7 模擬授業（1）
第 15 週	7 模擬授業（2）